



Mapping for System i

導入および利用ガイド 基本編

第 1.6.2 版

2010/11/05

インフォプリント・ソリューションズ・ジャパン株式会社

＜ 目 次 ＞

第 1 章 – Mapping を System i にインストールする	4
1. 最初に.....	4
2. 前提条件	4
3. 手順	4
4. インストール	6
5. ライセンス・キー導入.....	10
5-1 無制限またはオンデマンドのソフトウェア・ライセンス・キーを入力する	10
5-2 オンデマンドのソフトウェア・ライセンス・キーにページ・リフィル・キーを入力する	11
6. 導入後の作業	12
第 2 章 – MapDraw を PC にインストールする	14
1. 最初に.....	14
2. 前提条件	14
3. 手順	14
4. インストール	15
5. 導入後の作業	20
6. System i への接続の設定	20
第 3 章 – MapDraw を利用して帳票設計する	23
1. 最初に.....	23
2. 手順	23
3. マッピングするスプール・ファイルを MapDraw で参照できるようにする	23
4. MapDraw による Mapping フォーマットの設計	25
4-1 MapDraw でのスプール・ファイルの表示	25
4-2 【設計例1】受注エラーチェックリスト	29
4-2-1 プロジェクトのプロパティ	29
4-2-2 オーバーレイの作成	31
4-2-3 スプールデータのマッピング	31
1) グループの作成	31
2) ゾーンの作成	32
3) プレビュー	35
4-3 【設計例2】テルジャパン請求明細書	36
4-3-1 プロジェクトのプロパティ	36
4-3-2 オーバーレイの作成	37
1) 4つの長方形と表の作成	37
2) オブジェクト(長方形)のコピー	38
3) オブジェクトの位置合わせ	39
4) 表の作成	40
5) 網かけの背景の作成(表のヘッダー)	42
6) オブジェクトを塗りつぶす色の選択	43
7) 複数のオブジェクトの関連付け	44
8) ロゴの挿入	45
9) テキスト・ゾーンの作成	46
10) フォントおよびフォント・サイズの変更	47
11) グラフィカル・オブジェクトとテキスト・ゾーンの位置合わせ	48
12) オーバーレイの出力	48

4-3-3	スプールデータのマッピング	48
1)	固定ゾーンの作成	48
2)	バーコードの追加	50
3)	グループの作成	52
4)	「請求書明細」のグループ	55
5.	プロジェクトの保存と MapDraw フォーマットの生成	56
5-1	PCL 出力と PDF 出力に共通の生成作業	57
5-2	PDF の生成について	58
6.	MapDraw フォーマットの取込み	61
第 4 章 – Mapping 処理の実行		64
1.	MAPPCYSPFL コマンド	64
2.	MAPSPLPDF コマンド	69
3.	Mapping による対話型のスプール・ファイル処理	72
4.	MAPIFS2PRT コマンド	74
補足		76
1.	MAP400 のダウンロード方法	76
2.	MapDraw のダウンロード方法	80
3.	バーコード・フォントのダウンロード方法	84

ガイドの目的

このガイドは、Mapping Suite をシステムへ導入し、Mapping の基本機能を利用できるようになる事を目的として作成されています。次のような目的で利用できます；

- ソフトウェアのシステム導入手順のガイダンスとして
- しばらくソフトウェアを使用していなかった場合の備忘録として

対象読者

Mapping Suite for System i のシステム管理者、もしくは、ソフトウェア利用者（一部 SE 向け）

ガイドの使用方法

章ごとに異なるトピックを扱っていますので、目次を参照して必要に応じて参照してください。

第 1 章 – Mapping を System i にインストールする

1. 最初に

この章では IBM System i に Mapping ソフトウェアをインストールする方法を説明します。

2. 前提条件

- QSECOFR のパスワードを確認しておく必要があります。
- System i のシリアル番号、モデル番号、プロセッサ・タイプを確認しておく必要があります。
※確認の為 iSeries の 3 項目の値を取得するには、別マニュアル「iSeries にソフトウェア・ライセンス・キーをインストールするために必要な値を見つける方法」を参照してください。

最小要件:

- OS/400 のバージョン: V4R5M0 以上
- ディスクの空き容量: 120MB
- FTP で System i にアクセスできること

3. 手順

事前準備:

1. PCOM5250 セッション定義の画面サイズを 27 行 × 132 桁、ホスト・コード・ページを 939 (日本語英数小文字拡張) に設定して下さい。
2. 「QSECOFR」でサイン・オンします。
注: 必ず「QSECOFR」でサイン・オンしてください。
3. ジョブの CCSID が「5035」である必要があります。もし、5035 でない場合は、5035 に変更してください。
コマンド: CHGJOB CCSID(5035)
4. インストール媒体を準備します。(保管ファイル MAP400.SAVF が必要です。)
 (MAP400.SAVF は MAPPING 社のサイトからのダウンロードも可能ですが、インフォプリント・ソリューションズ・ジャパン(株)が CD で提供します。Mapping 社のサイトからダウンロードする場合、手順は巻末の「補足 MAP400.SAVF のダウンロード方法」を参照してください。)

手順:

1. 復元用の保管ファイルを作成します。
 例) CRTSAVF FILE(QGPL/MAP400)
2. ダウンロードした MAP400.SAVF を System i の保管ファイルへ転送します。
 Windows のスタート・メニューから、[すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を選択する。
 MAP400.SAVF が保管されているディレクトリーをカレントディレクトリーにした後、FTP を使用して System i へ転送する。
手順例)
 FTP x.x.x.x (これは System i の IP アドレスです。これはお客様の環境によって異なります。)
 System i にログオン: user
 pwd
 Binary (バイナリー・モードに設定)
 Cd qgpl (System i 上の「MAP400.SAVF」(手順 1 で作成した保管ファイル) が存在するライブラリーを指定)

Put map400.savf

Close

Quit(FTP の終了)

Exit(コマンドプロンプトの終了)

3. 保管ファイルから QTEMP にオブジェクトを復元します。

例) RSTOBJ OBJ(*ALL) SAVLIB(QTEMP) DEV(*SAVF) SAVF(QGPL/MAP400)

4. 次のインストール用コマンドを実行してください。

CALL PGM(QTEMP/RUNSETUP)

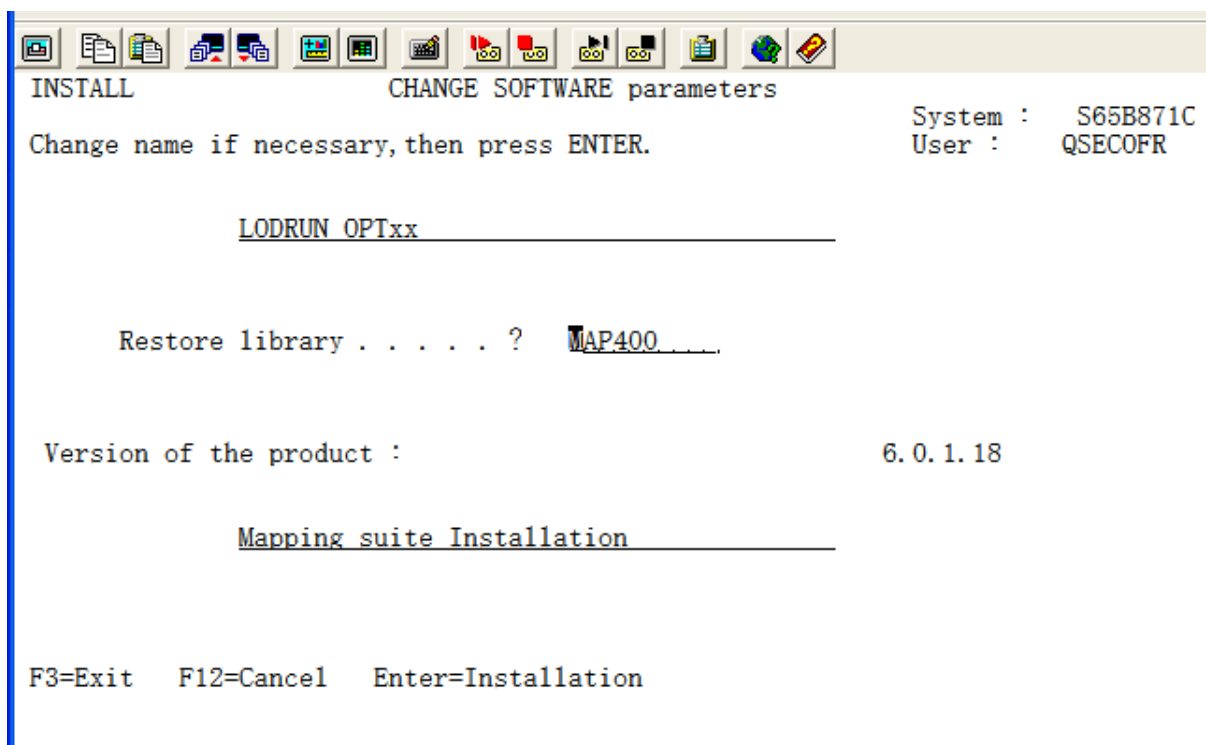
5. p.6 の「4. インストール」に進んでください。

6. p.10 の「5. ライセンス・キー導入」に進んでください。

7. p.12 の「6. 導入後の作業」に進んでください。

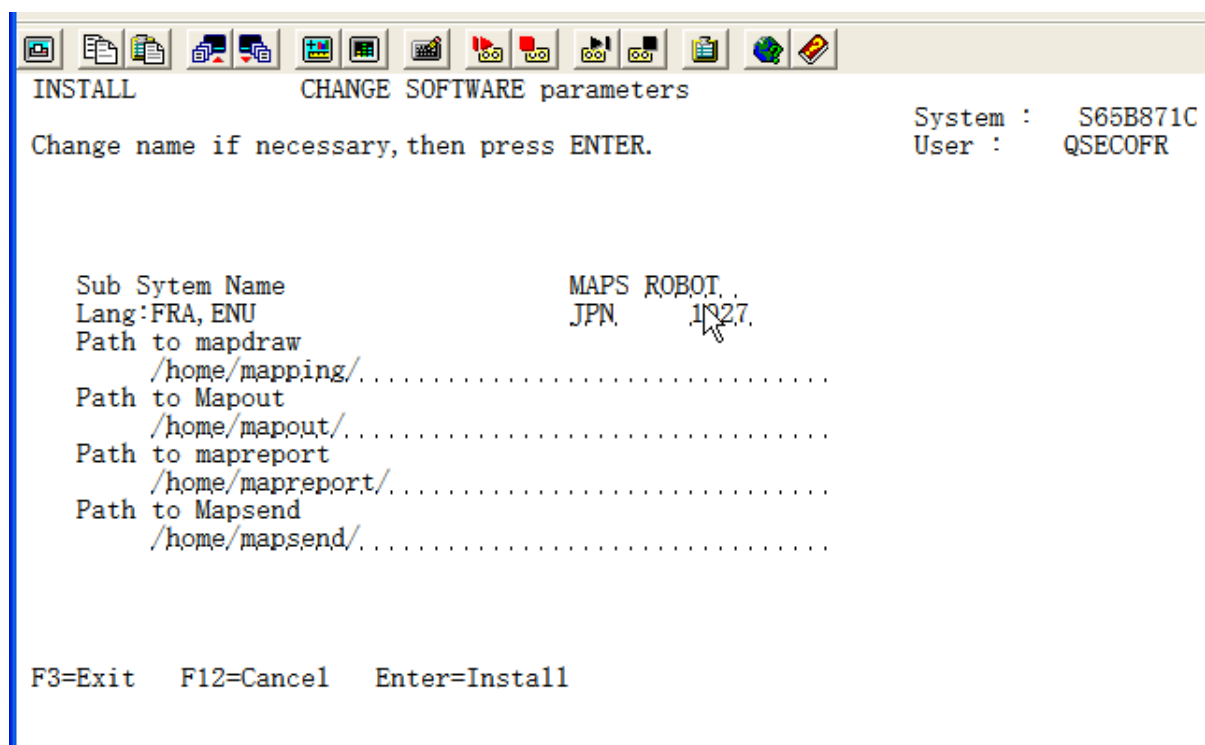
4. インストール

- インストールするライブラリー名を指定します。(通常は MAP400 としておくことを推奨します)

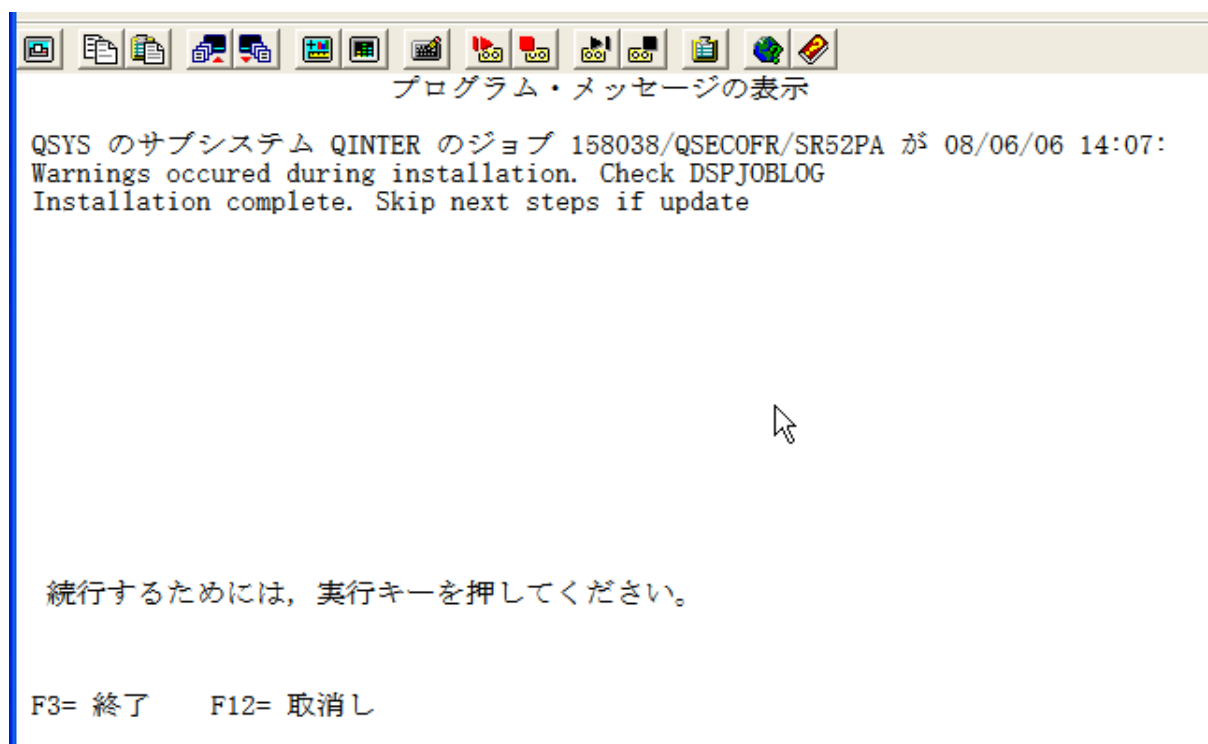


Enter キーを押します。

- サブシステム名を指定します。(通常は ROBOT としておくことを推奨します)
- システム言語とコードページを指定します。(言語: JPN、コードページ: 1027 を指定)
日本における動作検証の結果、日本語環境ではコードページ 1027 を指定してください。
- 各ディレクトリーを指定します。(デフォルト値を推奨します)



内容確認後、Enter キーを押してインストールを開始します。



この画面はインストール完了時に表示されます。Enter キーを押します。

この後、ライセンス・キーを入力する画面が表示されます。

後述する「5. ライセンス・キー導入」の「無制限またはオンデマンドのソフトウェア・ライセンス・キーを入力する」の手順を用いて、キーを入力してください。なお複数のキーを受け取る場合でも、この時点で入力するキーはどれか1つで構いません。(残りのライセンス・キーの入力は、この後のステップで実施します。)

ここで F3 キーでの終了は行わないでください、インストールが中断されてしまいます。

ライセンス・キーの入力後、「環境設定画面 (ENVIRONMENT SETUP)」が表示されます。(次頁参照)

- 会社名:アーカイブ用に使用します。(任意の値を指定できます。)
- 言語ファイルと言語 ID を指定します。(言語ファイル:MAPMSGJPN、言語 ID:JPN を指定)
- 桁区切り文字を指定します。(「,」半角カンマを指定)
- 小数点文字を指定します。(「.」半角ピリオドを指定)
- ユニコード・サポートを指定します。(「UCS2」を指定)
- CCSID は参考値です。通常は QCCSID の値がセットされます。例:65535 or 5035 etc)
- コードページは 1027(前の画面で設定した値)がセットされます。
- 上記以外の項目はデフォルト値を推奨します。

MAP_004 システム CARME
9/03/17 11:20:24

選択項目を入力後、実行キーを押してください。

会社名 : COMPANY
 プログラム・ライブラリー : MAP400
 ファイル・ライブラリー : MAP400
 言語ファイル + 言語 ID : MAPMSGJPN JPN
 MAPOUT の保管パス : /home/mapout/
 ページ・オーバーレイのパス : /home/mapping/
 MAPREPORT のパス : /home/mapreport/
 MAPREPORT の使用ポート : 9012
 Archive release : 5.1
 桁区切り : 小数点
 ユニコードのサポート (空白又は UCS2) : UCS2
 CCSID とコード・ページ : 65535 1027
 変換テーブル (保管用) : Q037 19U Lib: *LIBL
 変換テーブル (取込用) : Q19U 037 Lib: *LIBL
 MAPOUT の印刷幅 : 132
 新しいスプール・ファイル名 : \$
 Merge Ovl, Fonts and Data : 0 SBS
 Ip Port
 F1= ヘルプ F3= 終了 F12= キャンセル

MID a MIV 英数 半角
 I902 - セッションが正常に開始されました

以下のいずれかの方法でインストールの結果を確認します。

- DSPJOBLOG コマンドでログを確認します。
- サインオフを行う時に、JOBLOG パラメーターに*LIST (SIGNOFF *LIST)とすると JOBLOG のスプール・ファイルにエラーや警告が出力されます。

➡ 引き続き、ライセンス・キーの導入処理を実施してください。

5. ライセンス・キー導入

5-1 無制限またはオンデマンドのソフトウェア・ライセンス・キーを入力する

システムにソフトウェアがインストールされたら、**MAPKEY** コマンドを使用して対応するソフトウェア・ライセンス・キーを入力して、お買い求めいただいたソフトウェアの機能およびオプションを有効にする必要があります。これを行うまでは、すべての機能およびオプションが「ロック」されたままなので、ソフトウェアを使用することができません。

コマンド・ラインで、「MAPKEY」と入力し、**実行キー**を押します。

情報を入力後、実行キーを押してください。			
シリアル番号	65B8	プロセッサタイプ	8325
モデル番号	520	プロセッサタイプ	8325
プロダクト番号	0		
ライセンス・キー :	_____	_____	_____

ライセンス・キーを入力する前に、ライセンスが該当システム向けに発行されたキーかを確認する必要があります。確認項目は、上の画面の 3 項目についてです。

- シリアル番号:xxxxxx (例: 65B8xxx)
- モデル番号:xxx (例: 520)
- プロセッサ・タイプ:xxxx (例: 8325)

キーの入力の前提条件として、この 3 項目と、ライセンス票(電子メール等の場合もある)に記載されている該当の 3 項目全てが合致している必要があります。

※確認の為 iSeries の 3 項目の値を取得するには、別マニュアル「iSeries にソフトウェア・ライセンス・キーをインストールするために必要な値を見つける方法」を参照してください。

キーの取得方法には、2 つの方法があります。

事前に iSeries の 3 項目の値を MAPPING 社へ送り、電子メールで MAPPING 社から受けとる方法。

※Mapping 社からのメールは xxx@mappingsuite.com から英語で届きます。誤って廃棄しないようにしてください

又は、自身で <http://server.mappingsuite.com> のお客様 Web サイトでキーを生成する方法。

※Web サイトでキーを生成する方法については、別マニュアル「ソフトウェア・ライセンス・キーを取得する」を参照してください。

取得したキーを基に、キーを入力します。

ページ数無制限(つまり、無制限のソフトウェア・ライセンス・キー)をお買い求めいただいている場合、必要な作業は、これですべて終了しましたので、ソフトウェアの使用ができます。

ページ数の制限がある(つまり、オンデマンドのソフトウェア・ライセンス・キー)をお買い求めいただいている場合、ページ・リフィル・キーを入力して、お買い求めいただいたページ数を登録しなければ、ソフトウェアの使用ができません。

ページ・リフィル・キーの入力手順については、次頁を参照してください。

5-2 オンデマンドのソフトウェア・ライセンス・キーにページ・リフィル・キーを入力する

オンデマンドのソフトウェア・ライセンス・キーと共にページ・リフィル・キーを入力して、お買い求めいただいたページ数分の処理ができるようにします。ページ・リフィル・キーは、お買い求めいただいたページ数をソフトウェアに補充します。

ページ・リフィル・キーは、**MAPKEY** コマンドではなく **MAPADDPTS** コマンド(**MAPping ADD PointS**)を使用して入力します。

コマンド・ラインで、「MAPADDPTS」と入力し、**実行キー**を押します。

```
選択項目またはコマンド
====> MAPADDPTS
```

情報を入力後、実行キーを押してください。

```
ID : 8a118e00 (0)
保管パス /home/mapping/key/map_key.key
シリアル番号 : 65B8
残りの処理数 0.0
購入した処理数 0.0
次回リセット : Thu Sep 11 17:25:39 2008
キーの種類 : 1
ライセンス・キー : _____
                    _____
```

表示される情報

- (1) ID: 固有の ID です。
最初に MAPADDPTS コマンドを実行するとシステムによって自動生成されます。**この ID は重要です。**

ページ・リフィル・キーの入手のためには以下の手順を踏む必要があります。
1. 最初に MAPADDPTS コマンドを実行して自動生成された ID を記録します。
2. この ID を、MAPPING 社から受け取ったソフトウェア・ライセンス・キー情報と共に、インフォプリント・ソリューションズ・ジャパンのメールアドレス mapping_jp@infoprint.com までお送りください。
3. その後、MAPPING 社より、送られた ID に基づいて生成されたページ・リフィル・キーが送付されます。
- (2) 残りの処理数: 残りの利用可能枚数。1 年後の同じ日に、お買い求めいただいたページ数にカウンターがリセットされます。上の例では、次のリセットは 2008 年 9 月 11 日木曜日の 17:25 です。
- (3) 購入した処理数。
- (4) キーの種類: キーと同時に入力が必要です。例えば、入力するキーがリフィル・キーまたは緊急キーの場合には、ここに 1 をセットします。
- (5) ライセンス・キー: 電子メールで MAPPING 社から受けとった、または自身で <http://server.mappingsuite.com> のお客様 Web サイトから取得したページ・リフィル・キーを入力します。

ページ・リフィル・キーの例

ページ・リフィル・キーは、6 桁の英数字の連続が 6 つと、さらに 2 桁の制御文字で構成されています。

01ECA5 046D0 D829DE 7086D1

00D100 D00000 D0

6. 導入後の作業

Mapping for System i のフィックス(プログラム修正)の適用:

必要に応じて Mapping ソフトウェアのフィックス(プログラム修正)を適用します。フィックスの具体的な適用方法については、まず以下の資料をご確認下さい。(資料はCD内にあります。)

- ・ 「Mapping_System_i_累積的なフィックスの適用」
- ・ 「Mapping_System_i_V6R1対応フィックスの適用」

その他に個別のフィックスがある場合もあります。その場合には、インフォプリント・ソリューションズ・ジャパン(株)からガイド致しますのでそれに従ってください。

Mapping 提供のユーザー・プロファイル「MAPPING」の設定:

必要に応じて Mapping 提供のユーザー・プロファイル「MAPPING」を適切な状態に設定します。

ユーザー・プロファイル「MAPPING」は、パスワードがセットされていない状態で出荷されます。このユーザーを対話的に、あるいは MapDraw から利用するためにはパスワードをセットする必要があります。その為には以下の手順を踏んでください。

コマンドラインで WRKUSRPRF USRPRF(MAPPING)を実行する。

実行後、オプション 2 の変更で、MAPPING のパスワードをセットする。

ユーザー・プロファイル「MAPPING」は、Mapping for System i の自動実行サブシステム Robot で使用されます。Robot 配下で実行される Mapping コマンドを実行するジョブは、ジョブの CCSID が 5035 である必要があります。これを簡単に実現するためには、以下の手順を踏んでください。

コマンドラインで WRKUSRPRF USRPRF(MAPPING)を実行する。

実行後、オプション 2 の変更で、MAPPING の CCSID を 5035 にセットする。

Mapping で使用される OUTQ「PRT01」の作成:

現時点では、Mapping for System i は実行時に出力待ち行列「PRT01」が存在している必要があります。もしシステム上にこれが存在していない場合には、例えば以下の手順を踏んでください。

コマンドラインで CRTOUTQ OUTQ(QGPL/PRT01)を実行して、PRT01 を作成する。

System i 上での環境変数 DBCSSIZE2 の設定:

現時点では、Mapping for System i で日本語を扱う場合、環境変数 DBCSSIZE2 を作成し、値を '1' に設定する必要があります。これは Mapping の機能を使用する各ジョブで必要ですが、この環境変数をシステム・レベルで設定すれば、Mapping 使用の際の手間が省けます。例えば以下の手順を踏んでください。

コマンドラインで ADDENVVAR ENVVAR(DBCSSIZE2) VALUE('1') LEVEL(*SYS) と実行する。

※ENVVAR のパラメーター値[DBCSSIZE2]は必ず、大文字で指定してください。

System i 上での環境変数 MAPPINGPDFNOCOMPRESS の設定:

環境変数 MAPPINGPDFNOCOMPRESS は PDF の作成速度と作成された PDF のサイズに関するオプション設定です。環境変数 MAPPINGPDFNOCOMPRESS を作成し、値を '1' に設定すると PDF の作成速度は速くなりますが、設定しなかった場合に比較して PDF のサイズは大きくなります。

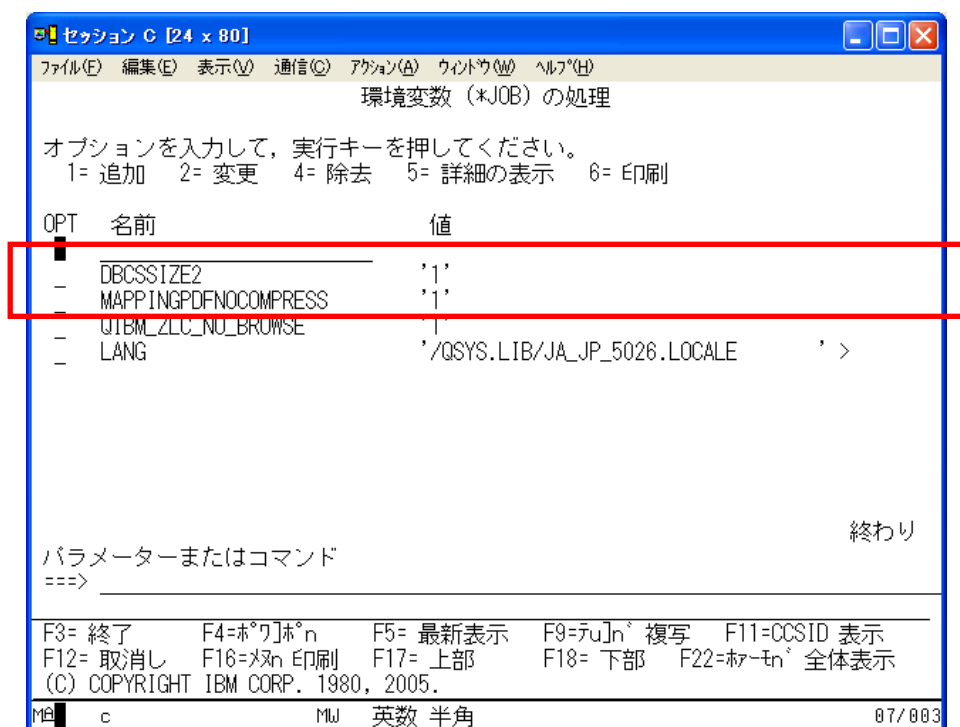
PDF の作成速度とサイズのどちらを重視するかによって設定するかどうかを判断してください。

設定する場合には環境変数 DBCSSIZE2 と同様に例えば以下の手順を踏んでください。

コマンドラインで ADDENVVAR ENVVAR(**MAPPINGPDFNOCOMPRESS**) VALUE('1') LEVEL(*SYS) と実行する。

※ENVVAR のパラメーター値[MAPPINGPDFNOCOMPRESS]は必ず、大文字で指定してください。

これらの環境変数の設定が終わった後に開始するジョブでは、コマンド WRKENVVAR を実行すると、以下のような画面(枠内)が確認できるはずですが。



第 2 章 - MapDraw を PC にインストールする

1. 最初に

この章では Windows PC に MapDraw ソフトウェアをインストールする方法を説明します。

2. 前提条件

- サーバー (System i) の IFS 上に作成された Mapping 用のディレクトリーが、NetServer 機能により共用フォルダーとして PC から利用可能になっていること
導入時のパラメーター「Path to mapdraw」(P.7 参照)で指定されているディレクトリー (デフォルトでは /home/mapping/) が Windows の Explorer からアクセス可能になっていることを確認してください。
この資料では、IFS ディレクトリー /home が共用フォルダーとして公開され、Windows からは Z: ドライブとしてマップされているものと想定して説明します。(注: /home は一般に各ユーザーの個人用ディレクトリーを配置する場所として使われま
す。)
- 上記フォルダーへの書き込みアクセス権限
- PC へのソフトウェア・インストール用の管理者権限

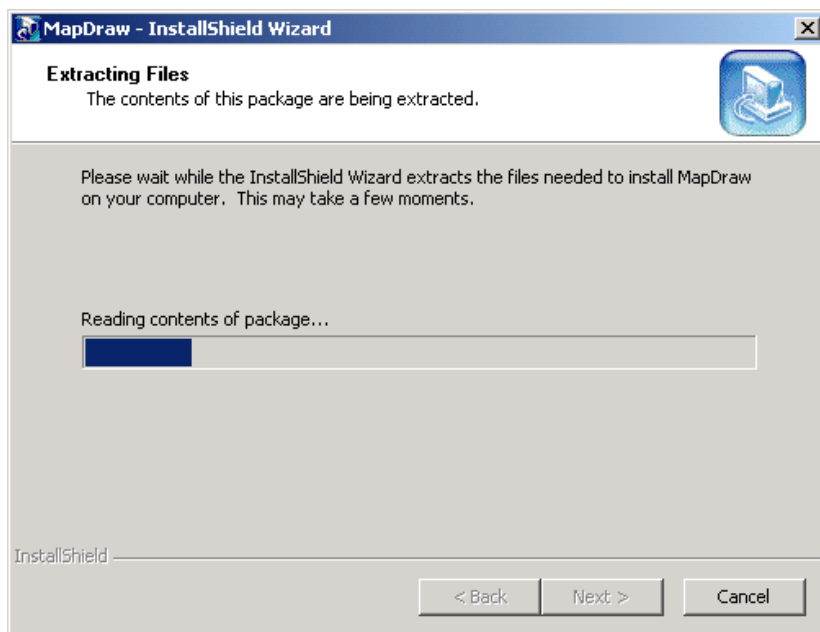
最小要件:

- Pentium III 800 MHz (または同等)
- Windows 2000、XP または 2003
- 128 MB の RAM
- 20 MB の空きディスク容量

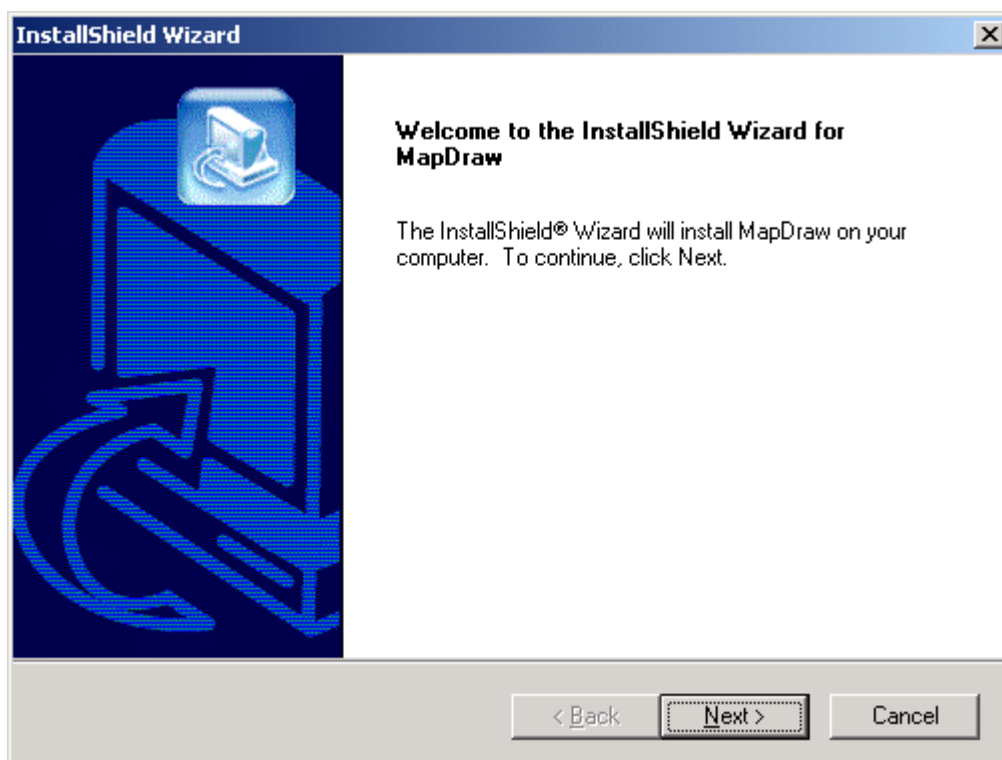
3. 手順

1. セットアッププログラムを準備します。
セットアッププログラムはインフォプリント・ソリューションズ・ジャパン(株)が CD で提供します。
もしくは Mapping 社のサイトからダウンロードすることも可能です。
※ダウンロードの手順は巻末の「補足 MapDraw のセットアッププログラムのダウンロード方法」を参照してください。
2. Windows PC でセットアッププログラムを実行します。p.15 の「4. インストール」に進んでください
3. p.20 の「5. 導入後の作業」に進んでください。
4. p.20 の「6. System i との接続の設定」に進んでください。

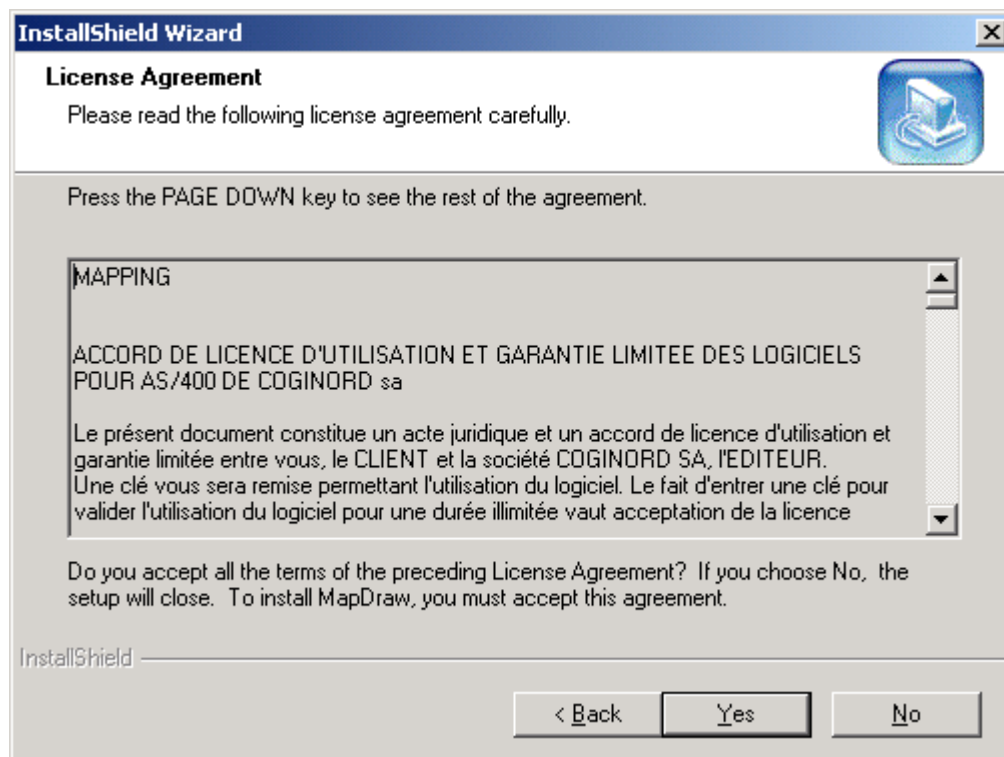
4. インストール



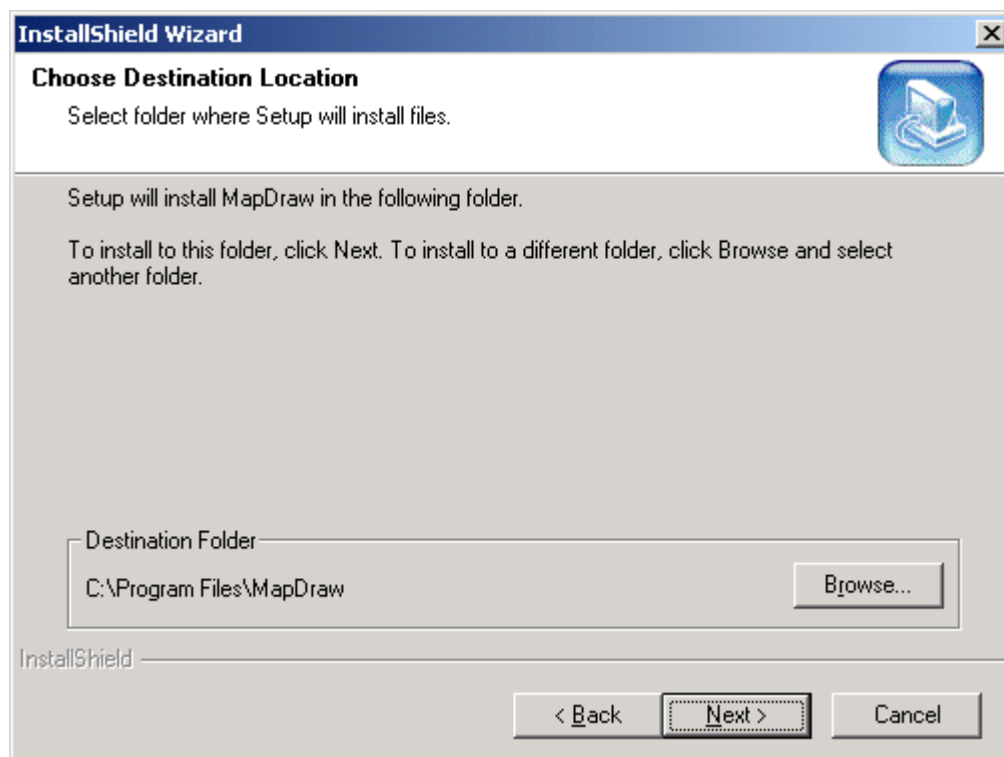
「Next >」をクリックして、インストールを開始します。



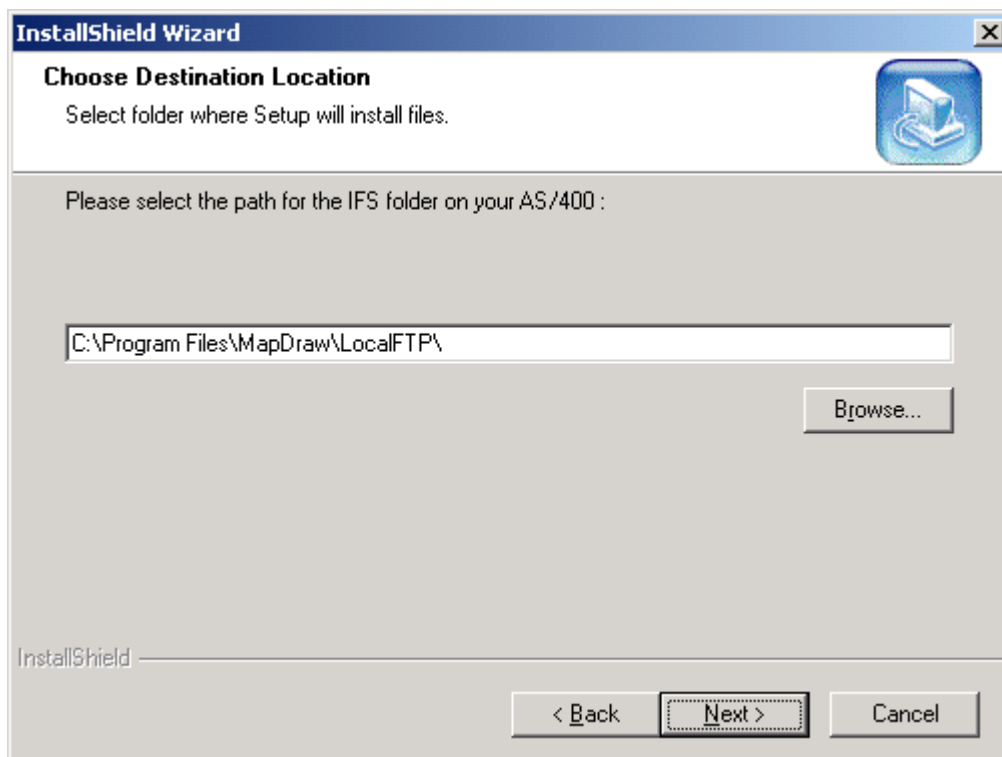
使用許諾契約に同意する場合は、「Yes」をクリックします。



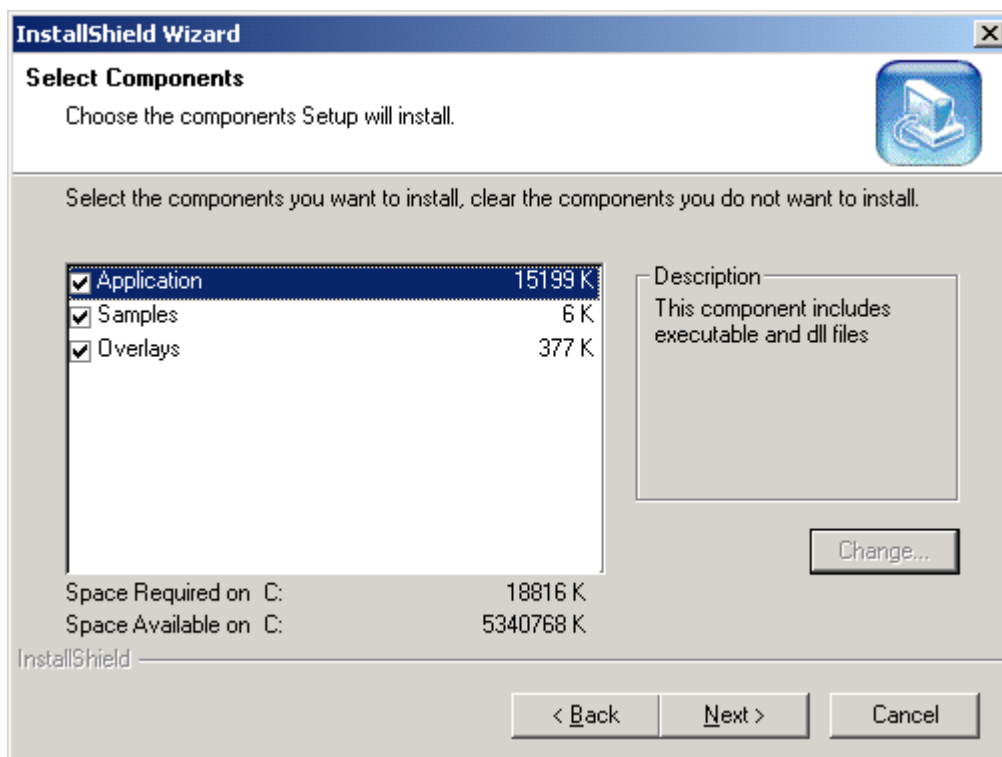
必要ならインストール先のディレクトリーを変更し、「Next >」をクリックします。



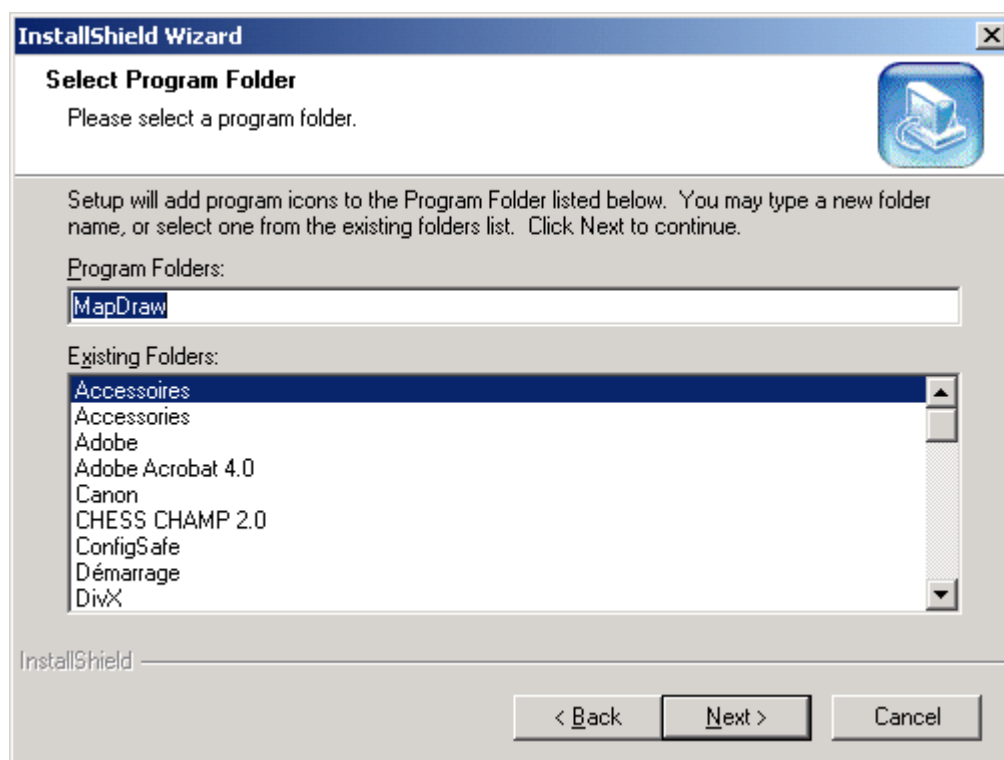
System i 上の IFS フォルダーのパスを選択し、「Next >」をクリックします。



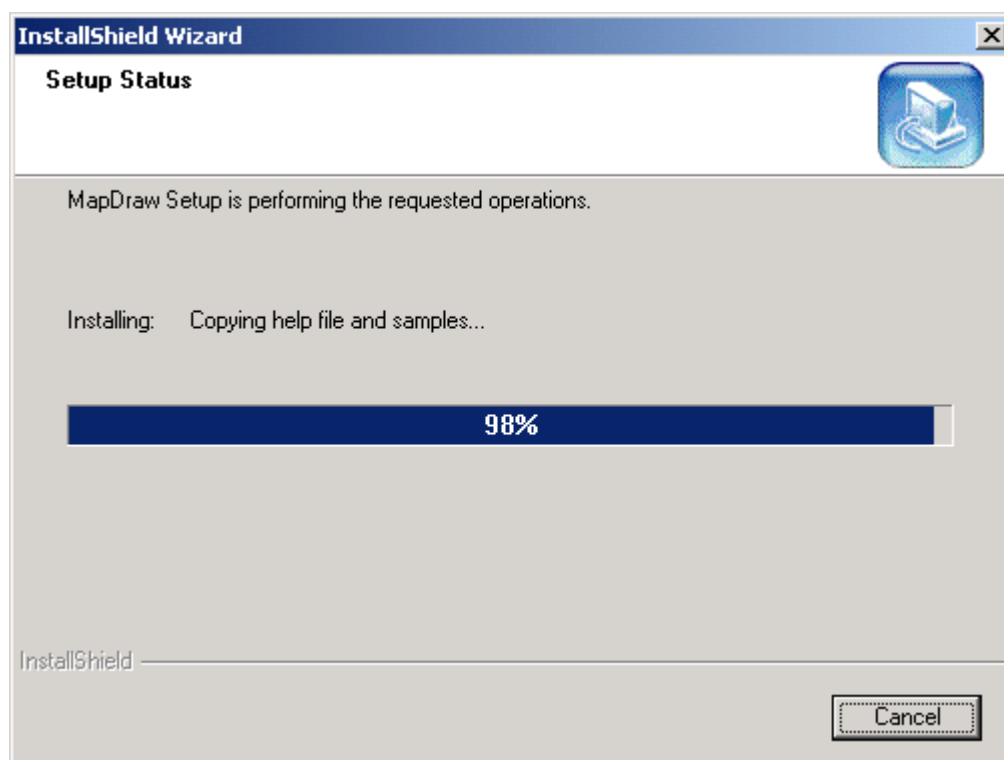
「Next >」をクリックして、すべてのコンポーネントをインストールします。



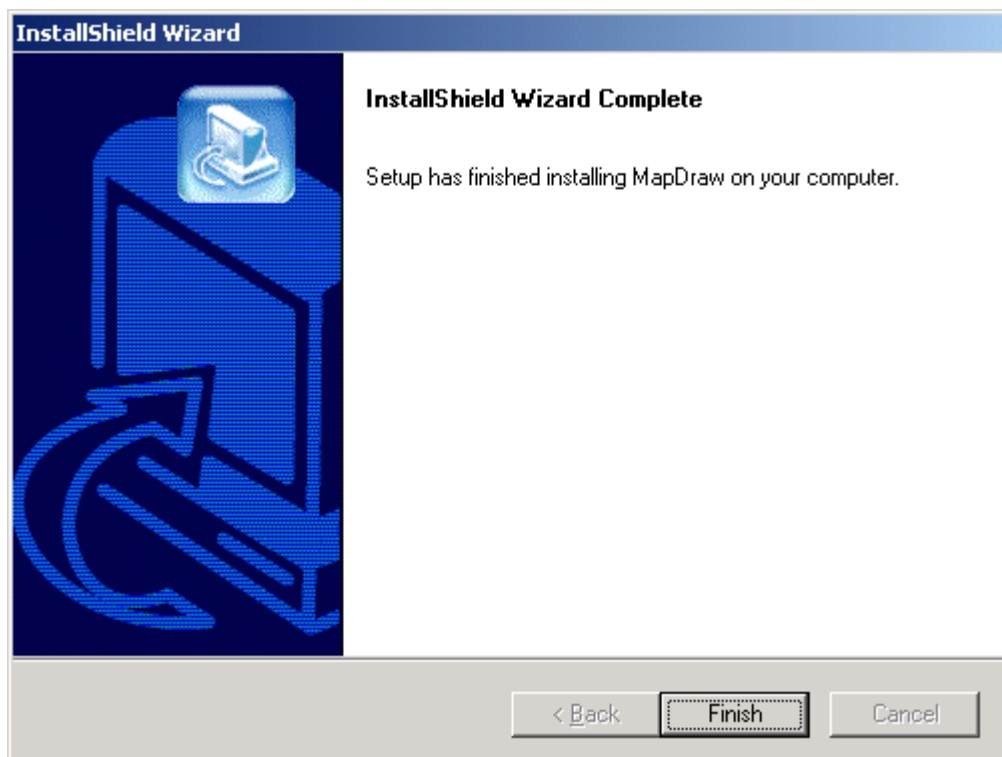
必要なら、Windows プログラム・メニューでのショートカットを変更し、「Next >」をクリックします。



インストール・プロセスが終了するのを待ちます。



「Finish」をクリックして、インストール・ウィザードを終了します。



注:

MapDraw を利用するのにソフトウェア・ライセンス・キーは必要ありません。Mapping for System i のライセンスを保有していれば、必要な台数分の PC に MapDraw をインストールして構いません。

5. 導入後の作業

MapDraw のフィックス(プログラム修正)の適用:

必要に応じてMapDrawのフィックス(プログラム修正)を適用します。フィックスの具体的な適用方法については、まず以下の資料をご確認下さい。(資料はCD内にあります。)

- ・ 「MapDraw_フィックスの適用」

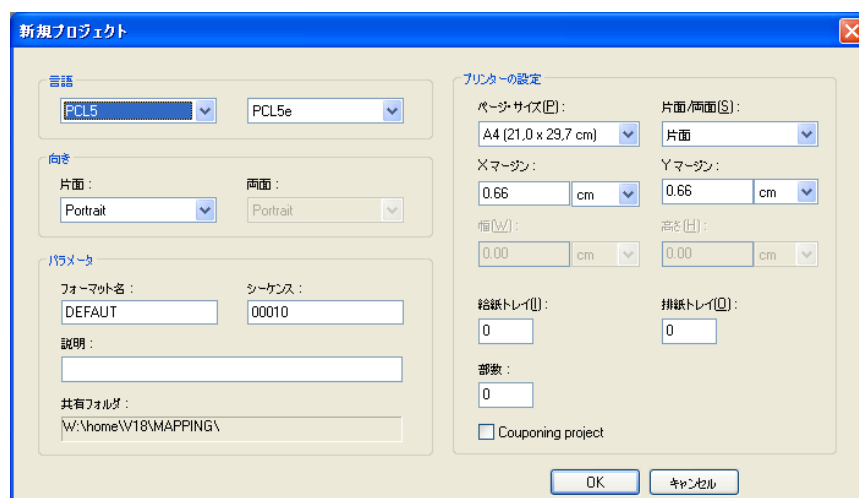
その他に個別のフィックスがある場合もあります。その場合には、インフォプリント・ソリューションズ・ジャパン(株)からガイド致しますのでそれに従ってください。

6. System i への接続の設定

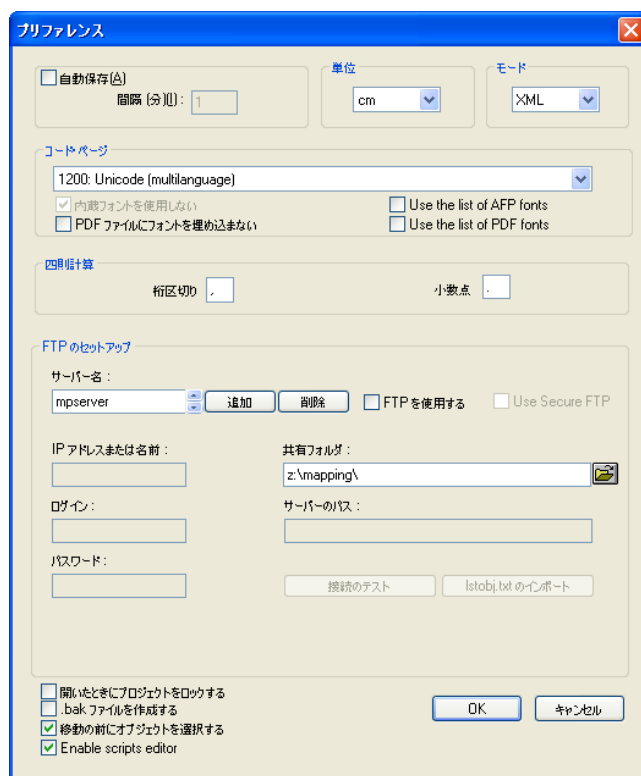
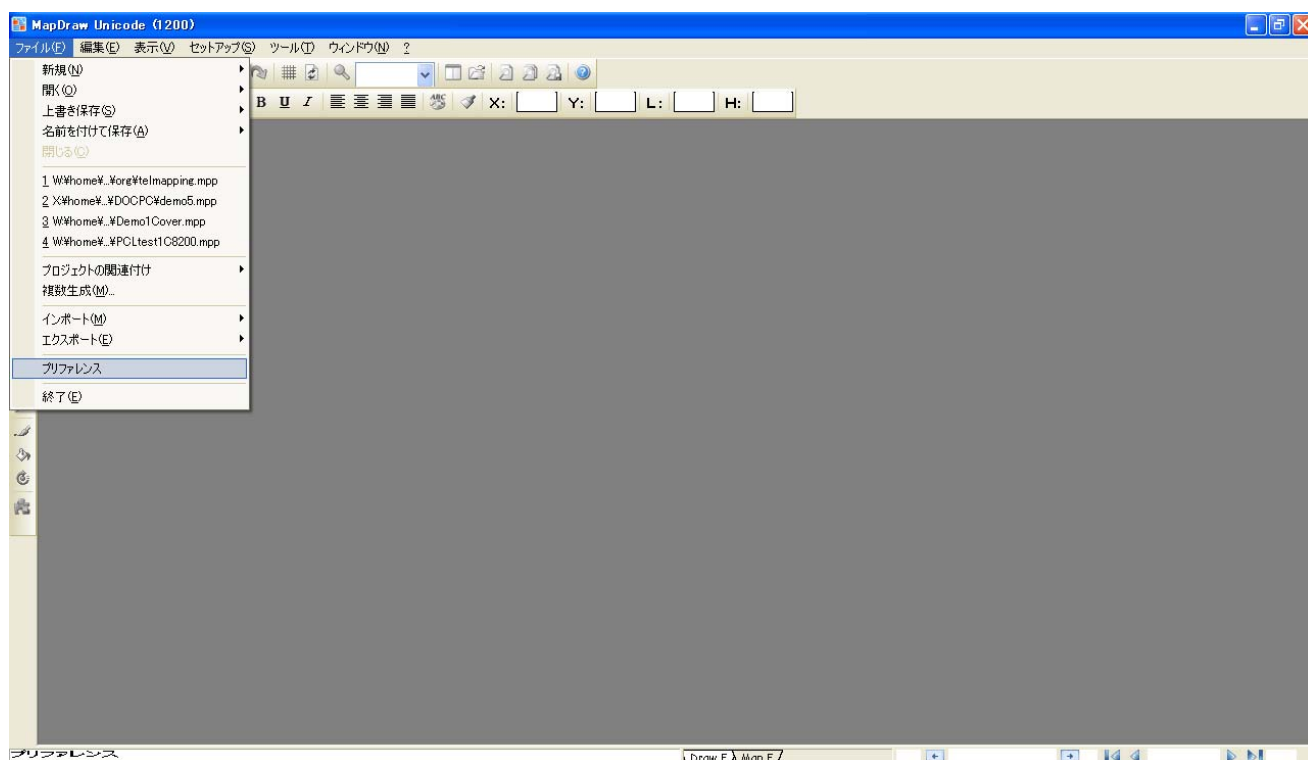
この資料では、IFS 上の共有フォルダーを利用して System i へ接続する方法を記述します。

※IFS を Windows クライアントから共有フォルダーとして参照する事ができない場合には、iSeires ナビゲーター (iSeries Access)を利用して NetServer の設定を行ってください。詳細は IBM System i のマニュアルを参照してください。

1. Windows のスタート・メニューから[MapDraw Unicode]を起動します。
新規プロジェクト画面が表示されます。ここでは「キャンセル」ボタンを押してください。



2. [ファイル]メニューから、[プリファレンス]を選択します。



- | | |
|-------------|---|
| [モード] | 「XML」を指定します。(「スプール」という選択肢がありますが、現時点では「XML」を指定してください。) |
| [コードページ] | 「1200 Unicode」を指定します。 |
| [サーバー名] | Mapping サーバーを識別できる任意の名称を入力します。(ここでは「mpserver」と指定)」 |
| [FTP を使用する] | チェック無し。 |

[共有フォルダー] System i の NetServer 経由で接続される IFS 上のディレクトリーを指定します。導入時のパラメーター「Path to mapdraw」(P.7 参照)で指定したディレクトリー (デフォルトでは /home/mapping/) を設定してください。また、文字列の最後に必ずバックスラッシュ「\」を入力してください。この例では、IFS の /home が PC 側の Z:ドライブにマップ(割当)されていると想定しています。つまり IFS の /home/mapping/ が PC の Z:%mapping% に対応しますので、これを指定します。

※ネットワーク コンピュータまたはフォルダにドライブ文字を割り当てる手順 (一例)

1. マイ コンピュータを開きます。
2. [ツール] メニューの[ネットワーク ドライブの割り当て] をクリックします。
3. [ドライブ] で、ドライブ文字を選択します。
4. [フォルダ] ボックスに、サーバー名、および対象のコンピュータまたはフォルダの共有名を入力します。(例 : ¥¥<サーバー名>%<共有名> または [参照] をクリックして、コンピュータまたはフォルダを検索します。)
5. ログオンするたびに割り当て済みのドライブに再接続するには、[ログオン時に再接続する] チェック ボックスをオンにします。

「OK」ボタンをクリックして登録します。これで MapDraw の環境設定は完了です。

第 3 章 – MapDraw を利用して帳票設計する

1. 最初に

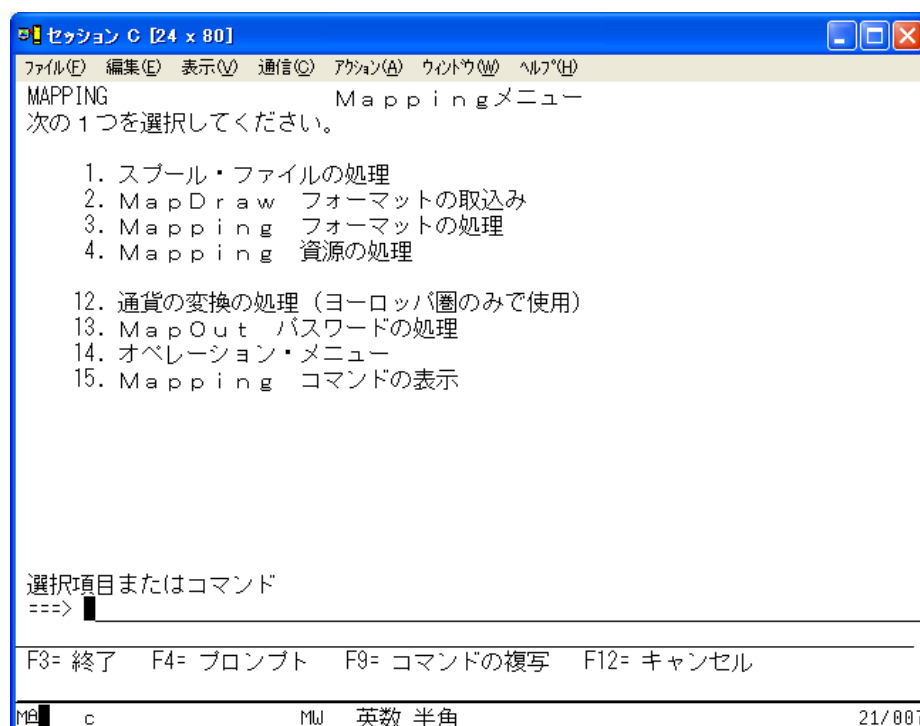
この章では Windows PC で MapDraw を利用して新規に帳票レイアウトを作成し、System i に保管する方法を説明します。

2. 手順

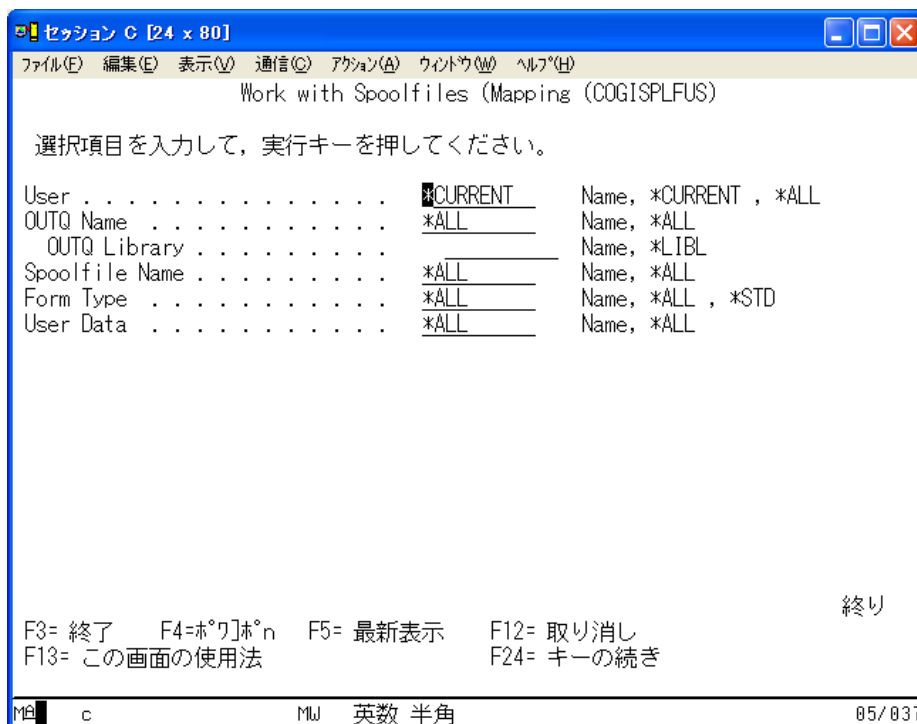
1. PCOM5250 セッション定義の画面サイズを 27 行 × 132 桁、ホスト・コード・ページを 939 (日本語英数小文字拡張) に設定して下さい。
2. System i にサイン・オンします。
 - 1) ジョブの CCSID が「5035」である必要があります。もし、5035 でない場合は、5035 に変更してください。
コマンド: CHGJOB CCSID(5035)
 - 2) ライブラリー・リストに「MAP400」がある必要があります。もし、なかった場合は、ライブラリー・リストに追加してください。
コマンド: ADDLIB LIB(MAP400)
3. マッピングするスプール・ファイルを MapDraw で参照できる形式 (.PAG ファイル) に変換します。
4. MapDraw を利用して Mapping フォーマットを作成します。次のふたつの手順が必要になります。
 - 1) (必要に応じて) オーバーレイの設計
 - 2) スプールデータのマッピング
5. 作成したフォーマットを System i に取り込みます。

3. マッピングするスプール・ファイルを MapDraw で参照できるようにする

System i 上で、処理対象のスプール・ファイルを選択します。
System i のコマンドプロンプトで「GO MAPPING」を実行します。



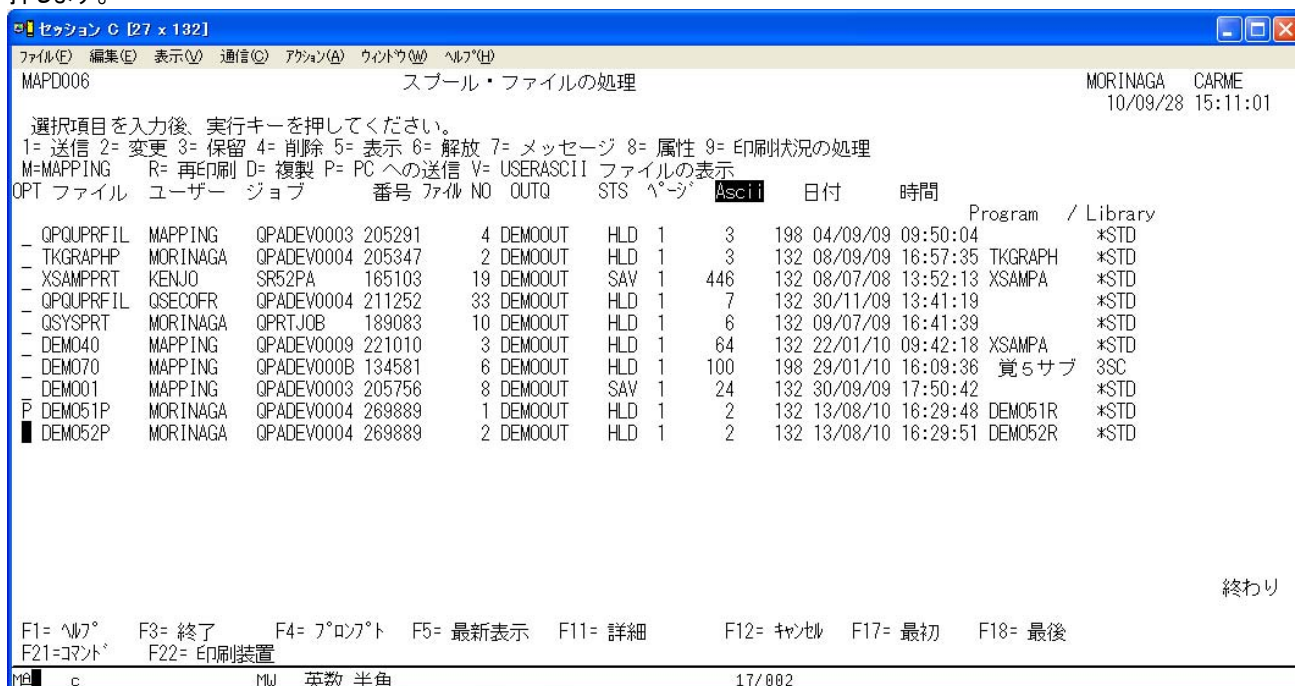
「1. スプール・ファイルの処理」を選択します。



以下を指定して対象のスプール・ファイルを検索します。(検索時間を短縮する為には、出来るだけ条件を指定してください。)

- ユーザー名、*ALL または *CURRENT
- OUTQ
- スプール・ファイル名
- 用紙タイプ
- ユーザー・データ (USRDTA)

次のような画面が現れますので、MapDraw で参照したいスプール・ファイルの前に「P」(PC への送信)を入力し、Enter キーを押します。



「PC へのスプール転送」パネルが表示されます。

- 開始ページと終了ページを、必要と思われるページ数だけ指定します。
- 出力ファイルに、任意のファイル名を指定します (必ず .PAG という拡張子を付加してください)。
- コードページは必ず明示的に指定してください。

CCSID5026 環境で作成されたスプールの場合、コードページは「290」を指定します。

CCSID5035 環境で作成されたスプールの場合、コードページは「1027」を指定します。

※英小文字を使用する場合には、その操作を行うジョブは必ず CCSID5035 にしておいてください。



Enter キーを押して確定します。これで、MapDraw で参照できる形式に変換されました。変換されたファイルは、Mapping 導入時に指定した IFS ディレクトリー、デフォルトでは「 /home/mapping/」に保存されます。

注： 複数の人がこの操作 (PC へのスプール転送) を行くと、同じ名前のファイルは上書きしてしまいます。

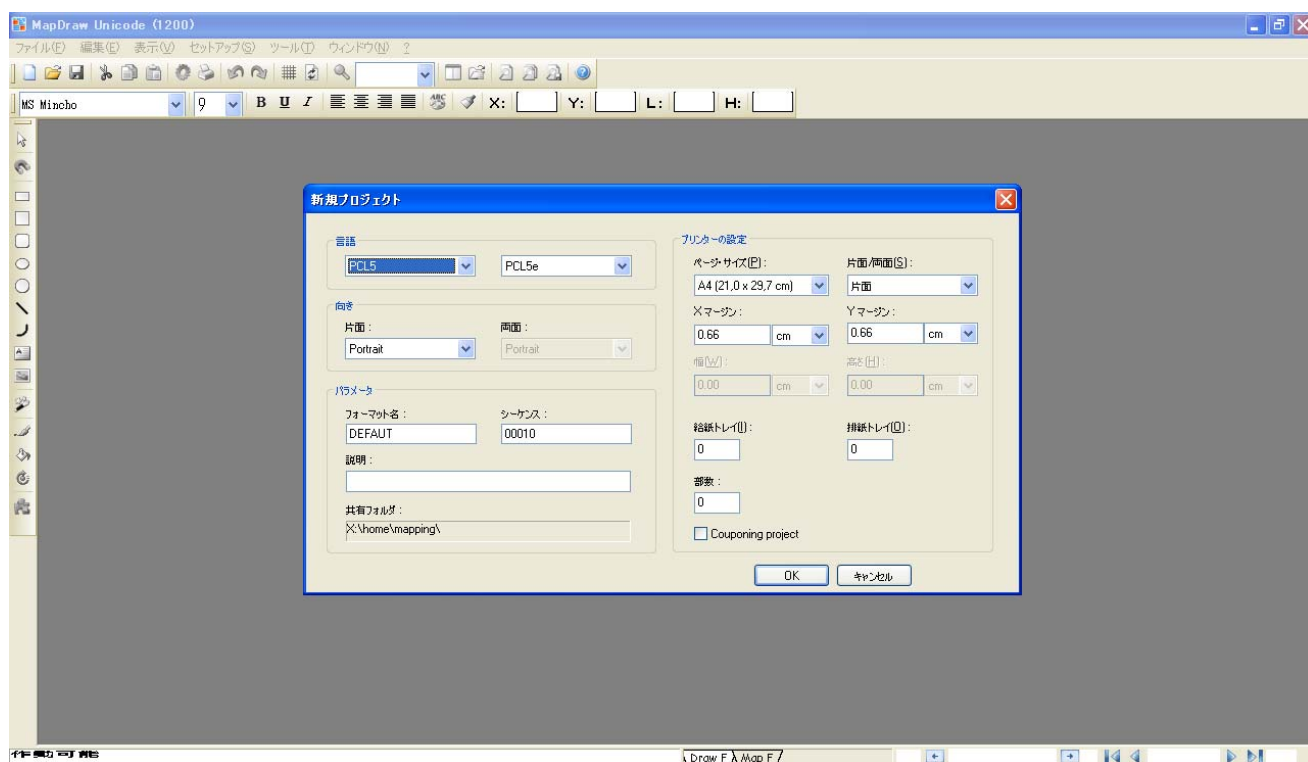
4. MapDraw による Mapping フォーマットの設計

最初に MapDraw で帳票設計を行うに当り使用する用語について説明します。

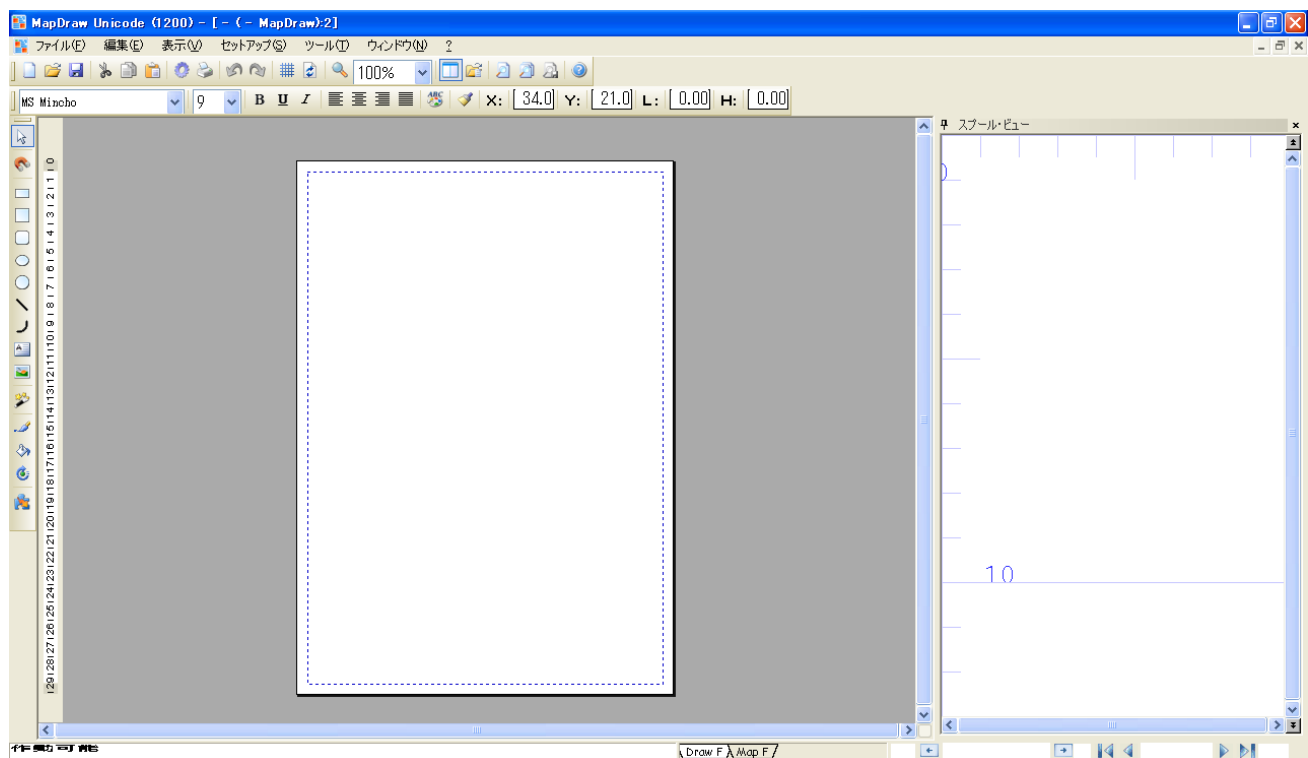
- マッピング MapDraw での帳票設計全般およびスプールデータの配置
- プロジェクト MapDraw で IFS または PC 上に作成するファイルの総称
- フォーマット MapDraw で設計した帳票レイアウトの System i 上での呼称
- シーケンス 同一フォーマットで複数レイアウトに対応する場合の連番

4-1 MapDraw でのスプール・ファイルの表示


最初に [MapDraw Unicode] を起動します。PC のスタート・メニューまたはデスクトップ上のショートカットから起動します。



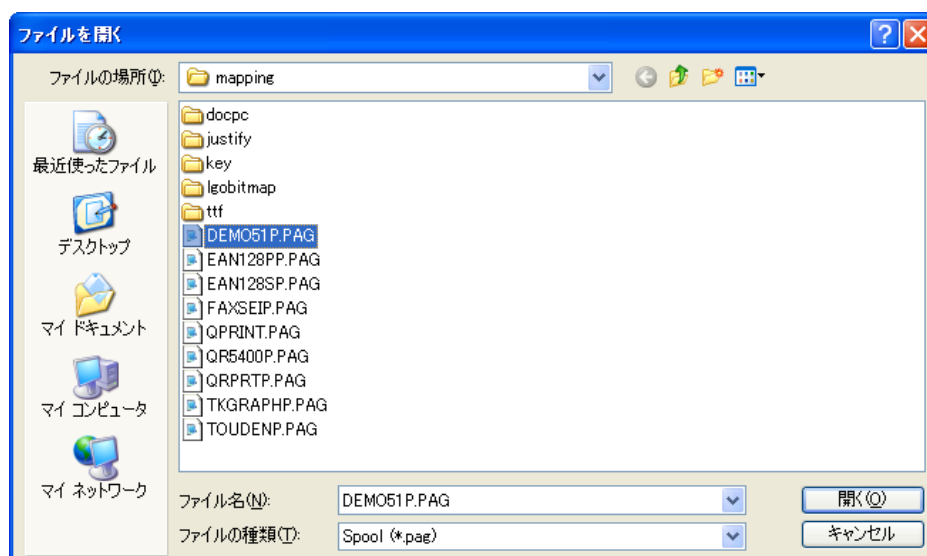
「新規プロジェクト」パネルが出ますがこれはとりあえず「OK」します。
次のような画面が表示されます。



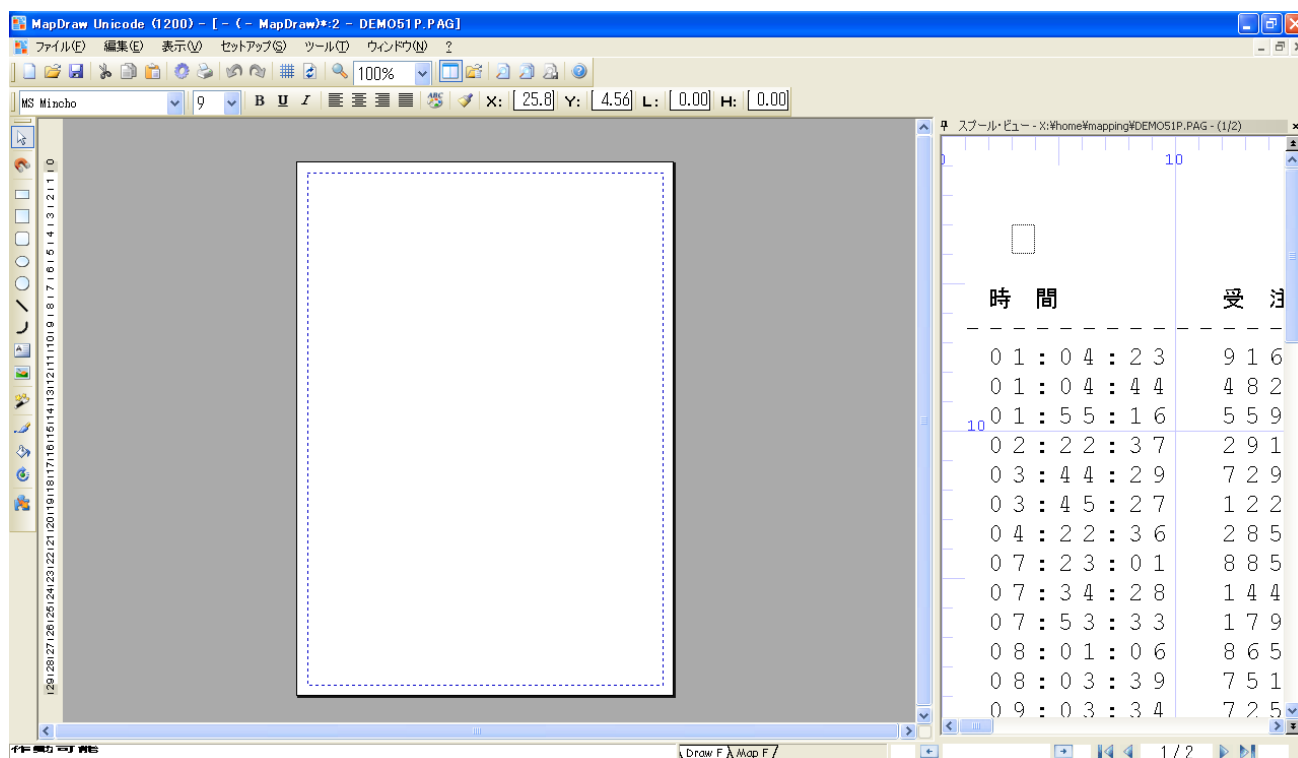
上図の通り MapDraw の画面は 左右でふたつの部分に分割されています。右側に帳票設計に使用するスプール・ファイルを表示し、左側で帳票設計を行います。

(画面が左右でふたつの部分に分割されていない場合には、[スプール・ファイルを表示する]  アイコンをクリックします。)

帳票設計に使用するスプール・ファイルを画面表示するには、右側の任意の場所をクリックし、[スプール・ファイルのロード] アイコンをクリックします。すると「ファイルを開く」画面が表示され、先ほど変換した. PAG ファイルが選択できるようになります。



帳票設計に使用するサンプルのスプール・ファイルを選択し「開く」ボタンをクリックすると次のような画面が表示されます。



選択した.PAG ファイルは画面の右側に表示されます。画面のこの部分ではズームインおよびズームアウト機能 (<PageUp> および <PageDown> キー) を使用することができます。スプール・ファイルに複数のページがある場合は、垂直スクロール・バーの上部と下部にある <二重矢印> キーをクリックして、ページを切り替えることができます。

MapDraw の画面には[DrawF]タブと[MapF]タブがあります。上図は[DrawF]タブが選択された状態です。オーバーレイの設計時には[DrawF]タブを選択し、スプールデータのマッピング時には[MapF]タブを選択します。

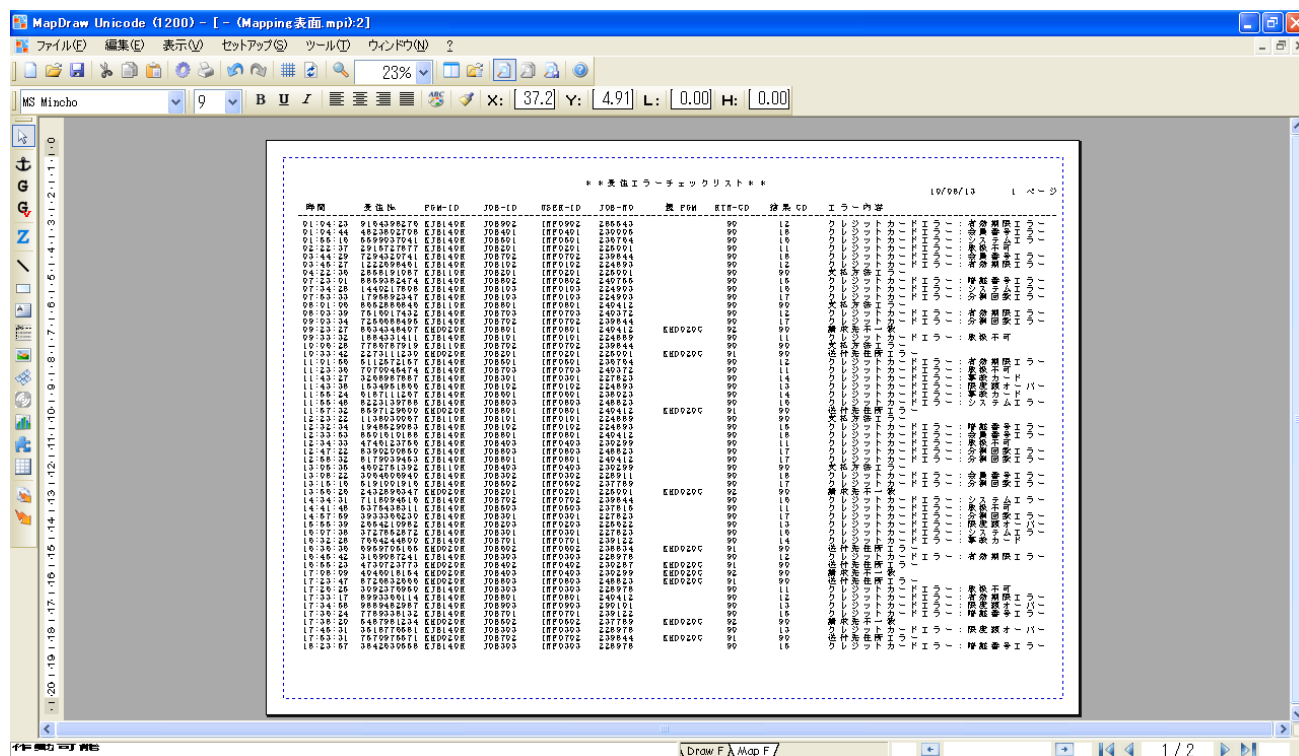
それでは MapDraw を利用して、以下のサンプル帳票を作成していきましょう。


【設計例1】 受注エラーチェックリスト では既存帳票のレイアウトを変えずに簡単に帳票設計を行います。

【設計例2】 テルジャパン請求明細書 は MapDraw の様々な機能を使用して高付加価値化した帳票設計を行う例です。


4-2 【設計例1】受注エラーチェックリスト

この例は例えば従来のストックフォームを A4 カット紙に移行するような例を想定しています。既存帳票のレイアウトを変えずに簡単に帳票設計を行うことができます。



MapDraw はプレビュー機能を持っています。[プレビュー]  アイコンをクリックすると出カイメージを確認することができます。上図は設計完了後にプレビュー表示をした画面です。ここからは、上図の受注エラーチェックリストを設計する手順を解説していきます。

4-2-1 プロジェクトのプロパティ

最初にプロジェクトのプロパティを定義する必要があります。[セットアップ]メニューで[ページのセットアップ]を選択するか、[プロジェクトのプロパティ]  アイコンをクリックします。この画面では、向き(縦長か横長か)、片面か両面か、プリンターの設定(給紙トレイと排紙トレイ、ページ・サイズ)、マッピングの設定(フォーマット名、シーケンス)などを設定できます。

ここでは下図の通り設定します。

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| ● 向き 片面 | Landscape(横向き) |
| ● <u>パラメーター</u> フォーマット名 | <u>DEMO</u> |
| ● <u>パラメーター</u> シーケンス | <u>00010</u> |
| ● <u>パラメーター</u> 説明 | 132*66 A4 Landscape |
| ● プリンターの設定 ページ・サイズ | A4 |
| ● プリンターの設定 片面/両面 | 片面 |

※フォーマット名は、SBCS で 10 文字以内、かつ System i 上でユニークになるようにしてください。また説明も、SBCS のみで記述することをお勧めします。(説明に DBCS は入力できますが、5250 画面から見ると正しく表示されません。)

[シーケンス]は同じフォーマットに対して複数の設定が可能です。例えば、同ースプール・ファイル内で表紙と明細というように複数のレイアウトが必要な場合に有効です。この例ではレイアウトはひとつしか使用しませんのでデフォルトの「00010」を指定します。

その他の項目は任意で設定してください。

4-2-2 オーバーレイの作成

この帳票ではオーバーレイの作成は不要です。

4-2-3 スプールデータのマッピング

[DrawF]はオーバーレイを設計する作業画面ですので[DrawF]が選択されている場合には[MapF]タブをクリックして作業画面を切り替えてください。

スプールデータのマッピングには「グループ」と「ゾーン」というふたつの概念が必要になります。

グループは行の繰り返しに対応します。すなわち縦の制御を行います。

実際のデータはゾーンによって配置されます。

繰り返し行でない場合は、ゾーンの配置位置がデータの出力位置そのものになります。


繰り返し行の場合には、ゾーンは横位置のみを制御し縦位置はグループにより決定されます。

この帳票は「1 桁目から 132 桁目を 66 行繰り返す」という考え方で設計することができますので、グループとゾーンをひとつずつ設定することで簡単に帳票設計を行うことができます。

1) グループの作成

グループは帳票の繰り返し行に対応します。

この帳票はオーバーフローが 66 行ですので 1 行目から 66 行目までのグループを作成します。

グループを作成するには[固定グループ]  アイコンを使用するか、右側のスプール・ファイル画面から必要な行数(桁数は任意)を選択し左側の作業画面上にドラッグ・アンド・ドロップします。固定グループの設定画面が表示されますので下図の通り設定します。

<<固定グループ_新規グループタブ>>

- グループ名 任意(ここでは「GROUP1」とします。)
- 開始行 1
- 終了行 66
- グループの上部から計測した最初の行の印刷位置 0.42cm(デフォルト値)


※[グループ名]は、SBCSで10文字以内です。

「OK」ボタンをクリックすると左側の作業画面上に赤点線でグループが作成されます。
ここで作成されたグループで重要なのは上辺の位置です。(最初の行はグループの上辺を基準に設定されます。)

グループの実行に条件を持たせる場合は[実行]タブで設定できます。この例では条件の設定は行いません。

2) ゾーンの設定

グループを作成しただけでは、データは出力されません。グループに属するゾーンの作成が必要になります。
この帳票は 132 桁ですので 1 桁目から 132 桁目までのテキストゾーンをグループ内に作成します。

ゾーンを作成するには[ゾーン]  アイコンをクリックするか、右側のスプール・ファイル内のゾーン値を選択し左側の作業画面上にドラッグ・アンド・ドロップします。
ゾーンのプロパティの設定画面が表示されますので下図の通り設定します。

<<ゾーンのプロパティ_データ位置タブ>>

- ゾーン名 任意(ここでは「ZONE1」とします。)
- 列 1
- 長さ 132
- タイプ テキスト、標準
- その他項目 (デフォルト値)

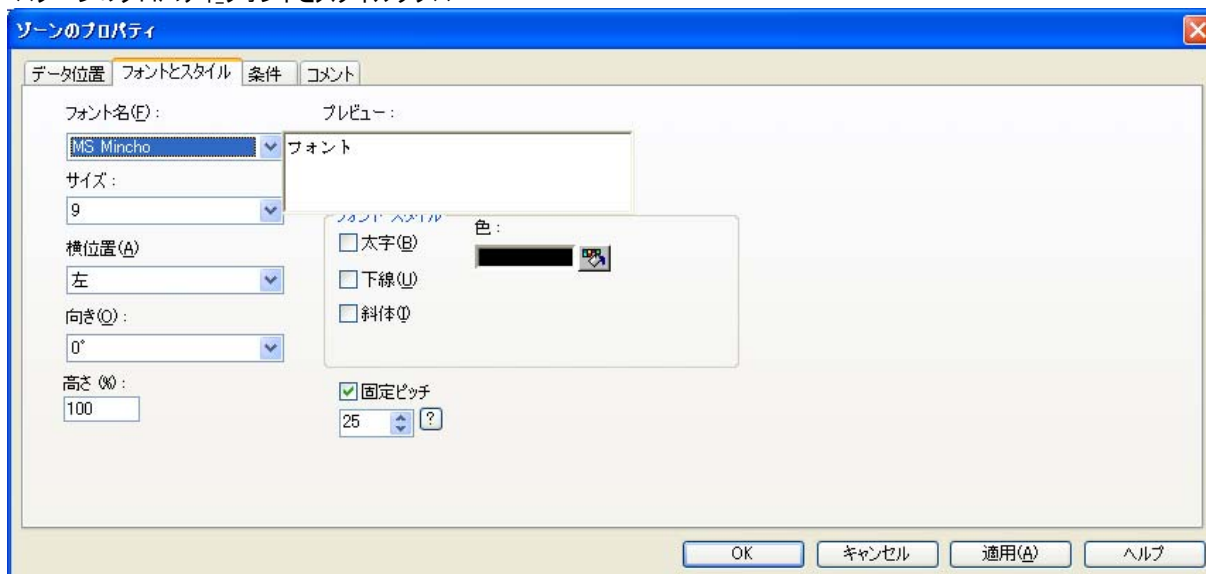
※[ゾーン名]は、SBCS で 10 文字以内です。

「OK」ボタンをクリックすると左側の作業画面上に青実線でゾーンが作成されます。
グループ内のゾーンは横位置のみを制御しますので配置位置を調整してください。
(グループに属さないゾーンの場合は縦横両方の位置を決定します。)

なお、グループ内ゾーンは先に設定したグループからはみ出さないように配置する必要があります。必要に応じてグループの大きさを調整してください。

[フォントとスタイル]タブでは自由に体裁を整えることができます。この例では下図の通り設定します。

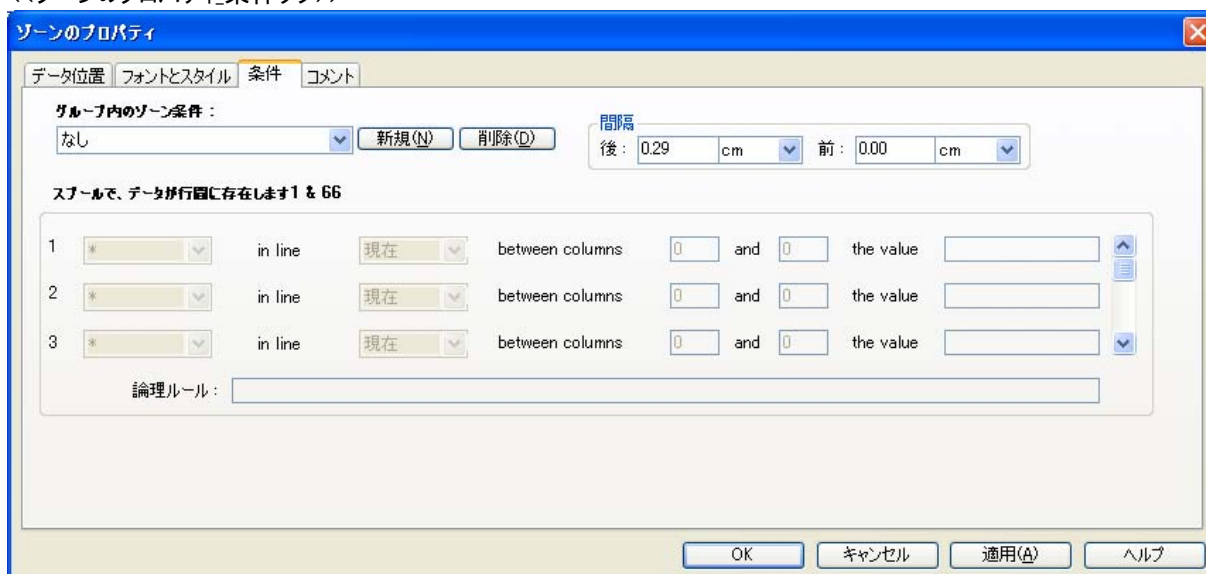
<<ゾーンのプロパティ_フォントとスタイルタブ>>



- フォント名 MS Mincho
- サイズ 9
- 固定ピッチ 25(固定ピッチにチェックを入れます。)
- その他項目 (デフォルト値)

行の間隔は[条件]タブで設定できます。この例では下図の通り設定します。

<<ゾーンのプロパティ_条件タブ>>



- 間隔 後 0.29cm
- 間隔 前 0.00cm
- その他項目 (デフォルト値)

[条件]タブ内のこの他の項目の指定によりゾーンの実行に条件を持たせることもできます。この例では、条件の設定は行いません。

ここまでのグループとゾーンの設定で以下の通り設定されたことになります。

グループの設定

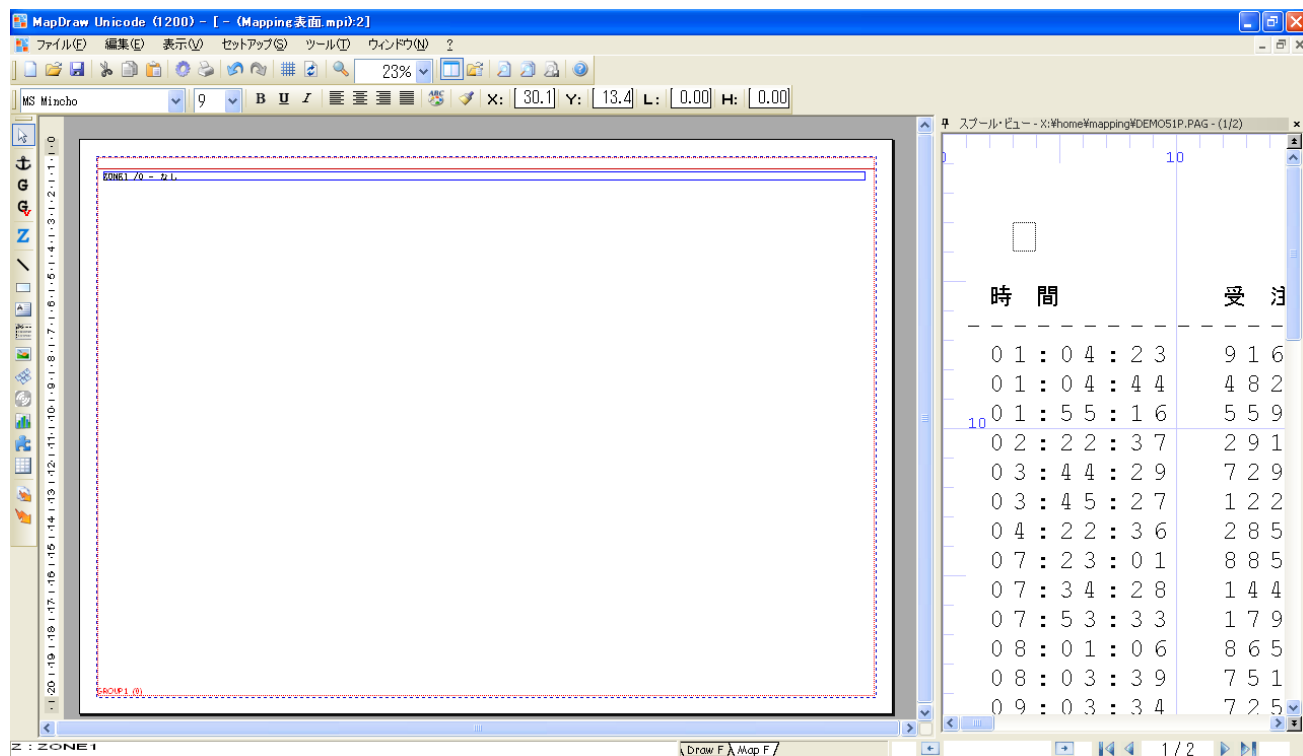
- 印刷範囲: スプール・ファイルの 1 行目から 66 行目
- 最初の行の印刷位置はグループの上辺から計測して 0.42cm

ゾーンの設定

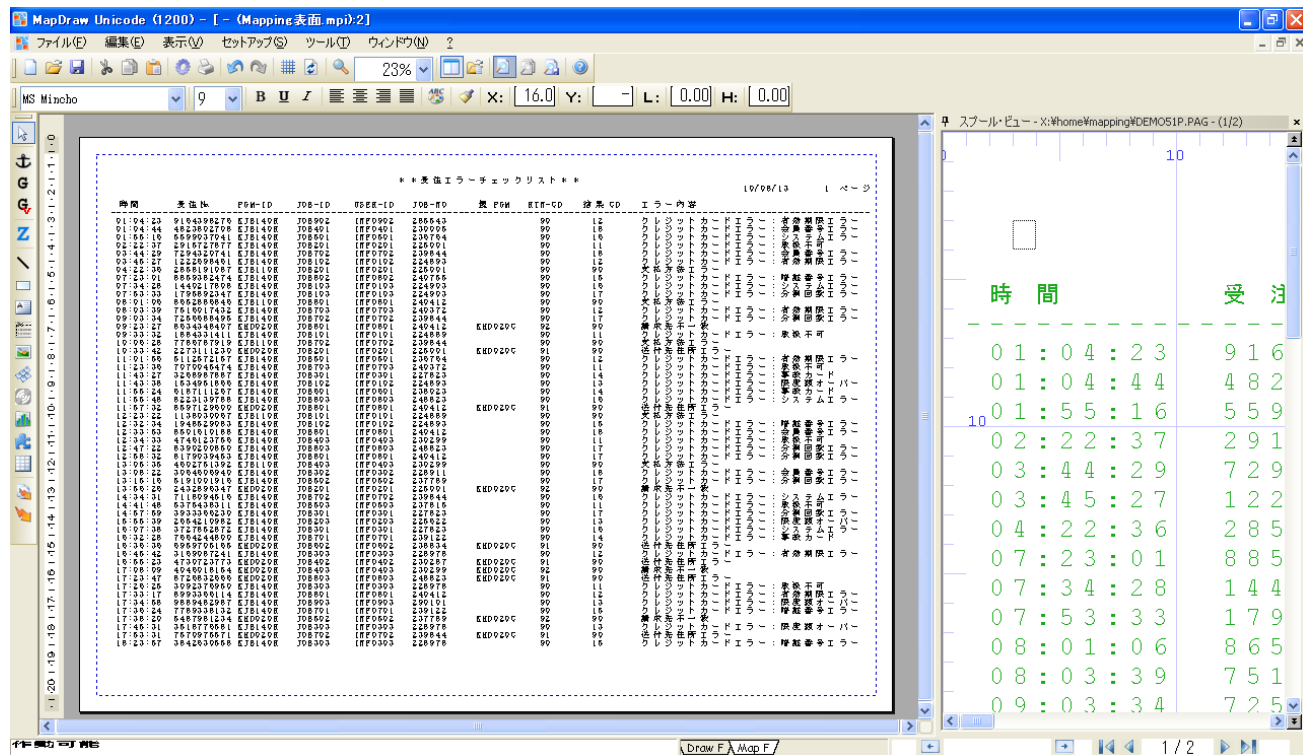
- 印刷範囲: スプール・ファイルの 1 桁目から 132 桁目
- 各行の間隔は 0.29cm
- フォント: MS Mincho、サイズ:9、固定ピッチ:25

3) プレビュー

これで下図の通り帳票設計が完成しました。



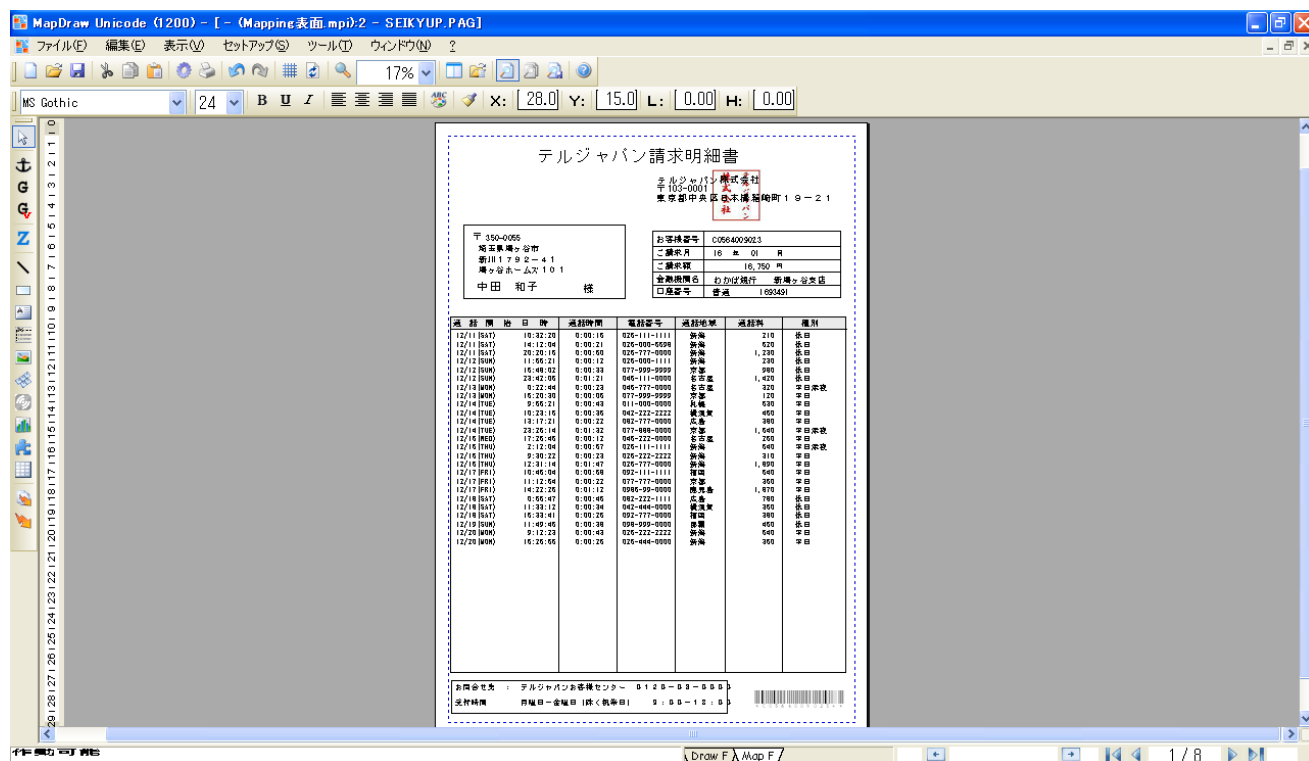
[プレビュー] アイコンをクリックしてプレビューを表示してみます。




ここから先の手順は「5. プロジェクトの保存と MapDraw フォーマットの生成」を参照してください。

4-3 【設計例2】テルジャパン請求明細書

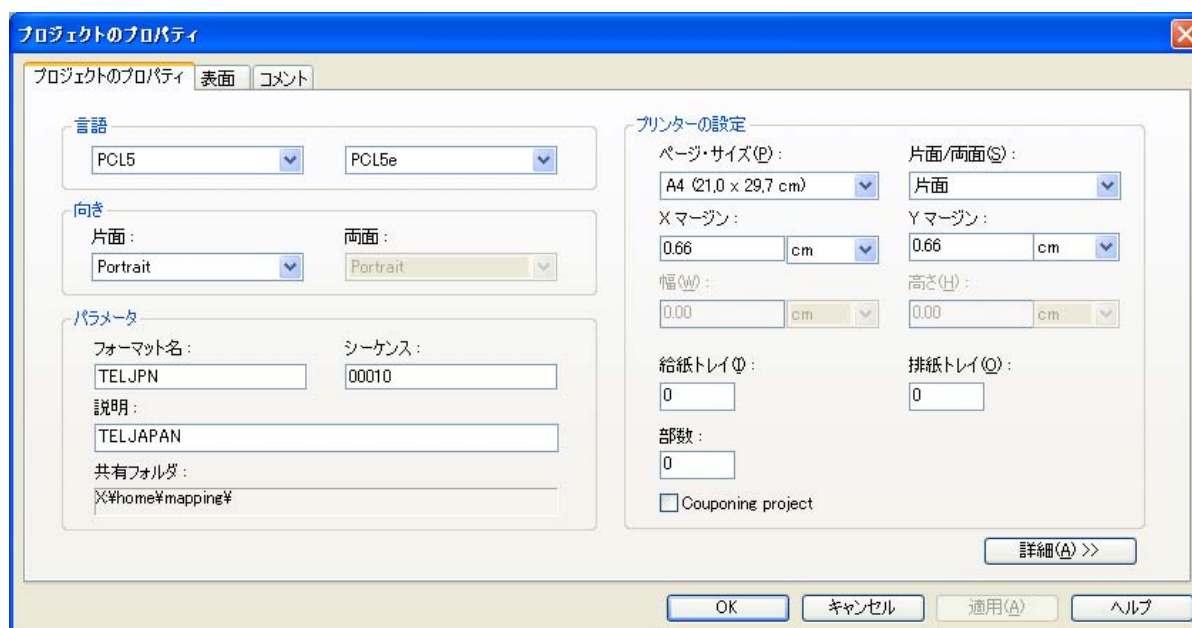
この例は既存帳票を付加価値化(カラー化、イメージ追加、バーコード追加等)します。これは MapDraw の様々な機能を使用することにより実現可能です。



4-3-1 プロジェクトのプロパティ

まずはプロジェクトのプロパティを定義します。[セットアップ]メニューで[ページのセットアップ]を選択するか、[プロジェクトのプロパティ]  アイコンをクリックします。この画面では、向き(縦長か横長か)、片面か両面か、プリンターの設定(給紙トレイと排紙トレイ、ページ・サイズ)、マッピングの設定(フォーマット名、シーケンス)などを設定できます。

ここでは下図の通り設定します。



- 向き 片面
 - パラメーター フォーマット名
 - パラメーター シーケンス
 - プリンターの設定 ページ・サイズ
 - プリンターの設定 片面/両面
- | |
|----------------|
| Portrait (縦向き) |
| TELJPN |
| 00010 |
| A4 |
| 片面 |

※[フォーマット名]は、SBCS で 10 文字以内、かつ System i 上でユニークになるようにしてください。また説明も、SBCS のみで記述することをお勧めします。(説明に DBCS は入力できますが、5250 画面から見ると正しく表示されません。)


[シーケンス]は同じフォーマットに対して複数の設定が可能です。例えば、同スプール・ファイル内で表紙と明細というように複数のレイアウトが必要な場合に有効です。この例ではレイアウトはひとつしか使用しませんのでデフォルトの「00010」を指定します。

その他の項目は任意で設定してください。

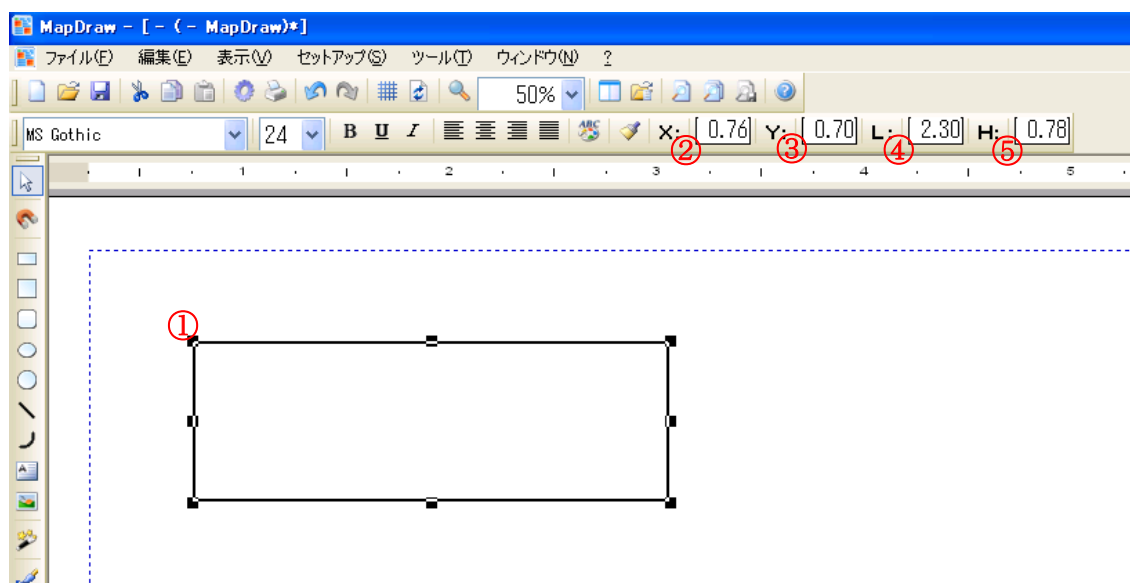
4-3-2 オーバーレイの作成

まず、オーバーレイ内に、グラフィカル・オブジェクト(送り先住所用、問合せ先用、顧客情報用、明細内容用の計 4 つの長方形)を作成します。

1) 4 つの長方形と表の作成

ここでは、4 つの長方形を作成します。[長方形]  アイコンをクリックし、マウスを使用してオーバーレイ上に長方形①を描画します。

注: 作業画面は全て[DrawF]タブです。



- ① 小さな黒い正方形は、この長方形が選択されていることを示します
- ② 長方形のX軸の位置
- ③ 長方形のY軸の位置
- ④ 長方形の幅
- ⑤ 長方形の高さ


長方形の正確なサイズと位置がわかっている場合は、②～⑤に値を入力して設定できます。(このとき、オブジェクトが選択されていること、つまり対象のオブジェクトの周りに小さな黒い正方形が表示されていることを確認してください)。たとえば、次のように入力します。単位は cm です。以後特に指定が無い限り長さは cm となります。

- ②に 1.42 を入力します
- ③に 4.78 を入力します
- ④に 7.85 を入力します
- ⑤に 3.62 を入力します

これで、送り先住所用の長方形が、指定したとおりに表示されます。

2) オブジェクト(長方形)のコピー

2つ目の長方形(問合せ先用)と3つ目の長方形(顧客情報用)と4つ目の長方形(明細内容用)を作成するにあたって、オブジェクトのコピーを利用します。最初の長方形を選択し、それをコピー・ペーストします([編集]メニューで [コピー]、[貼り付け]の順に選択するか、長方形を右クリックして[コピー]、[貼り付け]の順に選択します)。最初の長方形の上に新しい長方形が重ねて作成されます。2つの長方形が正しく配置されているかどうかをチェックするには、両方の長方形を選択します。それには、最初

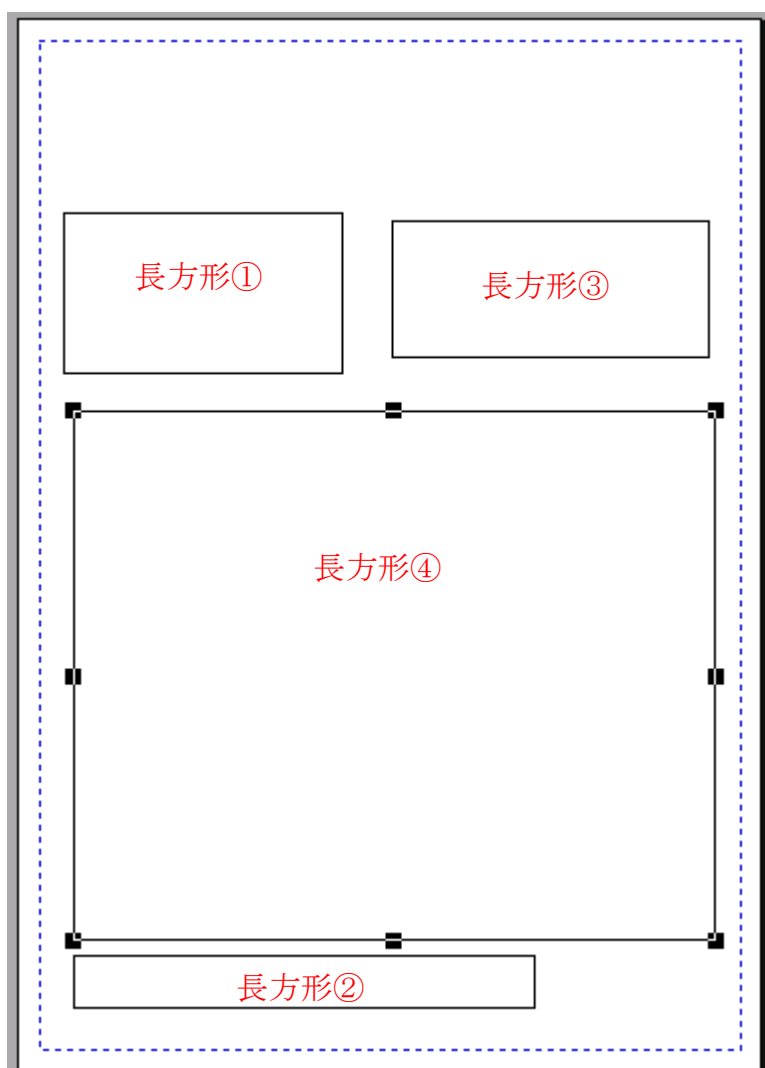
の長方形をクリックし、Shift キーを押しながら、2つ目の長方形をクリックする方法と、[選択]  アイコンをクリックし、2つの長方形を囲む大きな枠を描画することで2つの長方形を選択する方法があります。

同じ操作を繰り返し、3つ目と4つ目の長方形を作成してください。

4つの長方形を作成したら、コピーで作成した長方形3つの座標に次の値をそれぞれ入力してください。

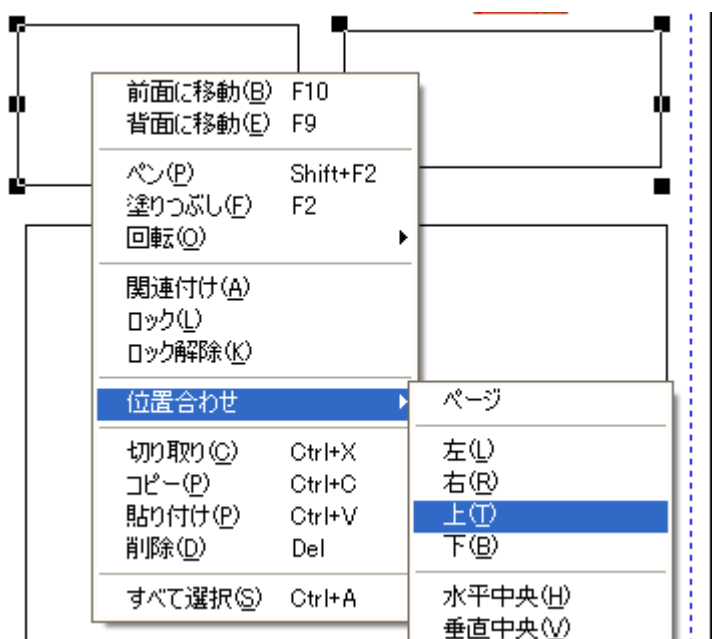
- 長方形②(問合せ先用) X:0.86 Y:27.0 L:12.8 H:1.63
- 長方形③(顧客情報用) X:10.5 Y:5.27 L:9.17 H:3.25
- 長方形④(明細内容用) X:0.93 Y:9.42 L:19.2 H:17.2

以上の値を入力し、下の図のように長方形が作成されていることを確認してください。




3) オブジェクトの位置合わせ


長方形①と長方形③の2つの長方形を選択したら、右クリックして[位置合わせ]を選び、位置合わせ方向(ここでは[上])を選択します。メニューに[位置合わせ]オプションが表示されていない場合は、複数の長方形を選択していない可能性があります。正しく複数の長方形が選択されていれば、両方の図形の周りに小さな黒い正方形が表示されます。

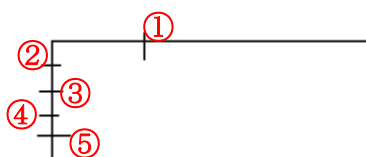


これで、2つの長方形は上揃えされます。(Yの値は4.78に揃います)

4) 表の作成


表の作成には、次の2つの方法があります。1つは[MapWizard]  を使用する方法、もう1つは手動で表を描画する方法です。ここでは、手動で作成します。

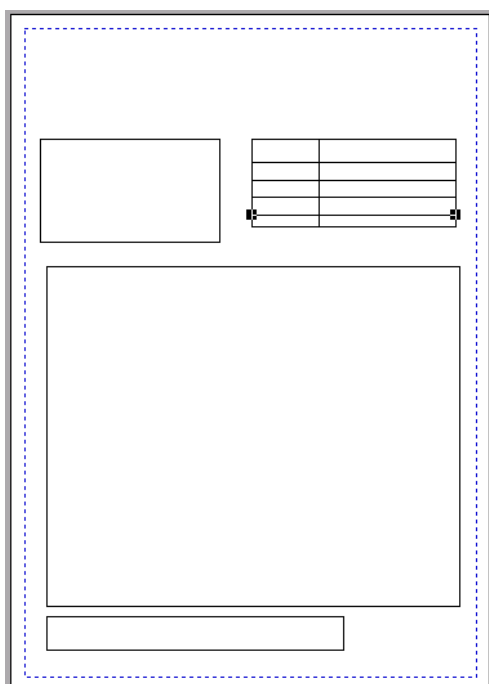
オーバーレイに大きな長方形を描画します。正確な位置とサイズがわかっている場合は、それらの値を入力できます。次に、列と行を作成したい場所に、短い線(罫線になる)を描画します。水平または垂直の線を描画するには、[線]  アイコンをクリックし、Shiftキーを押しながら短い線を描きます。線を選択して、そのサイズと位置の値を入力することもできます。それでは顧客情報用(長方形③)の表を作成してみます。下の図のように罫線を引いてください。



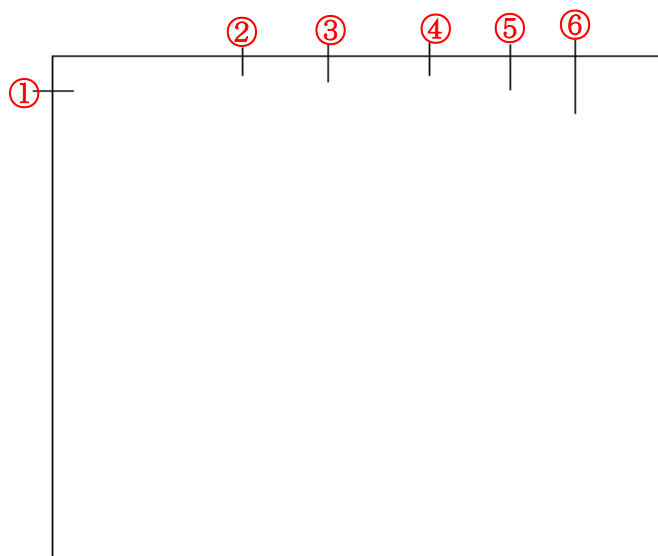
- ①の線の座標 X:13.0
- ②の線の座標 Y:5.62
- ③の線の座標 Y:6.30
- ④の線の座標 Y:6.89
- ⑤の線の座標 Y:7.55

線を引いたら、すべてのオブジェクト(長方形と5本の線)を選択し、<a>キーを押します(必ず小文字で入力してください)。これで、罫線が引かれ表が作成されます。

なお、[ズーム]  アイコンを選択した状態で左側の帳票設計画面の拡大したい場所をマウスで囲むと、その場所が拡大表示されます。つまり、ここでは長方形③を拡大すると作業がしやすくなります。



同様の手順で明細内容用(長方形④)の表を作成します。
以下のように短い線を描画してください。

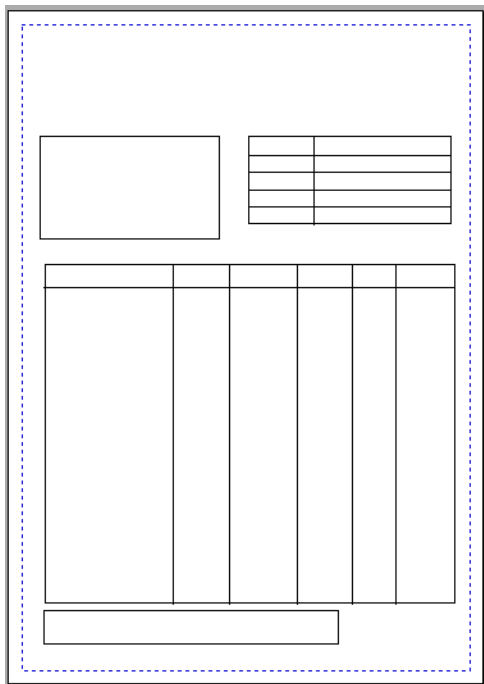


- ①の線の座標 Y:10.0
- ②の線の座標 X:6.08
- ③の線の座標 X:8.88
- ④の線の座標 X:11.7
- ⑤の線の座標 X:14.1
- ⑥の線の座標 X:16.8

※他の座標や罫線の長さ等については、指定しなくても自動的に罫線が引かれます。

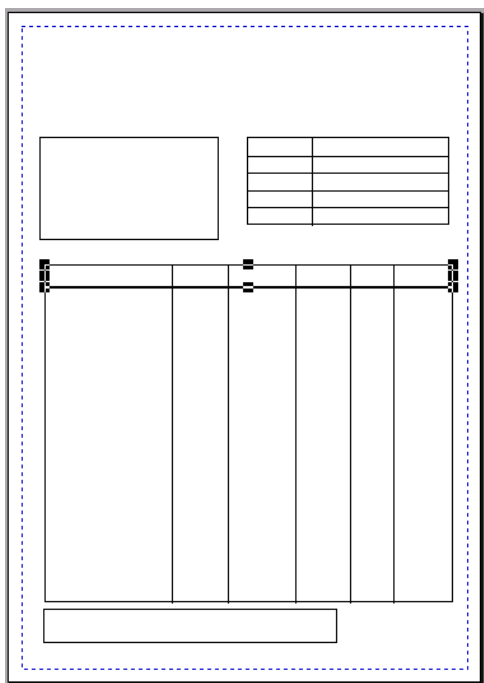
先程の手順と同様に、全てのオブジェクトを選択して、小文字の<a>キーを押します。
これで、2つ目の表が完成しました。

ここまでの手順で以下の図のようなオーバーレイが作成されます。



5) 網かけの背景の作成(表のヘッダー)

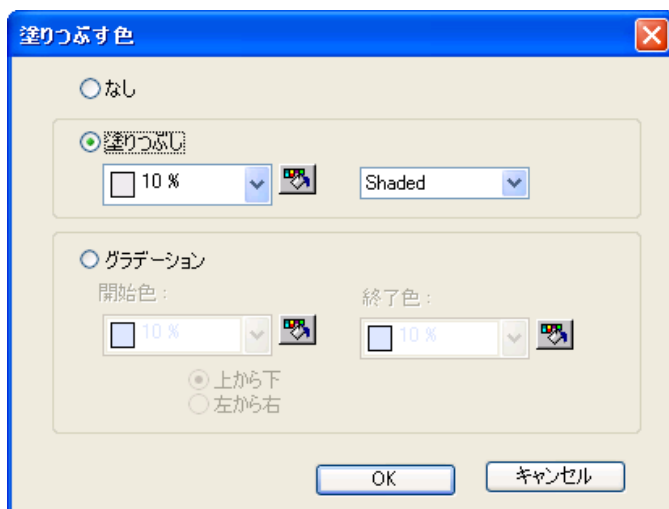
ヘッダーの上に網かけされた長方形を作成して重ねることで、網掛け背景のヘッダーが設定できます。まずは下図のような長方形を作成します。この長方形は X:0.93、Y:9.42、L:19.2、H:0.60 と設定します。



6) オブジェクトを塗りつぶす色の選択

ここでは、ヘッダー行を塗りつぶす色を選択します。

網掛け背景用に作成した長方形に対して、[塗りつぶし] アイコンを選択するか、長方形を右クリックし、メニューから[塗りつぶし]を選択します。オプション([塗りつぶし]または[グラデーション]、[上から下]または[左から右])を選択します。この例では、[塗りつぶし]、[10%]、および[Shaded]を選択します。



これで、長方形に網かけが設定されます。

これを最初の行にぴったり重ねて置くには、正確な位置を入力するか、長方形を表に位置合わせします([位置合わせ]を選択してから、[左]または[右]を選択します)。

注意: 複数のオブジェクトを上揃えする場合は Y 座標の小さい方のオブジェクトに揃えられます。

これで、表の列のヘッダーに網かけが設定されました。

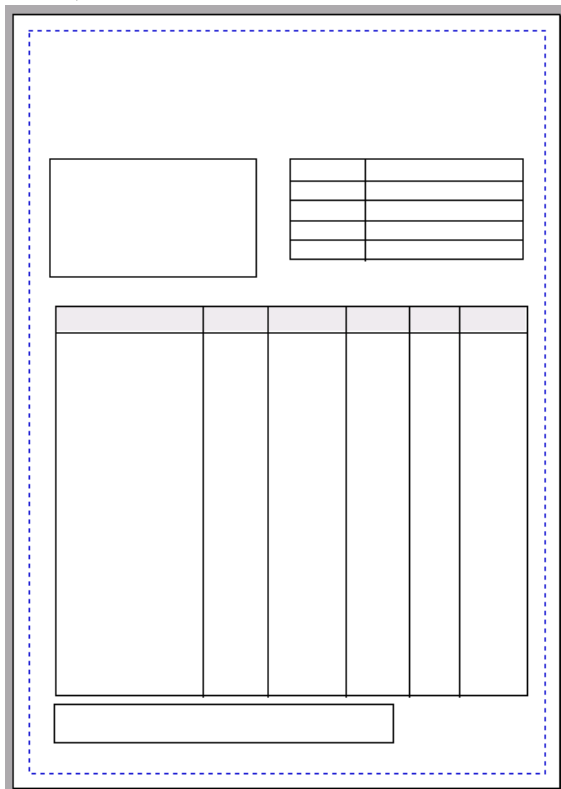
網掛けした表のヘッダーを選択し、右クリック・メニューから[背面に移動]を選択します。

以上で、表の設計が終わりました。

7) 複数のオブジェクトの関連付け

表の各要素をお互いに関連付けて、1つの大きなオブジェクトとして扱うことができます。これを行うには、すべてのオブジェクトを選択し、右クリック・メニューで[関連付け]をクリックします。

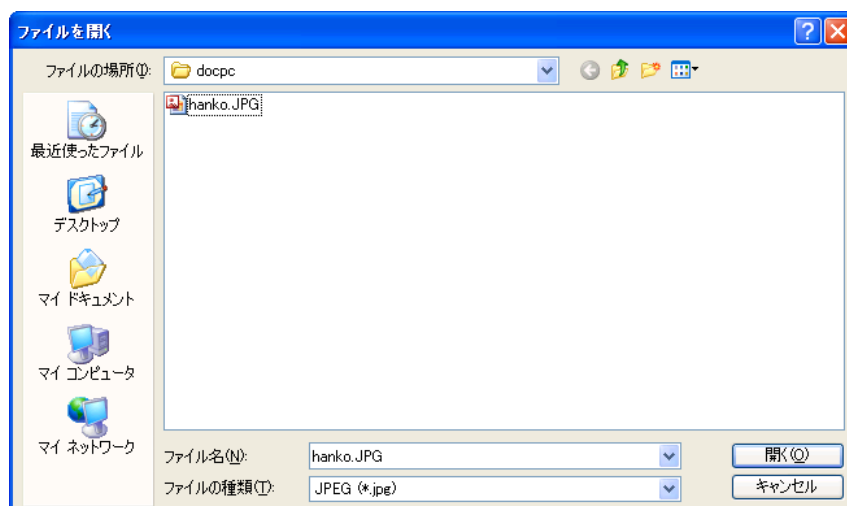
これで、オーバーレイのグラフィカル・オブジェクトが以下のように正しく配置されます。



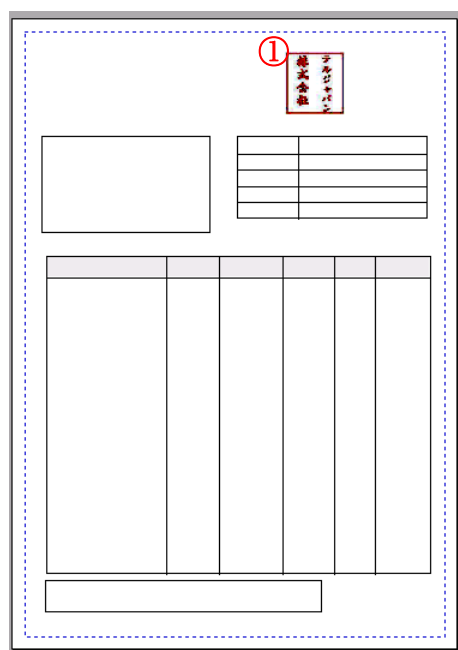
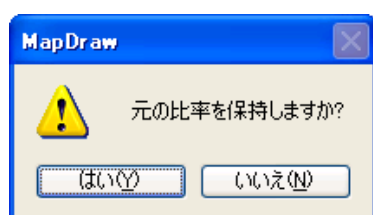
次のステップでは、ロゴとテキスト・ゾーン(表のヘッダー、「請求明細書」という文字列など)を挿入します。

8) ロゴの挿入

ロゴを挿入するには、[イメージ] アイコンをクリックし、ロゴを挿入する場所に枠を描画します。[ファイルを開く]ダイアログ・ボックスで、ロゴとして使用するイメージ・ファイル(BMP、JPG、または TIF)を選択し、「開く」をクリックします。



下図のような「元の比率を維持しますか？」ダイアログ・ボックスが表示されます。「はい」をクリックすると、ロゴの元の比率は変更されません。「いいえ」をクリックすると、ロゴは変形して表示される可能性があります。この状況が発生した場合は、右クリック・メニューで[元の比率]を選択すると、元の比率に戻すことができます。



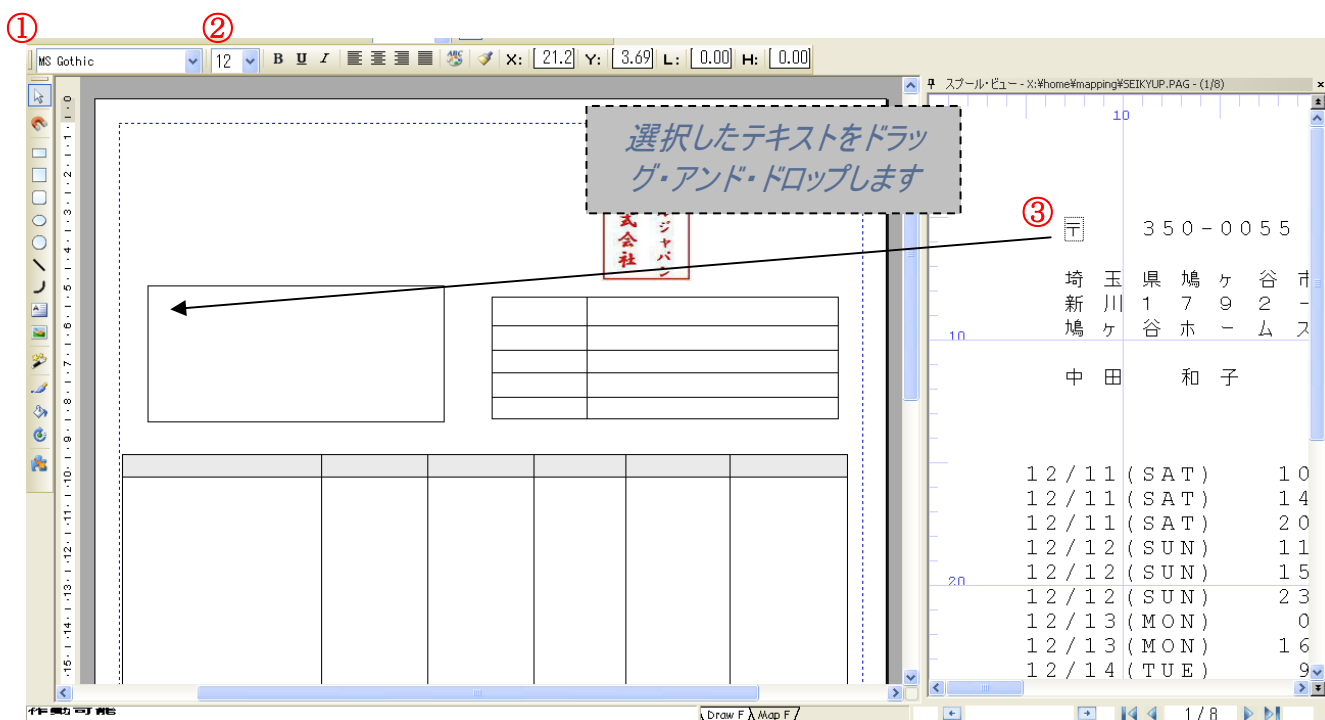
①のロゴの座標

X:15.2 Y:1.97

次はテキスト・ゾーンの挿入です。

9) テキスト・ゾーンの作成

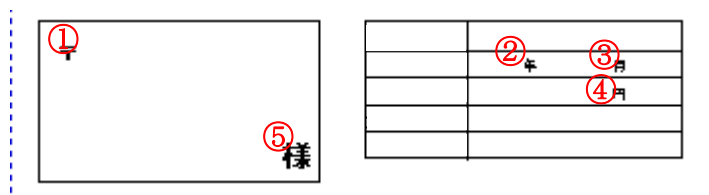
テキスト・ゾーンを作成するには、[テキスト・ゾーン] アイコンを使用するか、右側のスプール・ファイルから希望するテキストを選択し、それをオーバーレイにドラッグ・アンド・ドロップします。
ここでは、例としてスプール・ファイルの「〒」をテキスト・ゾーンとして取り込んでみます。



- ①の説明: フォントの種類
- ②の説明: フォントの大きさ
- ③の説明: 選択されたスプール・ファイルのテキスト

新しいテキスト・ゾーンのプロパティは、最後に編集されたゾーンのプロパティ(フォント、サイズ、色など)と同じになります。プロパティを変更するには、テキスト・ツール・バーを使用してください。

下図のように、スプール・ファイルから他のゾーンも作成してください。



- ①のスプール・ファイルでの位置 行:6 列:8 「〒」
- ②のスプール・ファイルでの位置 行:9 列:72 「年」
- ③のスプール・ファイルでの位置 行:9 列:78 「月」
- ④のスプール・ファイルでの位置 行:10 列:72 「円」
- ⑤のスプール・ファイルでの位置 行:12 列:38 「様」

10) フォントおよびフォント・サイズの変更


テキスト・ゾーンのフォントおよびサイズを変更するには、〈Ctrl〉キーを押しながらく矢印〉キーを押します(く上矢印〉およびく下矢印〉キーはフォントの変更、く左矢印〉およびく右矢印〉キーはフォント・サイズの変更です。こうすると、直ちに変更を確認できます(実際には、フォントのリストを上下にスクロールする必要があります)。

テキスト・ゾーンには、1 行以上の行を含めることができます。

次に以下の図のようにテキスト・ゾーンに直接、文字列を入力してください。

(見出し「テルジャパン請求明細書」、自社情報「社名」「住所等」、顧客情報「お客様番号」～「口座番号」迄、明細の見出し「通話開始日時」～「種別」迄、問合せ先情報)

なお、テキスト・ゾーンを選択した状態で「F7」を押下すると、テキストの編集を行うことができます。

テルジャパン請求明細書					
テルジャパン株式会社 〒103-0001 東京都中央区日本橋箱崎町19-21					
〒 様	お客様番号				
	ご請求月	年	月		
	ご請求額	円			
	金融機関名				
	口座番号				
通話開始日時	通話時間	電話番号	通話地域	通話料	種別
お問合せ先：テルジャパンお客様センター 0120-03-0000 受付時間 月曜日～金曜日(除く祝祭日) 9:00～18:00					

11) グラフィカル・オブジェクトとテキスト・ゾーンの位置合わせ

テキスト・ゾーン同士、またはテキスト・ゾーンと他のオブジェクトとの位置合わせをすることができます。
2 つ以上のテキスト・ゾーンまたは他のオブジェクトを選択し、右クリック・メニューで[位置合わせ]→[水平中央] をクリックします。
すべてのテキスト・ゾーンを作成したら、オーバーレイは作成完了です。

12) オーバーレイの出力

オーバーレイのみを出力する場合は、[ファイル] メニューの [エクスポート]→[プリンター]を選択します。


4-3-3 スプールデータのマッピング

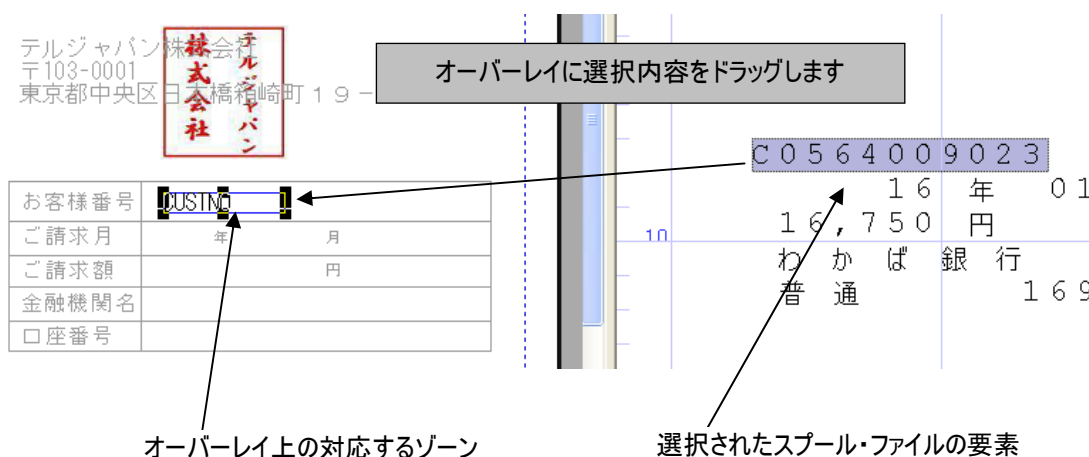
[MapF]タブをクリックします。
オーバーレイはぼかし表示になり、変更することはできなくなります。

1) 固定ゾーンの作成

マッピングでは、固定のゾーン、グループ、およびそれらのグループに属するゾーンを使用します。

- 固定ゾーンは、オーバーレイ上のスプール・ファイルから単一行の要素（お客様番号、口座番号、金融機関名、日付など）を出力するのに使用されます。
- 一方、グループ、またはグループ内の 1 つ以上のゾーンは、複数行の要素(住所、請求書の本文など)を出力するのに使用されます。

まず、固定ゾーンについて見てみましょう。ここでは、お客様番号、ご請求月、ご請求額、金融機関名、および口座番号を出力するための固定ゾーンを追加します。[ゾーン]  アイコンをクリックするか、または、スプール・ファイル内のゾーン値を選択し、それをオーバーレイにドラッグ・アンド・ドロップします。最初に、お客様番号のゾーンを作成します。



オーバーレイ上の対応するゾーン

選択されたスプール・ファイルの要素

お客様番号	CUSTNO
ご請求月	年 月
ご請求額	円
金融機関名	
口座番号	

オーバーレイに選択内容をドラッグします

C0564009023

16 年 01

16,750 円

わかば銀行

普通 169

ゾーンを作成するとき、[ゾーンのプロパティ]ダイアログ・ボックスが表示されます。必要な情報を入力します。

ゾーン名に名前を入力します。

ゾーン名は SBCS で 10 文字以内で任意の名前を指定できます。(後でプロパティの変更が必要になったときに、該当するゾーンを簡単に見つけられるよう、特定しやすい名前を指定することをお勧めします。)

データ位置は自動的に設定されます。ファイル・ゾーンを正しく選択している場合は、位置の値を変更しないでください。


注：ドラッグ・アンド・ドロップを使用してゾーンを作成する場合は、選択したゾーンの長さが十分であることを確認してください。データはスプール・ファイルごとに異なる可能性があるため、場合によっては、はみ出すこともあります。したがって、各文字列に対して可能な最大長を指定することをお勧めします。

ゾーンのタイプは「テキスト」です (値はバーコードではないので、ここでは変換は行いません)。

また、ラベルの下に追加する文字はないので、[ゾーンの後に追加する文字] フィールドは空白のままにします。

[フォントとスタイル]タブで、ゾーンの印刷スタイル (フォント、サイズ、配置、イタリックなど) を変更し、[条件]タブで、このゾーンを実行するための条件を追加できます。ここでは、このオーバーレイにマッピングされたすべてのスプール・ファイルの値に対してこのゾーンを出力するので、条件を設定する必要はありません。

同じ手順を繰り返して、下図のように口座番号、金融機関名、ご請求月、顧客氏名などの他の固定ゾーンを作成します。

これらの設定後に「プレビュー」 アイコンをクリックすると以下のように表示されます。

〒 350-0055	
中田	和子
様	



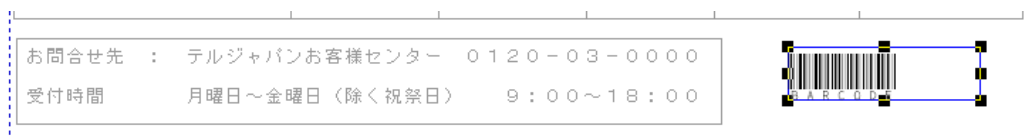
お客様番号	C0564009023
ご請求月	16 年 01 月
ご請求額	16,750 円
金融機関名	わかば銀行 新鳩ヶ谷支店
口座番号	普通 1693491

次は実際の帳票の下部に、お客様番号のバーコードを追加します。

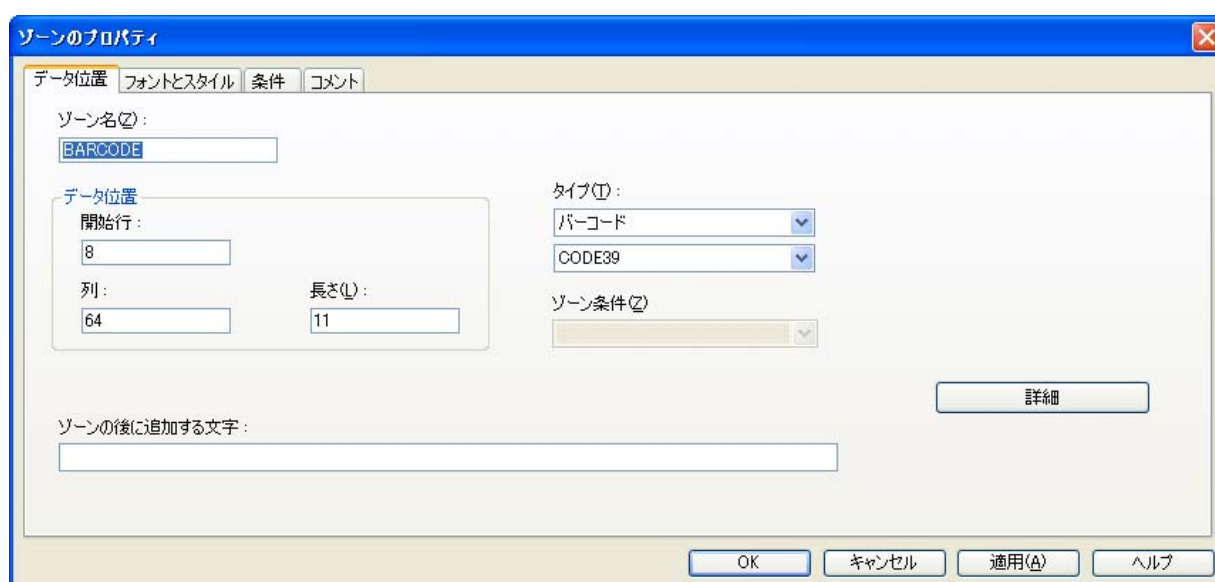
2) バーコードの追加

※バーコード・フォントがご利用のPCに存在しない場合には、PCにインストールする必要があります。インストール手順は巻末の「補足 バーコード・フォントのインストール方法」を参照してください。

バーコードを追加するには、まず標準の固定ゾーンを作成します。
この例ではお客様番号をバーコードで表示します。



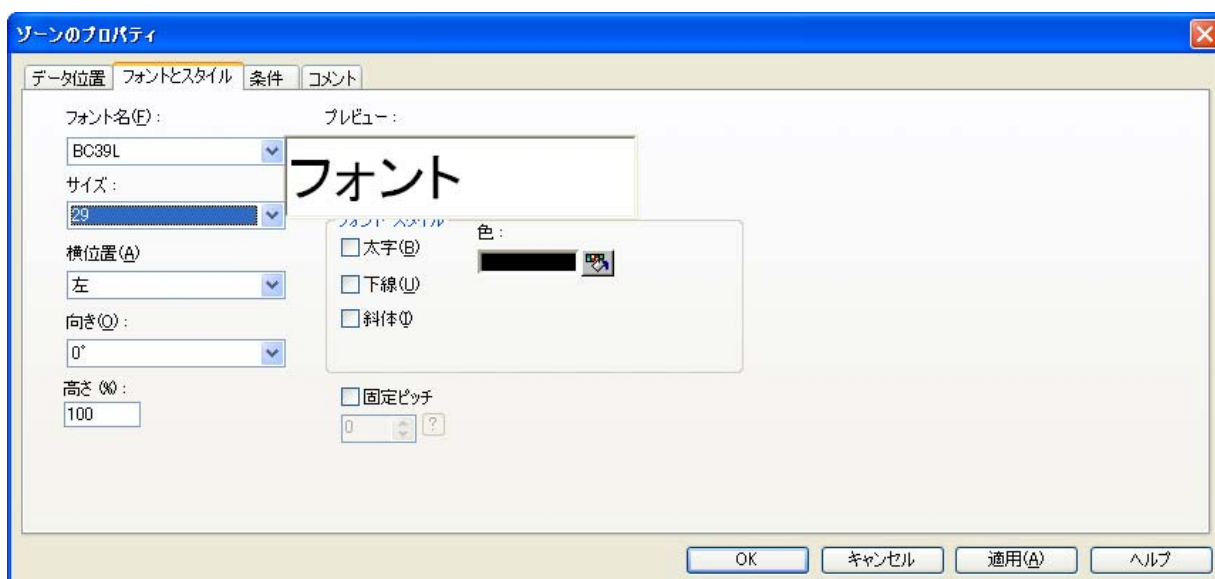
[ゾーンのプロパティ] ダイアログ・ボックスの [タイプ] で、「バーコード」を選択します。



次に、バーコードのタイプを選択します。ご使用のバーコード・スキャン・システムに応じて適切なものを選んでください。この例では、Code-39 を選択します。

ここで、Code-39 でバーコードを印刷するためのフォントを変更します。[フォントとスタイル] タブで、適切なフォントを選択します。フォント名が強調表示されます。バーコード・フォントを表示するには、「B」と入力し、下矢印キーを押します。Code-39 のバーコードを印刷するのに使用される BC39 フォントが表示されるまで、ドロップダウン・メニューを下にスクロールします。インストール CD-ROM には、BC39 で始まるフォントが 2 つあります (BC39 と BC39L)。BC39 では、バーコードの下に変換された値を追加せずに、選択した値をバーコードに変換します。BC39L では、バーコードの下に変換された値が追加されます。

この例では下図のように[フォント名]に「BC39L」、[サイズ]に「29」を設定します。



テルジャパン請求明細書

テルジャパン株式会社
 〒103-0001 東京都中央区日本橋箱崎町19-21


〒350-0055

中田 和子 様

お客様番号	C0564009023
ご請求月	16 年 01 月
ご請求額	16,750 円
金融機関名	わかば銀行 新堀ヶ谷支店
口座番号	普通 1693491

通話開始日時	通話時間	電話番号	通話地帯	通話料	種別

お問合せ先 : テルジャパンお客様センター 0120-09-0000
 受付時間 月曜日-金曜日(除く祝祭日) 9:00-12:00



それでは、その他のデータ(「請求書住所」ブロックと「請求書明細」ブロック)をマッピングしていきましょう。

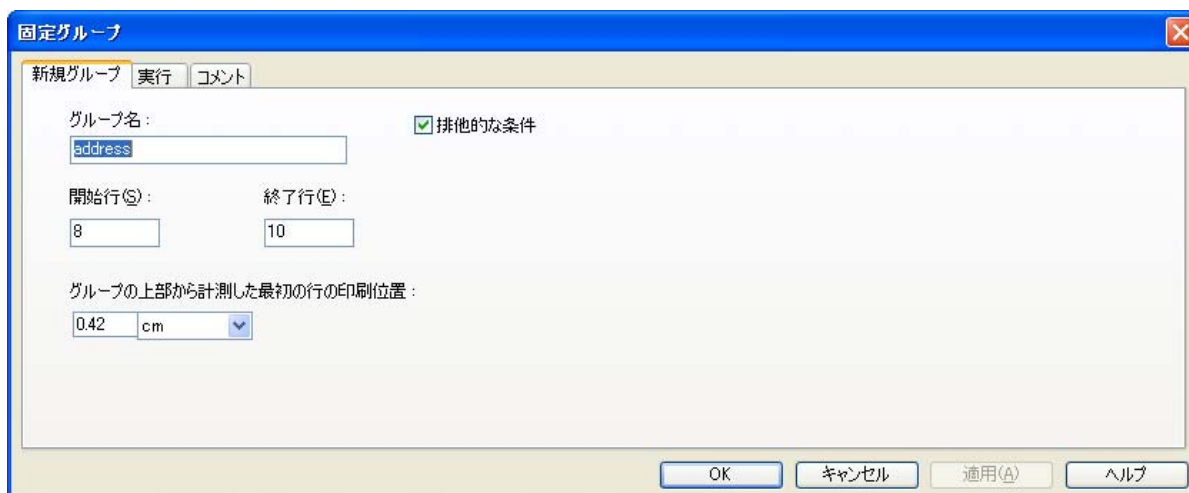
3) グループの作成

グループをマッピングするには、グループと、それらのグループにリンクされたゾーンを作成する必要があります。ゾーンが指定されていないグループを作成しても、何も出力されません。

それでは、「請求先住所」のグループを作成してみましょう。

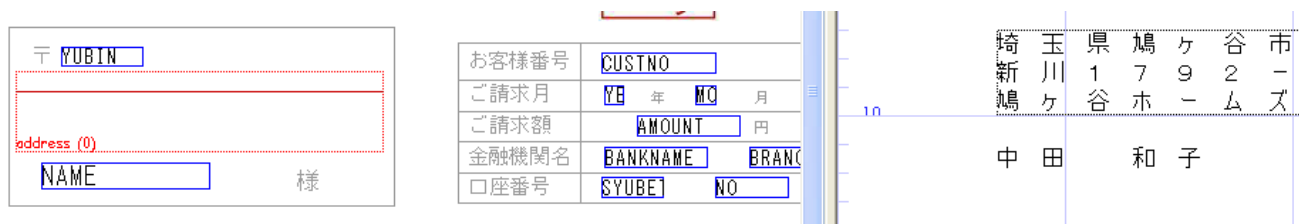
まず、請求先住所ブロックに対応するグループを作成します。[固定グループ] **G** アイコンを使用するか、スプール・ファイルから行のグループをオーバーレイ上にドラッグ・アンド・ドロップします。

配置場所に関しては下図の赤い枠を参考にしてください。データはスプール・ファイルごとに異なる可能性があるため、各文字列に対して最大長を指定するようにしてください。



[開始行] および [終了行] の値は、グループがオーバーレイ上にドロップされたときに、自動的に初期化されます。デフォルトでは、このグループ用の条件を使用し、最初の行はグループの上部から 0.42 cm のところ(マッピング内の赤い実線)に印刷されます。この例では、条件の設定は行いません。グループは、すべてのスプール・ファイルに実行されます。

グループの物理的サイズは、印刷に関する限り問題になりません。どのようなサイズであっても、印刷される文字は、グループおよびゾーンのプロパティで設定された値に依存します。

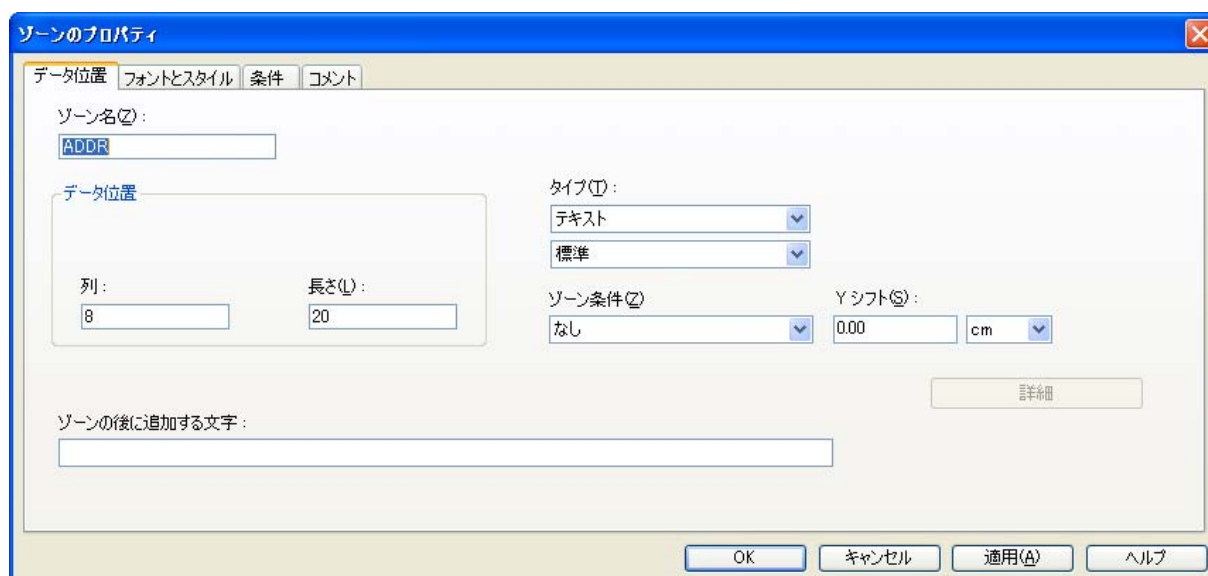


注：グループを作成しただけでは、データは出力されません。少なくとも 1 つのゾーンをグループに関連付ける必要があります。「請求先住所」グループには、1 つのゾーンがあれば十分です。

ゾーンは、(これから設定する文字の数に応じて) 8 行目から 10 行目まで実行されます。

固定ゾーンと同様、ドラッグ・アンド・ドロップまたは[ゾーン] **Z** アイコンのいずれかの方法を使用して、ゾーンを作成できます。ドラッグ・アンド・ドロップで作成する場合は、1 行だけ選択してください。複数行を選択すると、グループが作成されてしまいます。

注：ゾーンは、関連付けるグループの内部で移動するようにしてください。



「ゾーンのプロパティ」ダイアログ・ボックスで、ゾーンの処理のための水平方向の値である [列] と [長さ] (列または文字) を変更できます。

ここでは、条件を作成していないので、[ゾーン条件] ドロップダウン メニューの選択肢は「なし」だけです。

条件が何もないので、ゾーンは 3 回実行されます (行 8、列 8 から、長さ 20)。

このゾーンに何も条件を適用しない場合は、同じ方法を使用して次のグループを作成できます。

ただし、たとえば、一部文字列を太字で表示するなど、住所ブロックの特定の部分を異なるスタイルまたはフォントで印刷したい場合は、条件を設定する必要があります。

後で、ゾーンの属性を変更するには、「F5」キーを押すか、右クリック・メニューで [プロパティ] を選択します。

〒	YUBIN
ADDR / 0 - なし	
address (0)	
NAME	様

お客様番号	CUSTNO
ご請求月	YE 年 MO 月
ご請求額	AMOUNT 円
金融機関名	BANKNAME BRANC
口座番号	SYUBE NO

埼玉県	鳩ヶ谷市
新川	1792-
鳩ヶ谷	ホームズ
中田	和子

テルジャパン請求明細書

テルジャパン株式会社
 〒103-0001 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

〒

Address No.

様

お客様番号	<input type="text" value="CUSTNO"/>
ご請求月	<input type="text" value="YE"/> 年 <input type="text" value="MO"/> 月
ご請求額	<input type="text" value="AMOUNT"/> 円
金融機関名	<input type="text" value="BANKNAME"/> <input type="text" value="BRANCHNAME"/>
口座番号	<input type="text" value="STORE"/> <input type="text" value="NO"/>

通話開始日時	通話時間	電話番号	通話地域	通話料	種別

お問合せ先 : テルジャパンお客様センター 0120-08-0000

受付時間 : 月曜日～金曜日(除く振替日) 9:00-18:00

これで、「請求先住所」ブロックの作業は完了しました。
次に、「請求書明細」のグループを作成します。

4) 「請求書明細」のグループ

請求書明細用のグループを作成し、グループの最大行数を選択します。オーバーレイの表に対してサイズを調整します。ここでは、16 行目 から 50 行目 までになっています。

まず、「開始日」ゾーンを、列 6 から長さ 11 で作成します。次に、「開始時間」ゾーンを、列 19 から長さ 8 で作成します。

同様に、「通話時間」ゾーンを、列 30 から長さ 8
「電話番号」ゾーンを、列 41 から長さ 12
「通話地域」ゾーンを、列 56 から長さ 6
「通話料」ゾーンを、列 66 から長さ 8、右揃え
「種別」ゾーンを、列 77 から長さ 8
で作成します。

下記は「開始日」ゾーンの設定例です。

右揃えにするには、まず「ゾーンのプロパティ」を開き[フォントとスタイル]タブをクリックします。[横位置]の項目を「右」に変更してください。これで右揃えになります。

すべてのゾーンを作成したら、請求書の本文全体が出力できるようになります。

以下が完成図です。

テルジャパン請求明細書

テルジャパン株式会社
 〒103-0001 東京都中央区日本橋箱崎町19-21



〒 <input type="text" value="RUBIN"/> <input type="text" value="ADDR_ZU - なし"/> <input type="text" value="ADDR_ZU"/> <input type="text" value="NAME"/> 様	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>お客様番号</td> <td><input type="text" value="CUSTNO"/></td> </tr> <tr> <td>ご請求月</td> <td><input type="text" value="YE"/> 年 <input type="text" value="MO"/> 月</td> </tr> <tr> <td>ご請求額</td> <td><input type="text" value="AMOUNT"/> 円</td> </tr> <tr> <td>金融機関名</td> <td><input type="text" value="BANKNAME"/> <input type="text" value="BRANCHNAME"/></td> </tr> <tr> <td>口座番号</td> <td><input type="text" value="SYBBI"/> <input type="text" value="NO"/></td> </tr> </table>	お客様番号	<input type="text" value="CUSTNO"/>	ご請求月	<input type="text" value="YE"/> 年 <input type="text" value="MO"/> 月	ご請求額	<input type="text" value="AMOUNT"/> 円	金融機関名	<input type="text" value="BANKNAME"/> <input type="text" value="BRANCHNAME"/>	口座番号	<input type="text" value="SYBBI"/> <input type="text" value="NO"/>
お客様番号	<input type="text" value="CUSTNO"/>										
ご請求月	<input type="text" value="YE"/> 年 <input type="text" value="MO"/> 月										
ご請求額	<input type="text" value="AMOUNT"/> 円										
金融機関名	<input type="text" value="BANKNAME"/> <input type="text" value="BRANCHNAME"/>										
口座番号	<input type="text" value="SYBBI"/> <input type="text" value="NO"/>										

通話開始日時	通話時間	電話番号	通話地域	通話料	種別
<input type="text" value="TEL_ZU - 年 月 日 時 分 秒"/>	<input type="text" value="TEL_ZU - 分 秒"/>	<input type="text" value="TEL_ZU - 番号"/>	<input type="text" value="TEL_ZU"/>	<input type="text" value="TEL_ZU"/>	<input type="text" value="TEL_ZU"/>

お問い合わせ：テルジャパンお客様センター 0120-03-0000
 受付時間 月曜日～金曜日（除く祝祭日） 9:00～18:00


5. プロジェクトの保存と MapDraw フォーマットの生成

ここでは、帳票設計結果をプロジェクトという形で PC に保管して、更に System i に送信します。

なお、PC に保管したプロジェクトは[プロジェクトを開く]  アイコンで開くことができます。ここまでは新規プロジェクトの作成手順を説明してきましたが、既存のプロジェクトの編集をする場合には[プロジェクトを開く]  アイコンをクリックして該当プロジェクトを選択してください。

MapDraw フォーマットの生成は、出力先が PCL か PDF によって手順が異なります。PCL 出力の場合は「5-1 PCL 出力と PDF 出力に共通の生成作業」のみですが、PDF 出力の場合は続けて「5-2 PDF の生成について」を行ってください。

5-1 PCL 出力と PDF 出力に共通の生成作業

[MapF]が選択された状態でツール・バーの最下段の[プロジェクトを生成する]  アイコンをクリックすると、「プロジェクトの保存」画面が表示されます。

プロジェクトは 3 つのファイルで構成されています。

- .MPW という拡張子のファイルは、オーバーレイです。
- .MPI という拡張子のファイルは、関連付けられたマッピングです。
- .MPP という拡張子のファイルは、プロジェクト・ファイルで、MPW および .MPI ファイルをリンクしています。

初めて保存するときは、ファイル名を入力する必要があります(今回は「demo5」としました)。「[プロジェクト名]」の下にファイル名を入力すると、.MPW および .MPI ファイルには自動的に同じ名前が付けられます。3 つのファイルは、同じ名前を付けて同じディレクトリーに保存する必要があります。

「OK」をクリックして保存します。「生成の設定」という新しいウィンドウが表示されます。

[言語]で「PCL5 Optimized」を選択します。


[モード]でカラー印刷かモノクロ印刷かを選択します。

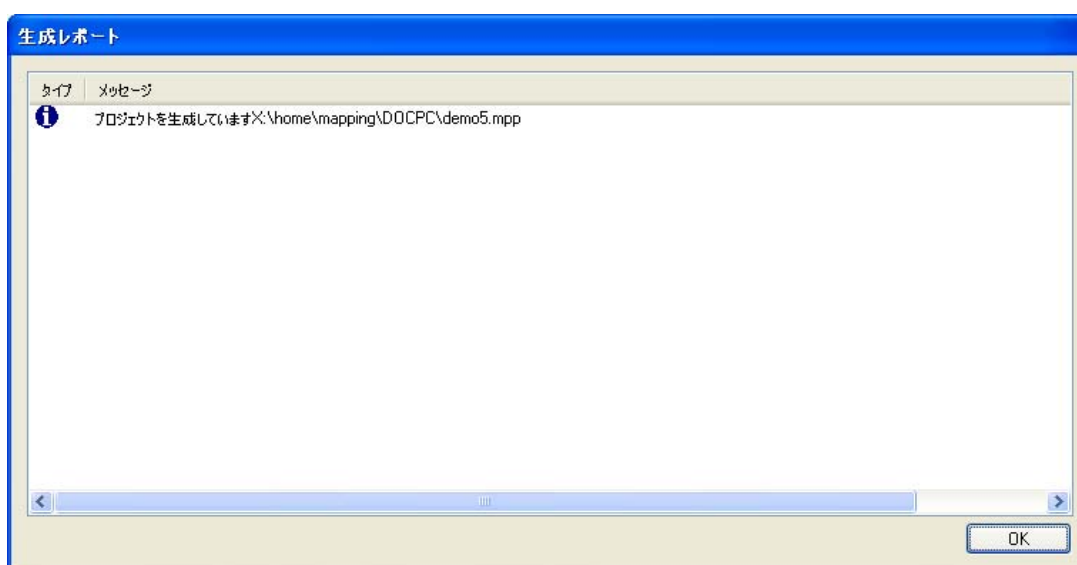
[生成オプション]で[オーバーレイ]と[フォント]のチェックを外して、それらを Mapping サーバーに送信しないように選択できます。この場合、プロジェクトの生成がより高速になります。ただし、オーバーレイ、およびオーバーレイとマッピングで使用されているフォントをまだ生成していない場合、少なくとも 1 回は生成する必要があります。さらに、オーバーレイとフォントの両方、またはいずれか一方を変更した場合は、それらを再度生成しなければなりません。

ウィンドウの下部に、マッピングの主な属性のサマリーが表示されます。

「OK」をクリックして確定します。これで、Mapping サーバーにマッピングが送信され、生成されます。

下記の生成レポートのタイプが  (正常)または  (警告)の場合は正常に生成されています。

 (エラー)があった場合にはエラーの原因を取り除いて再度生成作業を行ってください。



上図の生成完了のメッセージは、ファイルが正常に生成されたことを示しています。「OK」をクリックします。

PCL 出力の場合は、以上で MapDraw での操作は完了となります。

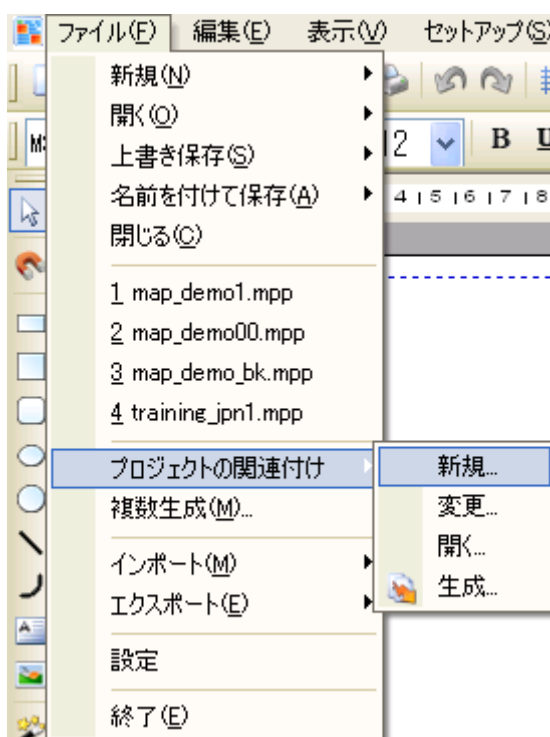
次は System i インターフェースに切り替えて、作成したフォーマットを取り込みます。(「6. MapDraw フォーマットの取込み」)

PDF 出力の場合は引き続き以降の作業(「5-2 PDF の生成について」)を行ってください。

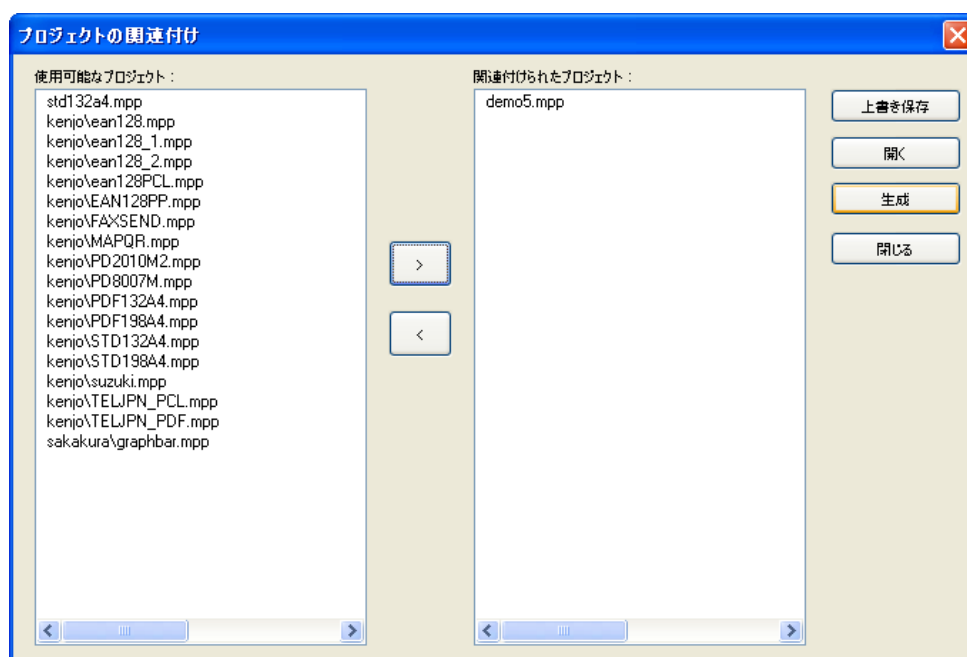
5-2 PDF の生成について

PDF ファイルを生成するためには、プロジェクトの関連付けという操作が必要となります。

[ファイル]メニューで、[プロジェクトの関連付け]→[新規]の順に選択します。



次のダイアログ・ボックスが表示されます。

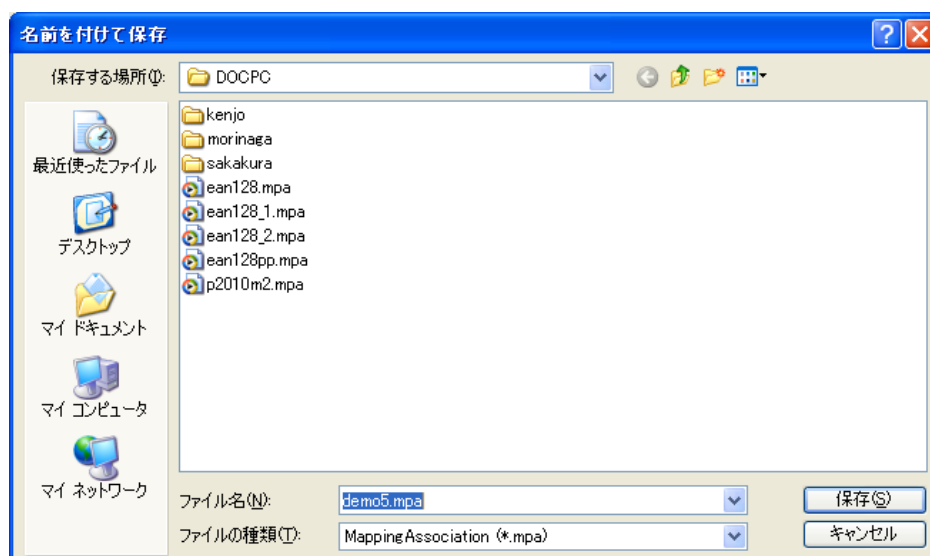


関連付けるプロジェクト・ファイル(MPP ファイル)を選択します。該当のプロジェクト・ファイルを選択して「>」ボタンをクリックすると上図のようになります。

この例では「demo5.mpp」を選択しています。

複数のシーケンスを持つフォーマットの場合には該当のプロジェクトを全て選択してください。

選択したプロジェクトに対して初めて関連付けを行う場合は「生成」ボタンをクリックします。「名前を付けて保存」画面が表示されますので名称を入力して保存してください。保存場所は他の 3 つのプロジェクト・ファイル(.MPW、.MPI、.MPP)と同じにします。関連は.MPA ファイルとして保存されます。

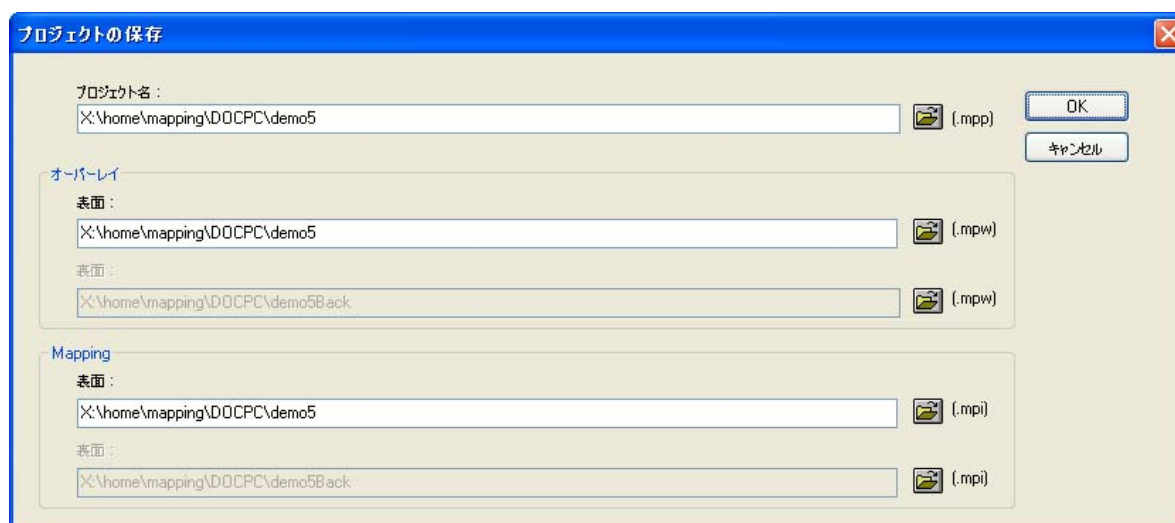


ここでは「demo5.mpa」としました。

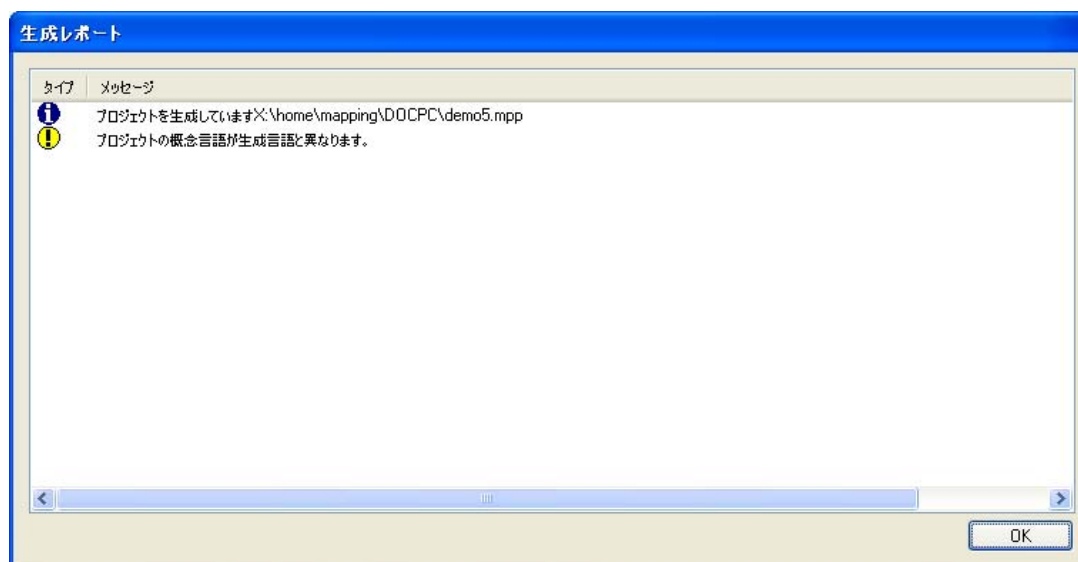
ファイルが保存されると「生成の設定」画面が表示されますので、生成言語を PDF にして「OK」をクリックします。



「プロジェクトの保存」画面が表示されますので「OK」をクリックします。



下図のような生成レポートが表示されればプロジェクトの関連付けは完了です。



これで、プロジェクトの関連付けによる PDF を出力するためのフォーマットの生成が終了しました。

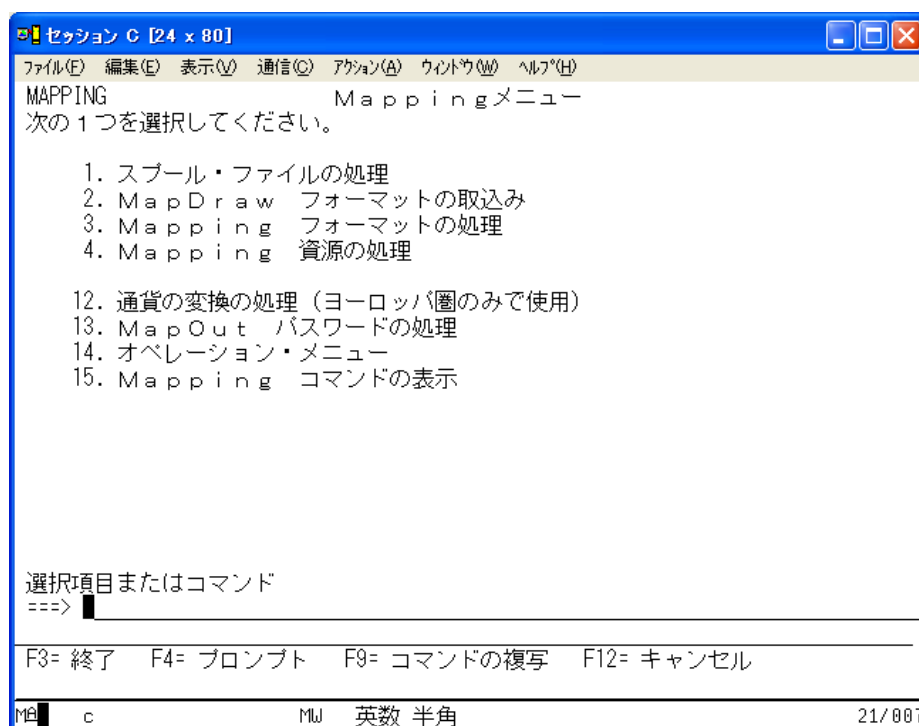
なお、新規の関連付けでない場合は、[ファイル] メニューで、[プロジェクトの関連付け]→[生成]を選択して該当のMPA ファイルを選択してください。すると「生成の設定」画面が表示されますので、新規の場合と同様に生成を行ってください。

次は System i インターフェースに切り替えて、作成したフォーマットを取り込みます。

6. MapDraw フォーマットの取込み

System i のコマンド行で「 GO MAPPING 」とタイプします。Mapping メニューが表示されます。

※GO MAPPING を実行する前に、ライブラリー・リストに「MAP400」が登録されている必要があります。ADDLIBLE コマンドまたは EDTLIBL コマンドで追加してください。



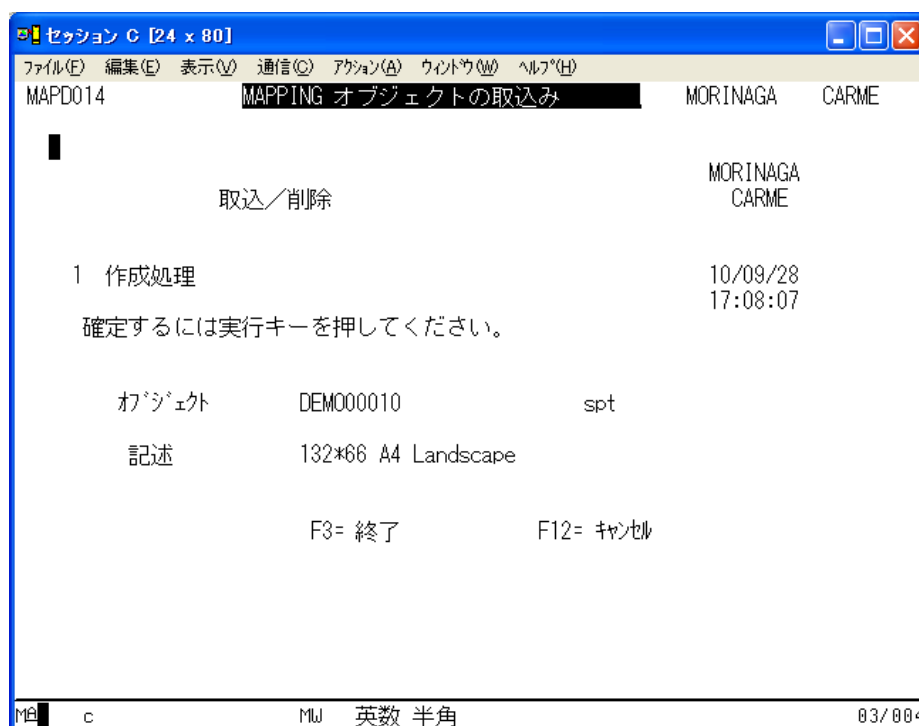
System i の Mapping メニューで、オプション「2. MapDraw フォーマットの取込み」を選択します。

フォーマット DEMO は System i に送信済みになっているはずですが、これは、<名前><シーケンス番号>.spt というファイル名になるので、ここでは、「DEMO00010.spt」というファイルがあるはずですが。



フォーマットの前に「1」を入力し、Enter キーを押します。

インポートの確認を求めるプロンプトが表示されます。



もう一度 Enter キーを押します。これにより System i 形式でインポートされます。
取り込んだフォーマットは、Mapping メニューのオプション「3. Mapping フォーマットの処理」で確認できます。

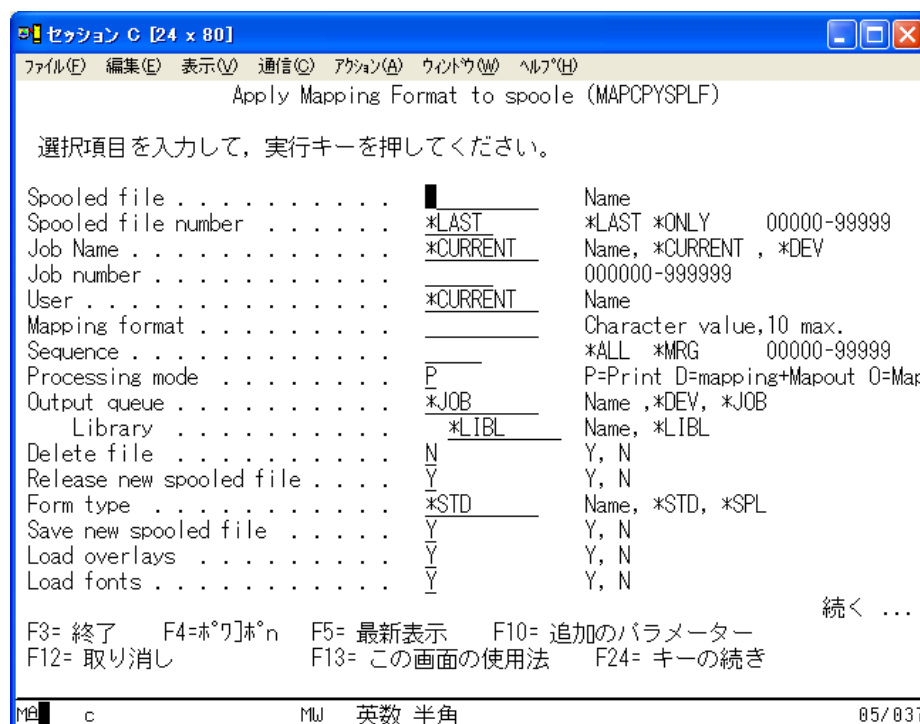
第 4 章 – Mapping 処理の実行

1. MAPCPYSPLF コマンド

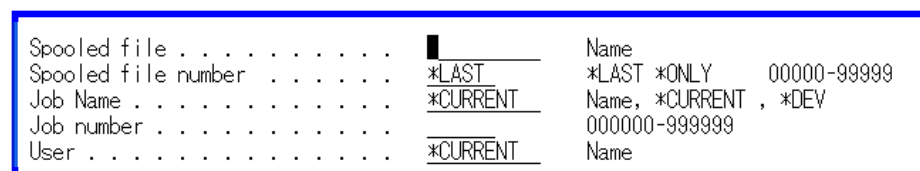
MAPCPYSPLF コマンドを利用してマッピング処理を行います。MAPCPYSPLF コマンドは以下のようなパラメーターを指定して実行されます。

System i のコマンド行で「MAPCPYSPLF」とタイプし F4 キーを押下します。

画面 1



コマンドを正しく実行するために、最初の 5 つの必須パラメーターを指定します。これらのパラメーターはマッピングするスプール・ファイルをユニークに識別するために使用されます。



<u>Spooled file (SPLF)</u>	スプール・ファイル名
<u>Spooled file number (SPLNUM)</u>	スプール・ファイル番号
<u>Job Name (JOB)</u>	スプール・ジョブ名
<u>Job number (JOBNUM)</u>	スプール・ジョブ番号
<u>User (USER)</u>	スプール・ユーザー

次に、スプール・ファイルに適用されるフォーマット名とシーケンスを指定します。「Sequence」フィールドには、明示的な番号 (例えば 00010)、*ALL または *MRG を入力できます。この後者の 2 つは複数シーケンス環境で使用されます。

```
Mapping format . . . . . _____ Character value,10 max.
Sequence . . . . . _____ *ALL *MRG 00000-99999
```

Mapping format (MAPNAM)

マッピング・フォーマット名

Sequence (MAPSEQ)

マッピング・フォーマット・シーケンス番号

複数シーケンス環境の例 1: *MRG を使用する例

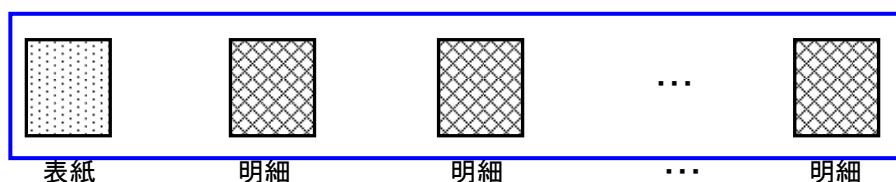
例えば、最初のページは請求書の表紙、それ以降のページは請求書の明細、というような 2 つの異なるレイアウトのページを持つ n ページのスパール・ファイルがあるとします。

このスパール・ファイルに対して Mapping 処理を実行するために、MapDraw で各レイアウトに対応した次の 2 つのプロジェクトを作成しておきます。2 つのプロジェクトをリンクするには、フォーマット名を同じにして別々のシーケンス番号を付けます。この例では以下のようにします。

- | | | |
|--------------|------------------|--------------|
| 1. 表紙用プロジェクト | フォーマット名: INVOICE | シーケンス: 00010 |
| 2. 明細用プロジェクト | フォーマット名: INVOICE | シーケンス: 00020 |

スパール・ファイルの表紙には表紙用フォーマット、明細には明細用フォーマットを使用して Mapping 処理を実行するためには、MAPPCYSPLF コマンドのシーケンスパラメーターで *MRG を選択します。

*MRG は MapDraw で設定された条件に従って、スパール・ファイルのページ単位でフォーマットを切り替えて適用するので、出力結果は以下ようになります。



使用する

フォーマット/シーケンス INVOICE/00010 INVOICE/00020 INVOICE/00020 ... INVOICE/00020

スパール・ファイル

ページ 1 2 3 ... n

複数シーケンス環境の例 2: *ALL を使用する例

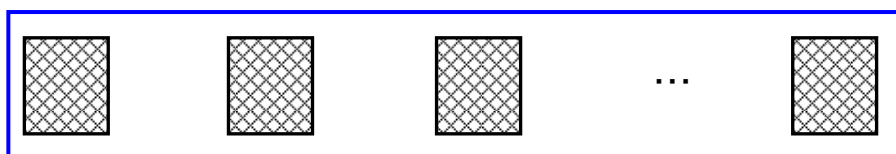
例えば、1 枚目: 納品書、2 枚目: 納品書控え、3 枚目: 受領書控え、4 枚目: 領収書、というような 4 枚複写の複写伝票があるとします。この複写伝票を Mapping を使用してカット紙化するとします。

複写伝票のカット紙化を Mapping で実現するために、MapDraw で各レイアウトに対応した次の 4 つのプロジェクトを作成しておきます。4 つのプロジェクトをリンクするには、フォーマット名を同じにして別々のシーケンス番号を付けます。この例では以下のようにします。

- | | | |
|-----------------|------------------|--------------|
| 1. 納品書用プロジェクト | フォーマット名: FUKUSYA | シーケンス: 00010 |
| 2. 納品書控え用プロジェクト | フォーマット名: FUKUSYA | シーケンス: 00020 |
| 3. 受領書控え用プロジェクト | フォーマット名: FUKUSYA | シーケンス: 00030 |
| 4. 領収書用プロジェクト | フォーマット名: FUKUSYA | シーケンス: 00040 |

スパール・ファイルの各ページに対して全フォーマットを使用して Mapping 処理を実行するためには、MAPPCYSPLF コマンドのシーケンスパラメーターで *ALL を選択します。

*ALL はひとつのフォーマットをスパール・ファイルの全ページに対して適用する処理を全てのフォーマットで繰り返すので、出力結果は以下ようになります。1~n ページのスパール・ファイルに対して全フォーマットが適用されることがわかります。



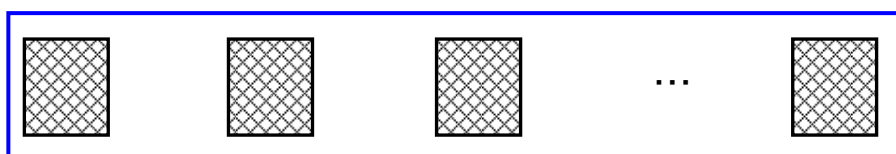
使用する
フォーマット/シーケンス

FUKUSYA/00010 FUKUSYA/00010 FUKUSYA/00010 ... FUKUSYA/00010

スプール・ファイル
ページ

1 2 3 ... n

←下へ続く



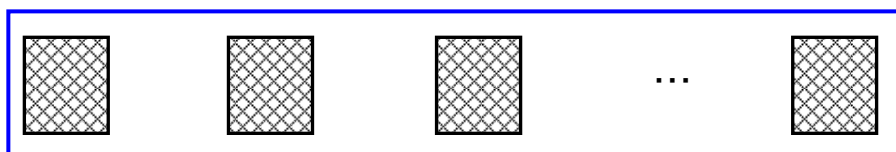
使用する
フォーマット/シーケンス

FUKUSYA/00020 FUKUSYA/00020 FUKUSYA/00020 ... FUKUSYA/00020

スプール・ファイル
ページ

1 2 3 ... n

←下へ続く



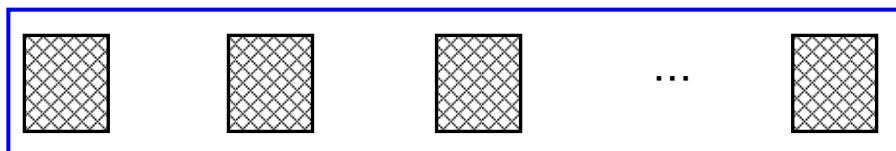
使用する
フォーマット/シーケンス

FUKUSYA/00030 FUKUSYA/00030 FUKUSYA/00030 ... FUKUSYA/00030

スプール・ファイル
ページ

1 2 3 ... n

←下へ続く



使用する
フォーマット/シーケンス

FUKUSYA/00040 FUKUSYA/00040 FUKUSYA/00040 ... FUKUSYA/00040

スプール・ファイル
ページ

1 2 3 ... n

残りの主な印刷パラメータ:

Processing mode (MAPMOD)

処理モード:

「P」は印刷のみ、「D」は印刷後にアーカイブ、「O」はアーカイブのみ

Output queue/library (OUTQ)

出力待ち行列／出力待ち行列のライブラリー名:

マッピング後のスプール・ファイルが出力される出力待ち行列とライブラリーを指定します。

Delete file (DEL)

スプール・ファイルの削除:

「N」はコマンドの実行後に元のスプール・ファイルを削除しません。

「Y」は削除します。

Release new spooled file (RDY)

新しいスプール・ファイルのリリース:

「Y」はマッピング後のスプール・ファイルを RDY にします。

「N」はマッピング後のスプール・ファイルを HLD にします。

Form type (FORMTYPE)

用紙タイプ:

用紙タイプ名を指定するか、またはデフォルトを使用します。用紙タイプを指定する場合は、その用紙をプリンターにセットするようプロンプトが出されます。

Save new spooled file (MAPSAV)

新しいスプール・ファイルの保管:

「Y」はマッピング後のスプール・ファイルを SAVE(*YES)にします。

(この場合、マッピングされたファイルを再生成しなくても直接再印刷できます。)

「N」はマッピング後のスプール・ファイルを保存しません。

Load overlays (SNDFDP)

オーバーレイのロード:

「Y」はスプール・ファイル・データと同時にオーバーレイ・データ・ストリームをプリンターへ送信します。

「N」は送信しません。

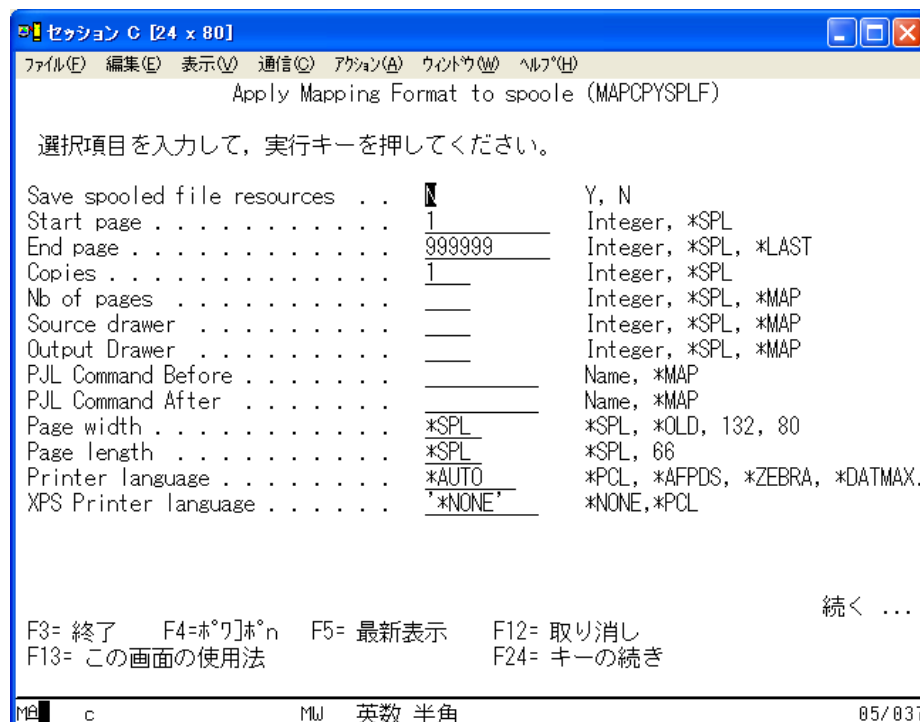
Load fonts (SNDPOL)

フォントのロード:

「Y」はスプール・ファイル・データと同時にフォント・データ・ストリームをプリンターへ送信します。

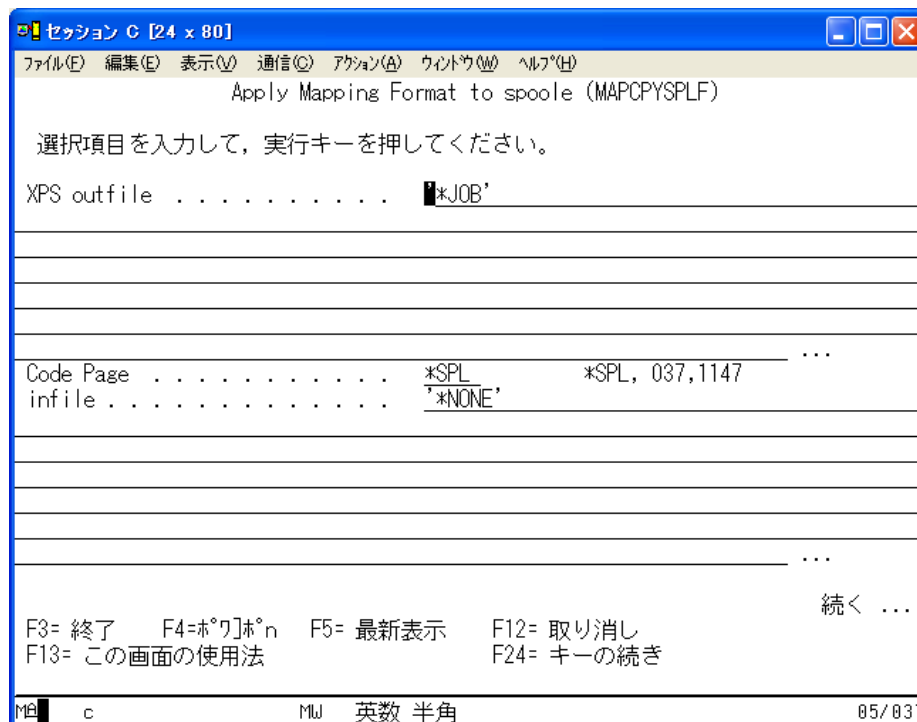
「N」は送信しません。

画面 2



<u>Save spooled file resources (POLSAV)</u>	オーバーレイとフォントの保存: 現在は使用されていません。
<u>Start/End page (PAGSTR/PAGEND)</u>	マッピング開始ページ/マッピング終了ページ: 必要な場合は、マッピング開始ページと終了ページを指定できます。
<u>Copies (NBCOPY)</u>	コピー部数: コピー部数、またはスプール・ファイル属性 (*SPL の場合) を指定します。 この結果、ページ 1 からページ n までを印刷した後、再びページ 1 からページ n を印刷するという順になります。
<u>Nb of pages (NBEXEM)</u>	ページ数: 各ページを n 部ずつ印刷します (ページ 1 を n 回印刷し、次にページ 2 を n 回印刷するなど)。指定する場合は、オペレーション・メニューのオプション「14. 出力待ち行列の設定」のパラメーターと合わせる必要があります
<u>Source Drawer (INPUTBIN)</u>	入力ドロー番号: 使用される給紙トレイの PCL コードを入力するか、スプール・ファイル属性の値 (*SPL 値) を使用するか、または オペレーション・メニューのオプション「14. 出力待ち行列の設定」で定義した値 (*MAP 値) を使用します。
<u>Output Drawer (OUTPUTBIN)</u>	出力ドロー番号: 使用される排紙トレイの PCL コードを入力するか、スプール・ファイル属性の値 (*SPL 値) を使用するか、または オペレーション・メニューのオプション「14. 出力待ち行列の設定」の値 (*MAP 値) を使用します。
<u>PJL Command Before (PJLBEFORE)</u>	PJL コマンド(Before): 印刷前に実行される PJL シーケンスを挿入します。 オペレーション・メニューのオプション「14. 出力待ち行列の設定」で定義する値 (*MAP 値) と一緒に使用してください。
<u>PJL Command After (PJLAFTER)</u>	PJL コマンド(After): 印刷後に実行される PJL シーケンスを挿入します。 オペレーション・メニューのオプション「14. 出力待ち行列の設定」で定義する値 (*MAP 値) と一緒に使用してください。
<u>Page width (RECLLEN)</u>	スプール・ファイルのページ幅: マッピング後のスプール・ファイルの桁数。主に AFP スプール・ファイルをマッピングする場合に使用されます。その他の場合は、デフォルト値のままにしてください。
<u>Page length (OVRFLW)</u>	スプール・ファイルのページ長: マッピング後のスプール・ファイルの行数。主に AFP スプール・ファイルをマッピングする場合に使用されます。その他の場合は、デフォルト値のままにしてください。
<u>Printer language (TYPLAN)</u>	プリンター言語: プリンターがマッピングされたスプール・ファイルを受信する際のデータ形式。主にラベルプリンターに使用します。
<u>XPS Printer language (XPSCONVERT)</u>	XPS で出力する場合に使用します。(※現在はまだ使用されません。)

画面 3



XPS outfile (XPSOUTFILE)

XPS で出力する場合に使用します。(※現在はまだ使用されません。)

Code page (CP)

コードページ:
コードページの値を指定します。日本語環境では明示的な値の指定が必要です。スプール・ファイルを作成したジョブの CCSID が 5026 の場合には 290、スプール・ファイルを作成したジョブの CCSID が 5035 の場合には 1027 を指定してください。

Infile (INFILE)

デフォルト値のままにしてください。

2. MAPSPLPDF コマンド

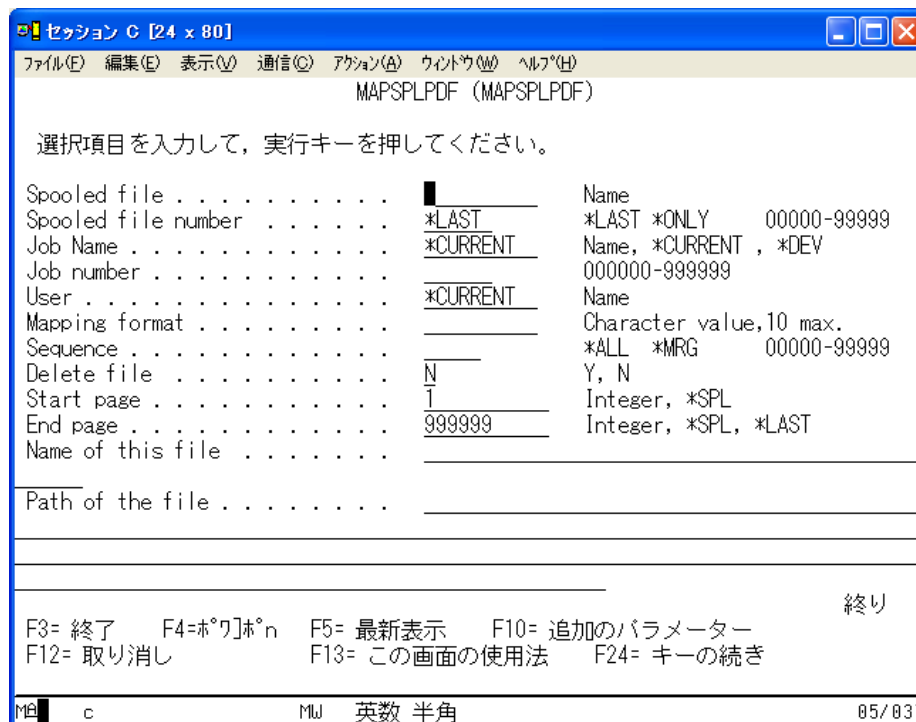
MAPSPLPDF コマンドを利用してスプール・ファイルから PDF ファイルを生成することができます。

※このコマンドを使用するには、「PDFオプション」を購入していただく必要があります。

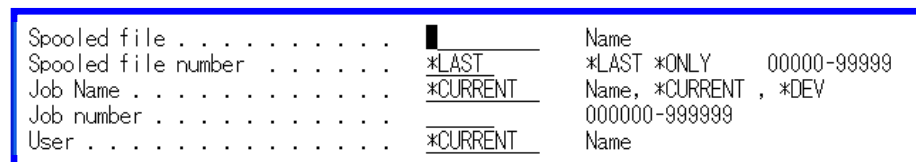
はじめに: Mapping で PDF ファイルを作成するには、PDF 言語で生成された MapDraw フォーマットを作成する必要があります。
作成方法は「5-2 PDF の生成について」を参照してください。

System i のコマンド行で「MAPSPLPDF」とタイプし F4 キーを押下します。

画面 1

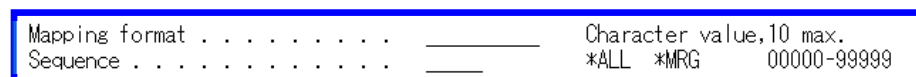


コマンドを正しく実行するために、最初の 5 つの必須パラメーターを指定します。
これらのパラメーターはマッピングするスプール・ファイルをユニークに識別するために使用されます。



<u>Spooled file (SPLF)</u>	スプール・ファイル名
<u>Spooled file number (SPLNUM)</u>	スプール・ファイル番号
<u>Job Name (JOB)</u>	スプール・ジョブ名
<u>Job number (JOBNUM)</u>	スプール・ジョブ番号
<u>User (USER)</u>	スプール・ユーザー

次に、スプール・ファイルに適用されるフォーマット名とシーケンスを指定します。
MAPPCPYSPLF コマンドとは異なり、「Sequence」パラメーターは明示的な番号 (例えば 00010) か *MRG のみが有効です。
*ALL は機能しません。(*ALL は *MRG と同じ動作をします。)



<u>Mapping format (MAPNAM)</u>	マッピング・フォーマット名
<u>Sequence (MAPSEQ)</u>	マッピング・フォーマット・シーケンス番号

残りの主な生成パラメーター:

Delete file (DELSPL)

スプール・ファイルの削除:
「N」はコマンドの実行後に元のスプール・ファイルを削除しません。
「Y」は削除します。

Start/End page (PAGSTR/PAGEND)

マッピング開始ページ/マッピング終了ページ:
必要な場合は、マッピング開始ページと終了ページを指定できます。

Page width (RECLEN)

スプール・ファイルのページ幅:
マッピング後のスプール・ファイルの桁数。主に AFP スプール・ファイルをマッピングする場合に使用されます。その他の場合は、デフォルト値のままにしてください。

Page length (OVRFLW)

スプール・ファイルのページ長:
マッピング後のスプール・ファイルの行数。主に AFP スプール・ファイルをマッピングする場合に使用されます。その他の場合は、デフォルト値のままにしてください。

Name of this file (NAME)

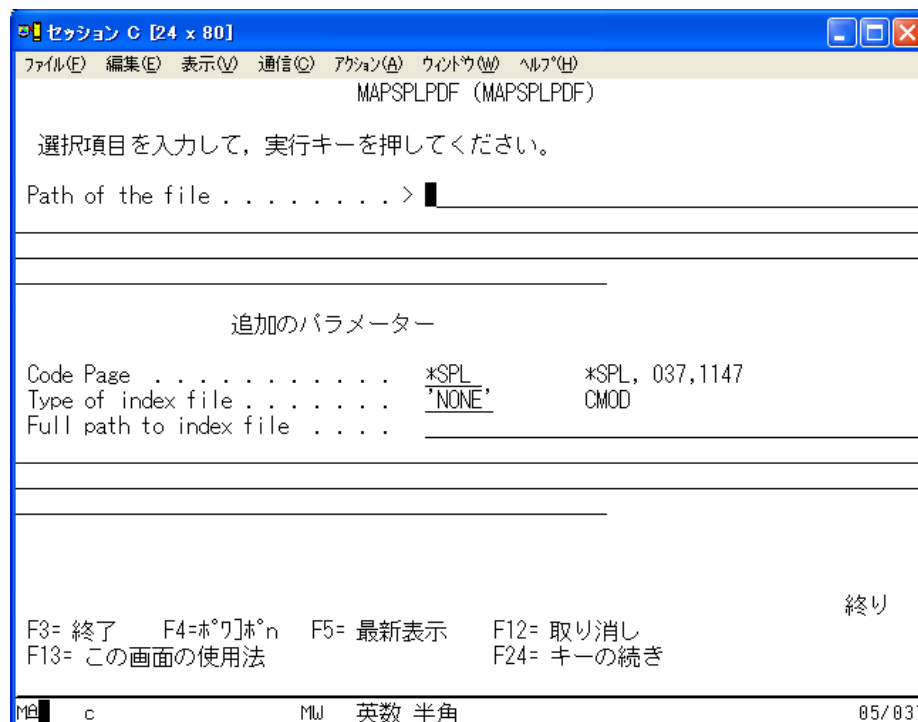
作成する PDF ファイル名:
PDF ファイル名を指定してください。(拡張子を含みます。)

Path of the file (PATH)

作成する PDF ファイルが置かれる IFS ディレクトリーのフルパス名:
PDF ファイルの作成フォルダーを完全なパス名で指定します。(PDF ファイルは、System i の指定された IFS フォルダ上に作成されます。パス名の最後のスラッシュ(/)を必ず入力してください。例: /home/Mapping/PDF/)

- ※ ファイル名、パス名には SBCS しか指定できません。DBCS を使用したい場合には MAPSPLPDF コマンドで PDF 作成後に RNM コマンドを使用してオブジェクト名を変更してください。
- ※ パス名の最大長は 150 バイトです。

画面 2



Code page (CP)

コードページ:
コードページの値を指定します。日本語環境では明示的な値の指定が必要です。スプール・ファイルを作成したジョブの CCSID が 5026 の場合には 290、スプール・ファイルを作成したジョブの CCSID が 5035 の場合には 1027 を指定してください。

Type of index file (INDEX)

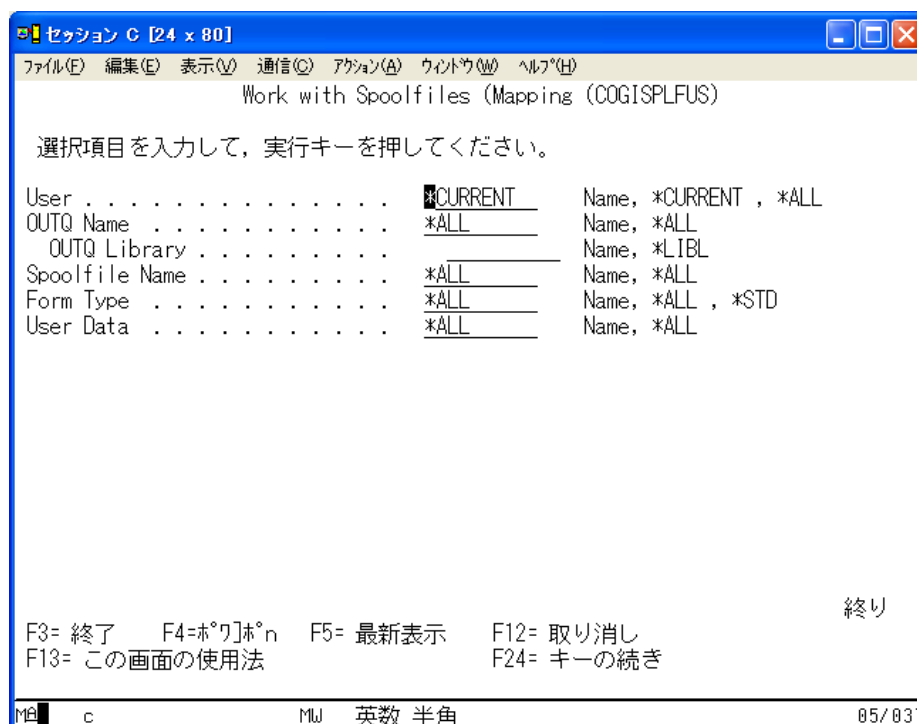
インデックス・ファイルの作成:
「NONE」はインデックス・ファイルを作成しません。

Full path to index file (INDEXFILE)

「CMOD」は IBM CM OnDemand 用インデックスを作成します。
作成するインデックス・ファイルが置かれる IFS ディレクトリーのフルパス名:

3. Mapping による対話型のスプール・ファイル処理

コマンド行で「GO MAPPING」と入力します。
オプション「1. スプール・ファイルの処理」を選びます。
以下のような画面が現れます。



以下を指定して、スプール・ファイルを絞り込み検索することができます。

- ユーザー名、*ALL または *CURRENT
- OUTQ
- スプール・ファイル名
- 用紙タイプ
- ユーザー・データ (USRDTA)

以下のような画面が現れます。



「スプール・ファイルの処理」画面での Mapping アクション

オプション M=マッピング

- ➡ スプール・ファイルを対話型マッピングします。ここでは PCL で生成された Mapping フォーマットだけが使用出来ます。Mapping 機能の中には、例えばトレイの管理のように、対話モードでは使用できないものもあります。

オプション R=再印刷

- ➡ スプール・ファイルを指定されたページから再印刷します。

オプション D=複製 (MAPDUPSPLF コマンド)

- ➡ スプール・ファイルを別の OUTQ にコピーします。

オプション P=PC への転送 (MAPPAGIFS コマンド)

- ➡ 1 つのスプール・ファイルを IFS へコピーします。ファイルの拡張子は「.PAG」です。
このアクションは、MapDraw プロジェクトで使用されるサンプルのスプール・ファイルを作成する際に大変役立ちます。

オプション V=ASCII 表示 (MAPVIEWPCL コマンド)

- ➡ MAPOUT 内の ASCII のスプール・ファイルをプレビューします。

以下のその他の操作は、この画面から実行できます。

オプション E=MAPECLAT コマンド

- ➡ スプール・ファイルを複数の OUTQ 上に複製して、スプール・ファイルを分割します。この結果のスプール・ファイルは、元のファイルと同数のページを持ちます。各スプール・ファイルの「開始ページ/終了ページ」属性のみが変化します。

オプション S=MAPSORTSPL コマンド

- ➡ ファイルをソートし、その結果をデータベース・ファイルに入れるか、または新規のソート済みスプール・ファイルを生成します。

オプション T=TCP/IP 経由 (OS/400 コマンド SNDTCPSPLF)

- ➡ System i 間でスプール・ファイルを送信します。

4. MAPIFS2PRT コマンド

MAPIFS2PRT コマンドを利用して IFS 上の PDF ファイルからスプール・ファイルを生成し、それを PDF ダイレクト印刷が可能なプリンターや、Mapping Virtual Printer (MVP) に送ることができます。

System i のコマンド行で「MAPIFS2PRT」とタイプし F4 キーを押下します。

画面 1

File to insert (FILE)

出力する PDF ファイルを完全なパス名で指定
(例: '/home/mapping/demo.pdf')

Spooled file (SPLF)

PDF の元となるスプール・ファイル名

Output queue/Library (OUTQ)

スプール・ファイルを出力する OUTQ 名とライブラリー名
(通常これはリモート OUTQ となります。)

Release new spooled file (RDY)

出力したスプール・ファイルのステータス:
「Y」はマッピング後のスプール・ファイルを RDY にします。
「N」はマッピング後のスプール・ファイルを HLD にします。

Save new spooled file (SAV)

作成したスプール・ファイルの出力後のステータス:
「Y」はマッピング後のスプール・ファイルを SAVE(*YES)にします。
「N」はマッピング後のスプール・ファイルを保存しません。

Form type (FORMTYPE)

用紙タイプ

Use PJJ (USEPJJ)

PJJ (Printer Job Language) コマンドをプリンターに送るか否か:
「*NO」は PJJ コマンドをプリンターに送りません。
「*YES」は PJJ コマンドをプリンターに送ります。

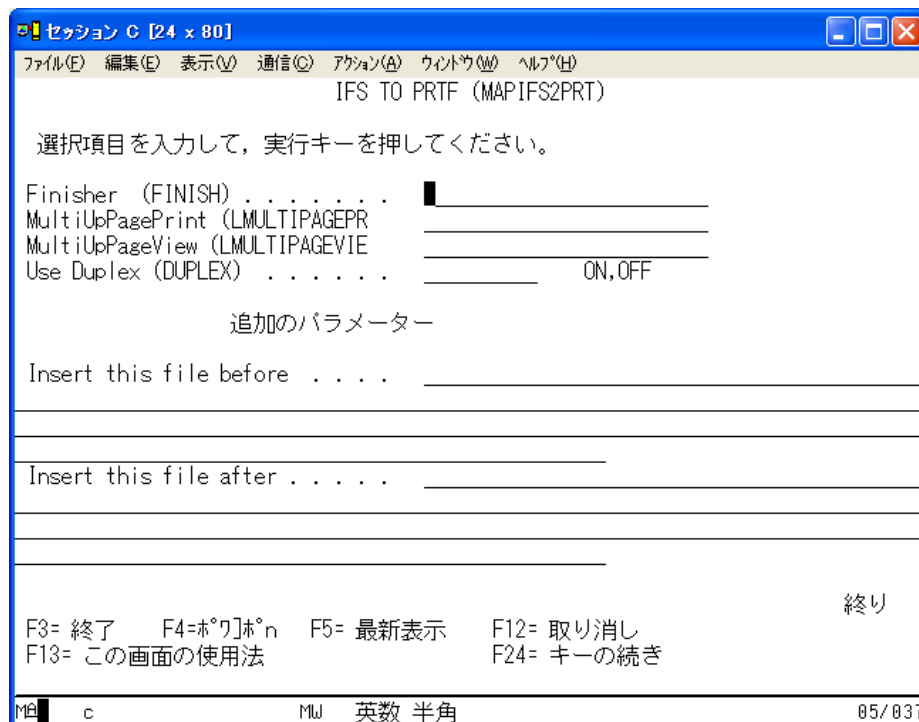
Input bin (TRAY)

Output bin (OUTBIN)

Printer job name (JOBNAME)

Quantity (QTY)

画面 2



Finisher(FINISH) (PJLFINISH)

MultiUpPagePrint(LMULTIPAGEPR (PJLMPPRINT)

MultiUpPageView(LMULTIPAGEVIE (PJLMPVIEW)

Use Duplex(DUPLEX) (PJLDUPLEX)

Insert this file before (BEFORE)

Insert this file after (AFTER)

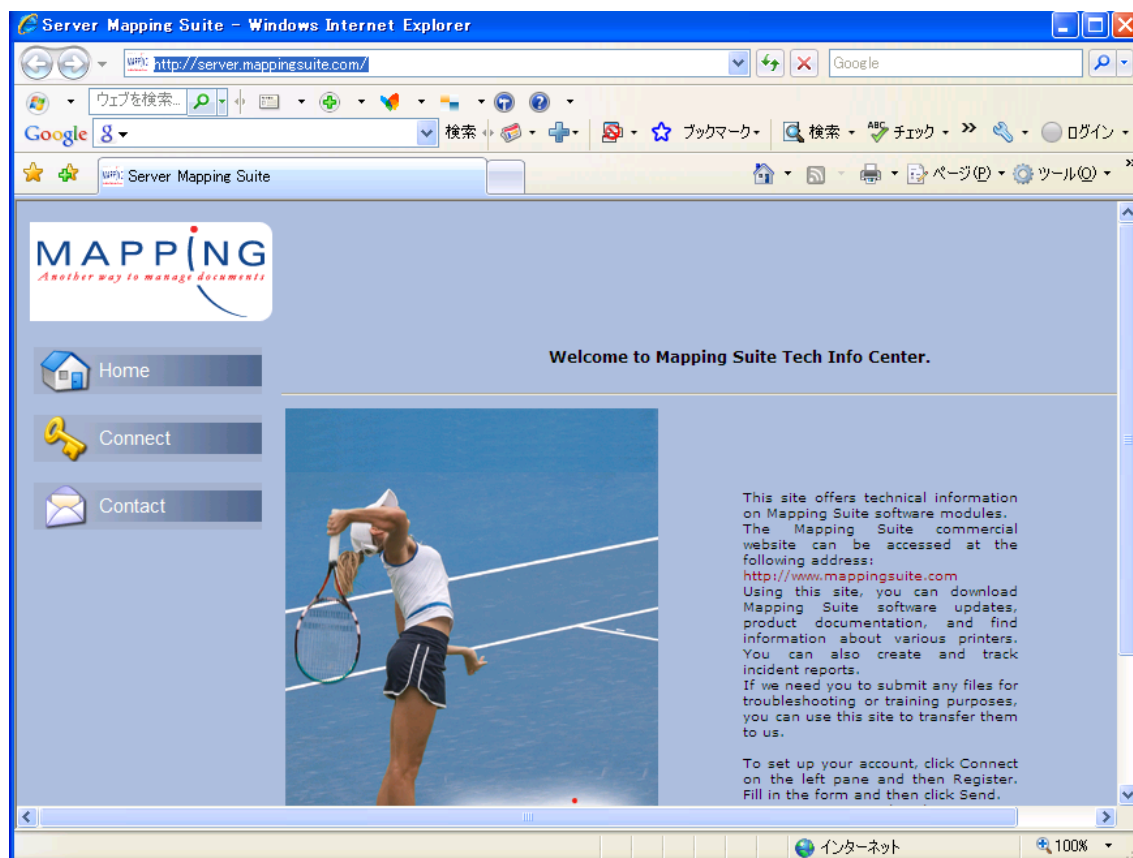
複数の PJI コマンドを IFS 上のテキスト・ファイルに登録しておき、PDF のスプール・ファイルの前に PJI コマンドをプリンターへ送信することができます。
 複数の PJI コマンドを IFS 上のテキスト・ファイルに登録しておき、PDF のスプール・ファイルの後に PJI コマンドをプリンターへ送信することができます。

補足

1. MAP400 のダウンロード方法

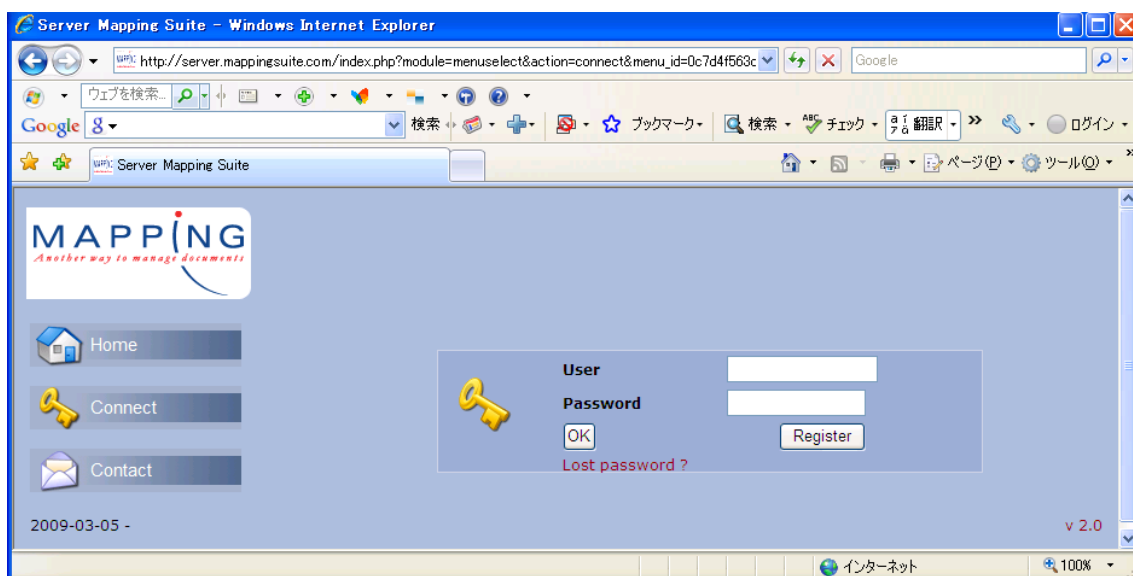
Mapping 社の Web サイトへアクセスします。

URL: <http://server.mappingsuite.com/>

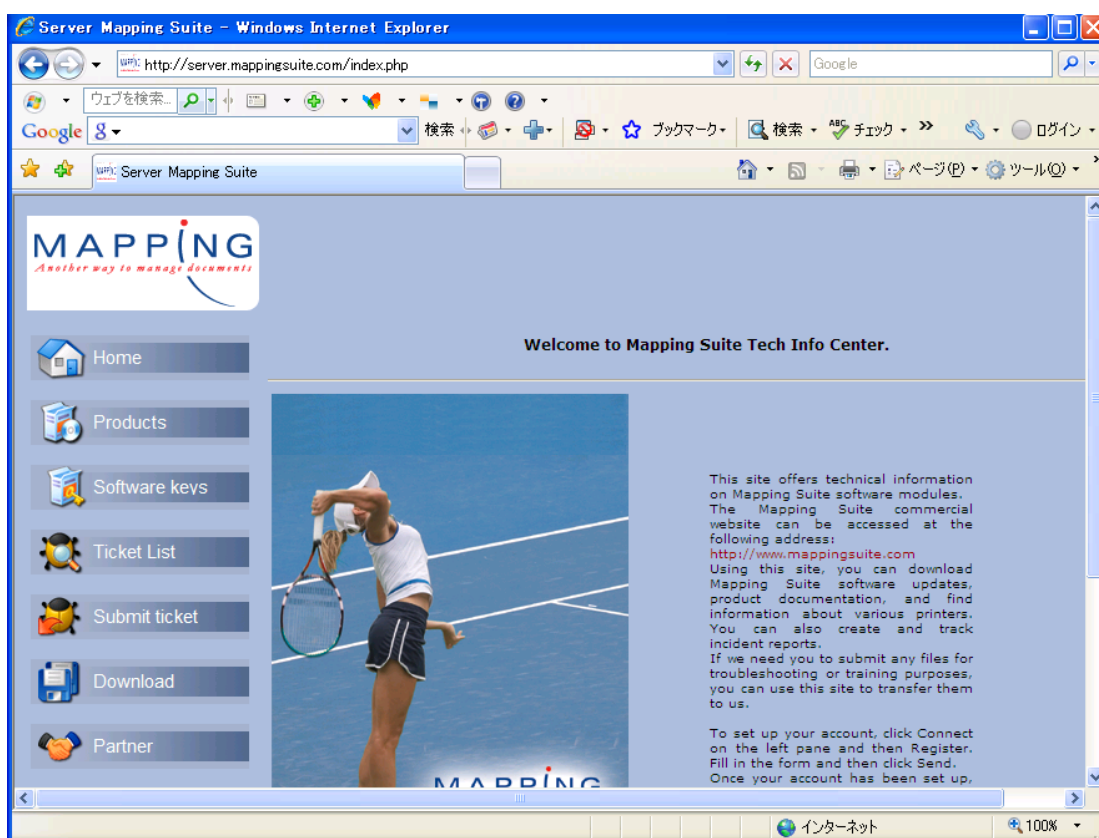


左側の「Connect」をクリックします。

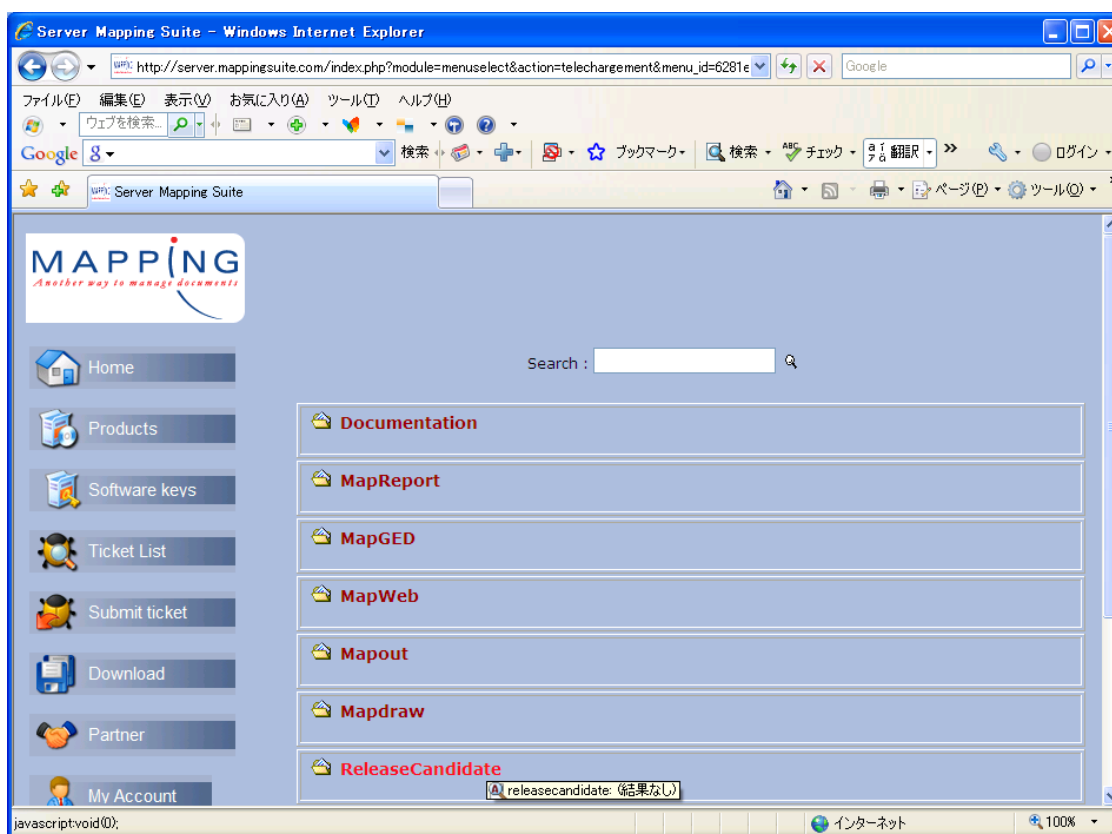
ログイン画面が表示されますので、あらかじめ Mapping 社からメールで通知されたユーザー名とパスワードでログインします。



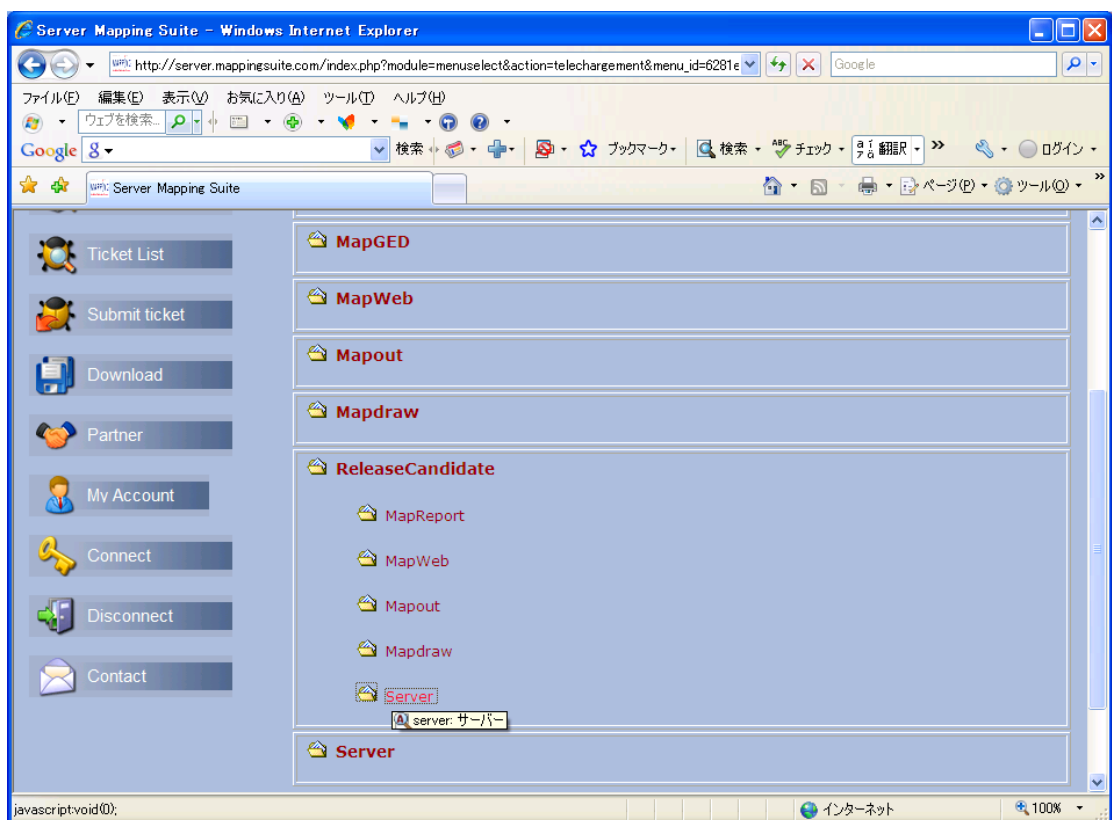
ログイン後の画面です。



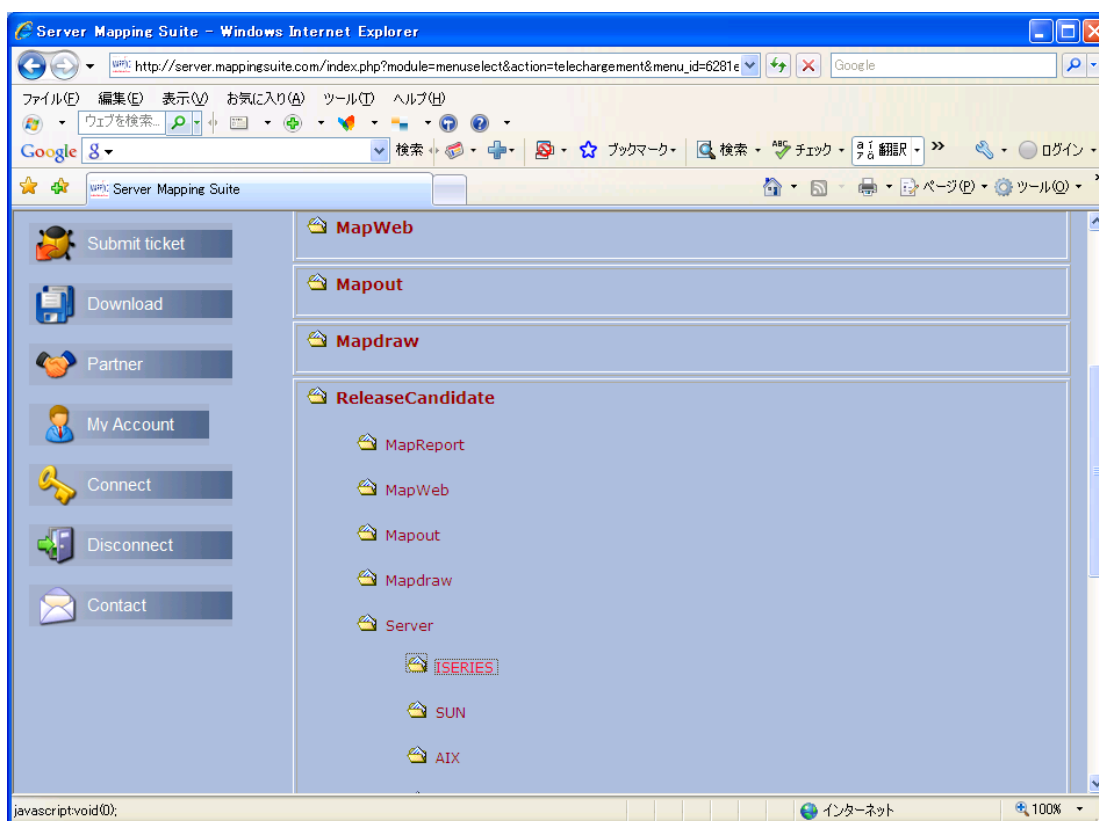
左側の[Download]をクリックします。



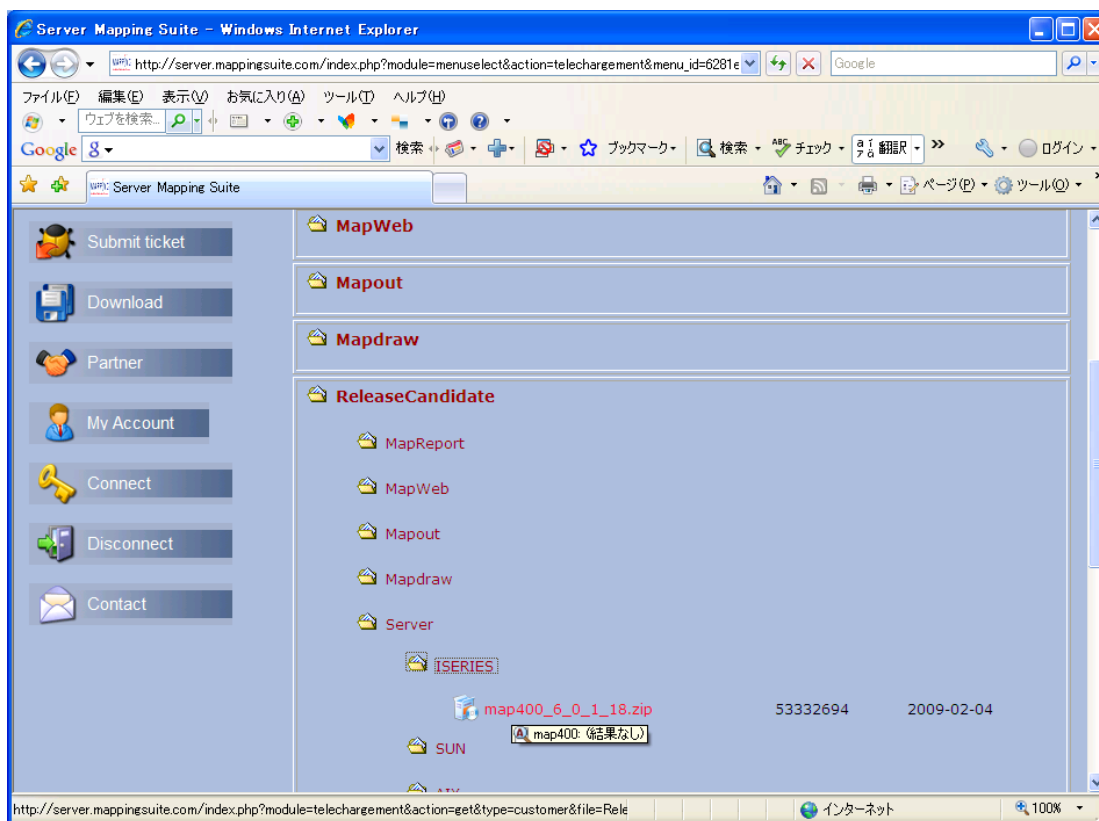
[ReleaseCandidate]をクリックします



[Server]をクリックします。

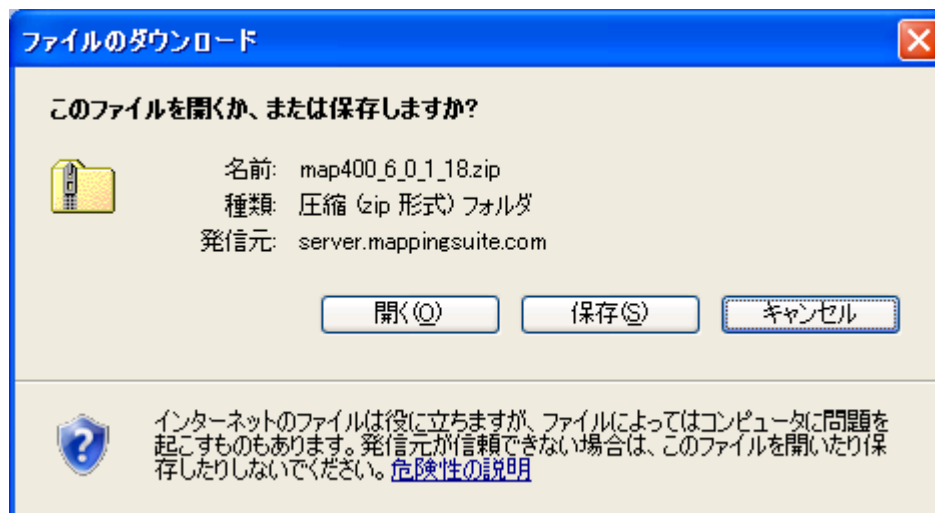


[ISERIES]をクリックします。



[map400_6_0_1_18.zip]をクリックします。(ファイル名は異なっている場合があります)

ファイルのダウンロード画面が表示されます。[保存]ボタンを押してダウンロードを開始します。

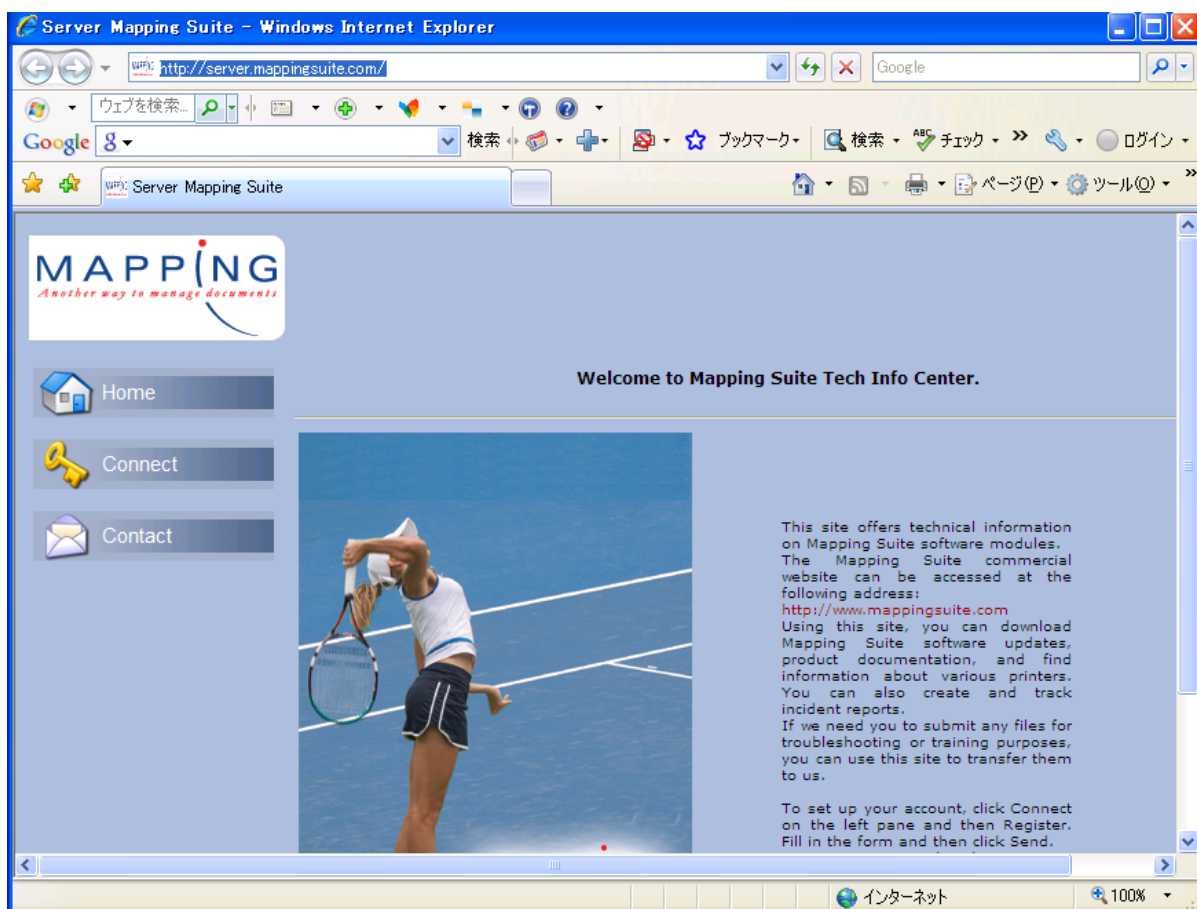


ダウンロード後のファイルはZIP形式で圧縮されていますので、解凍してから使用してください。解凍すると「map400.savf」になります。

2. MapDraw のダウンロード方法

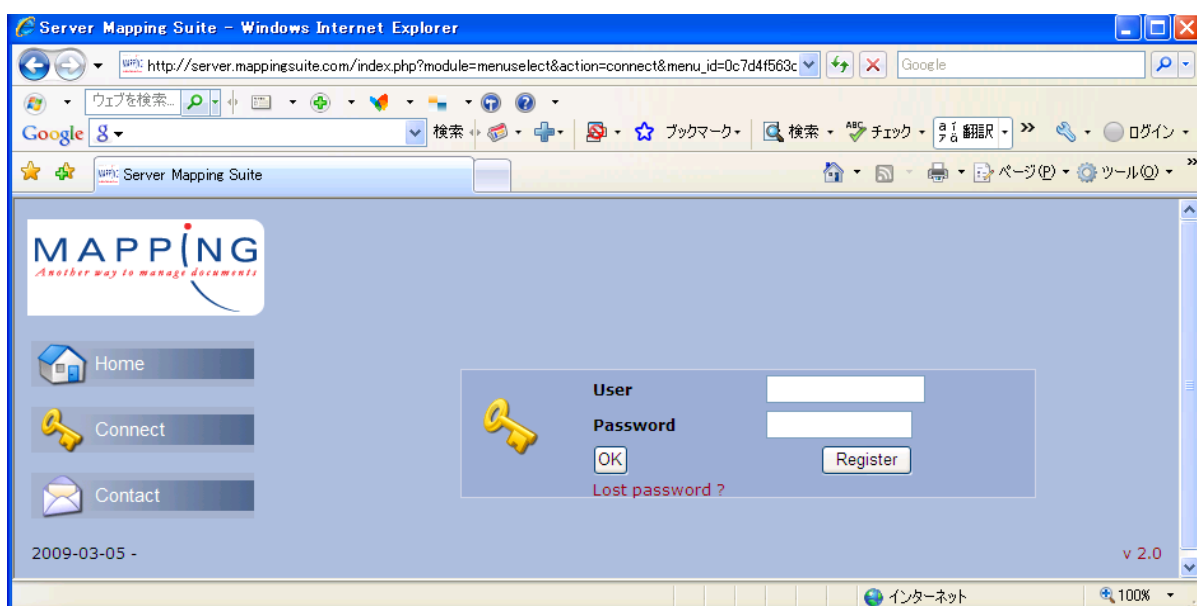
Mapping 社の Web サイトへアクセスします。

URL: <http://server.mappingsuite.com/>



左側の「Connect」をクリックします。

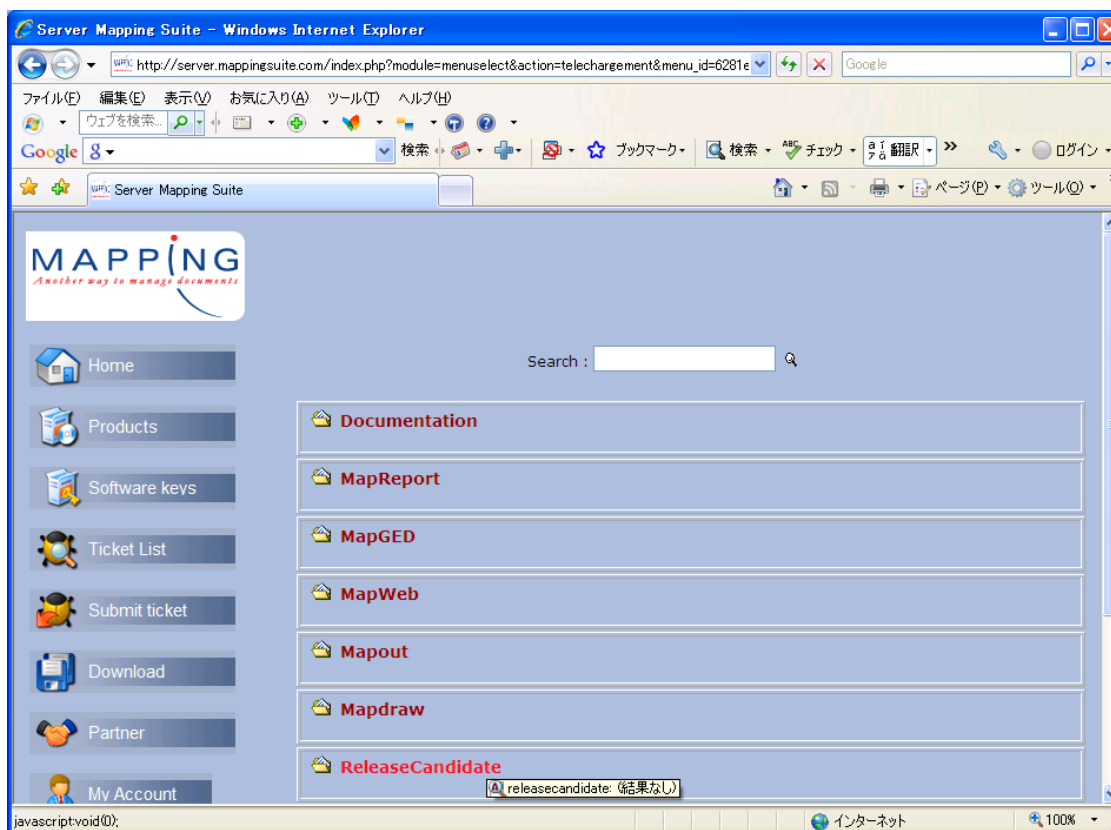
ログイン画面が表示されますので、あらかじめ Mapping 社からメールで通知されたユーザー名とパスワードでログインします。



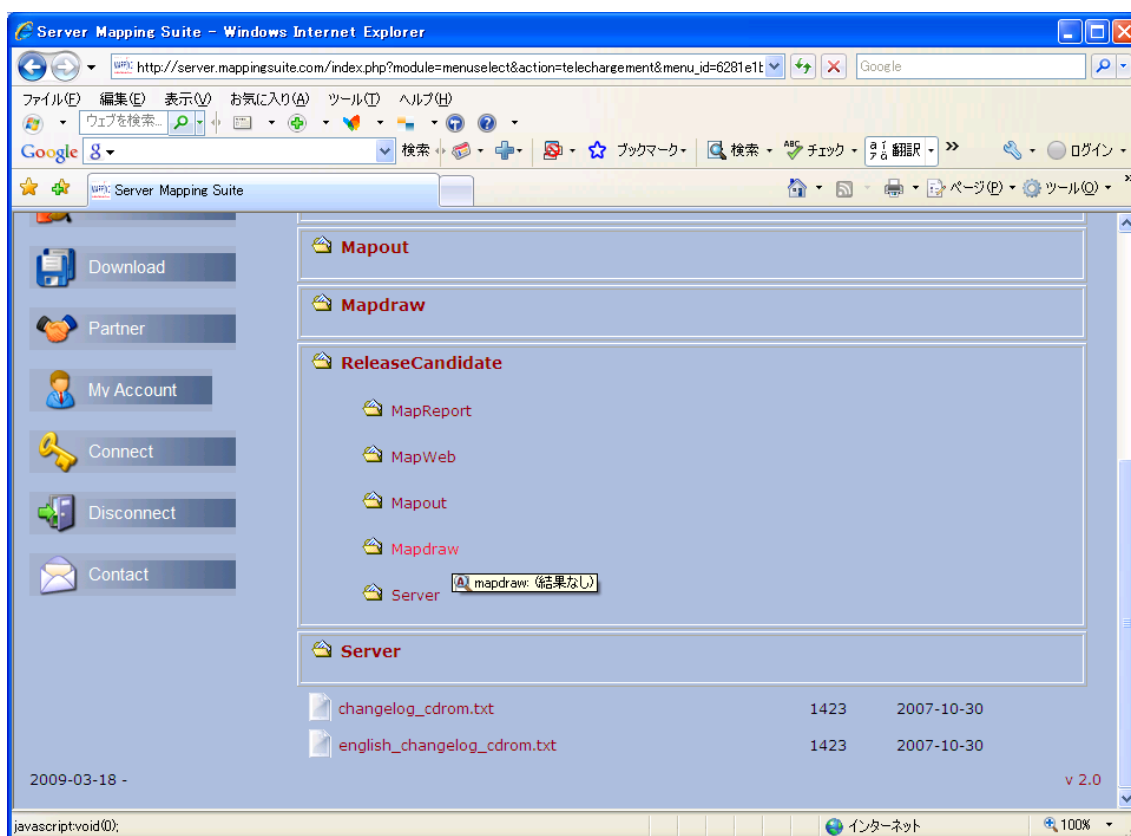
ログイン後の画面です。



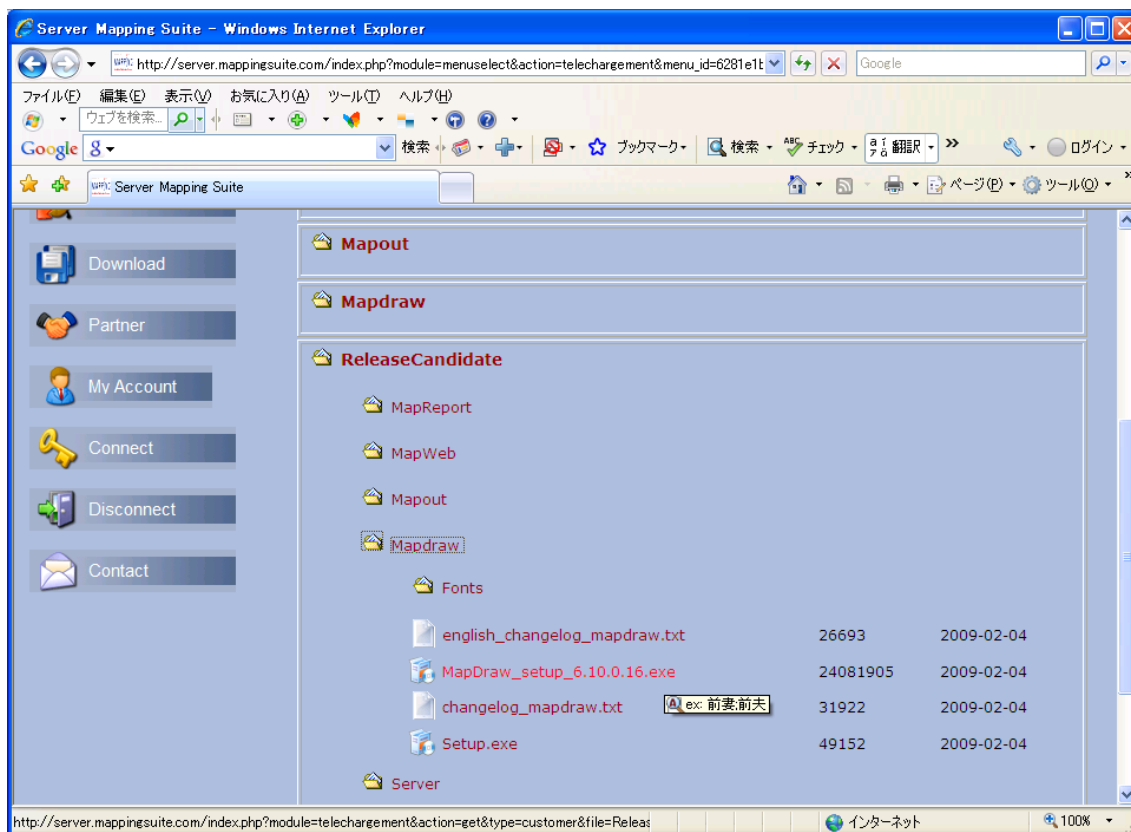
左側の[Download]をクリックします。



[ReleaseCandidate]をクリックします。

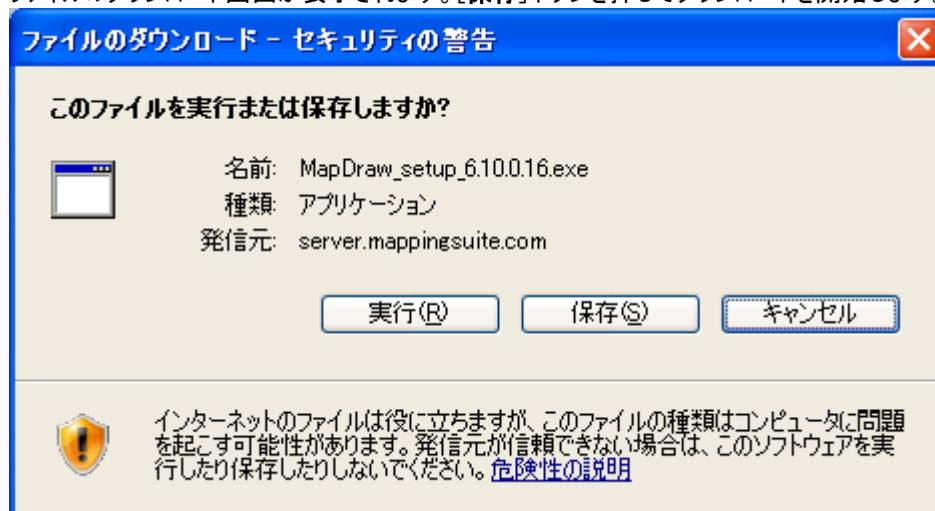


[Mapdraw]をクリックします。



[MapDraw_setup_6.10.0.16.exe]をクリックします。(ファイル名は異なっている場合があります)

ファイルのダウンロード画面が表示されます。[保存]ボタンを押してダウンロードを開始します。

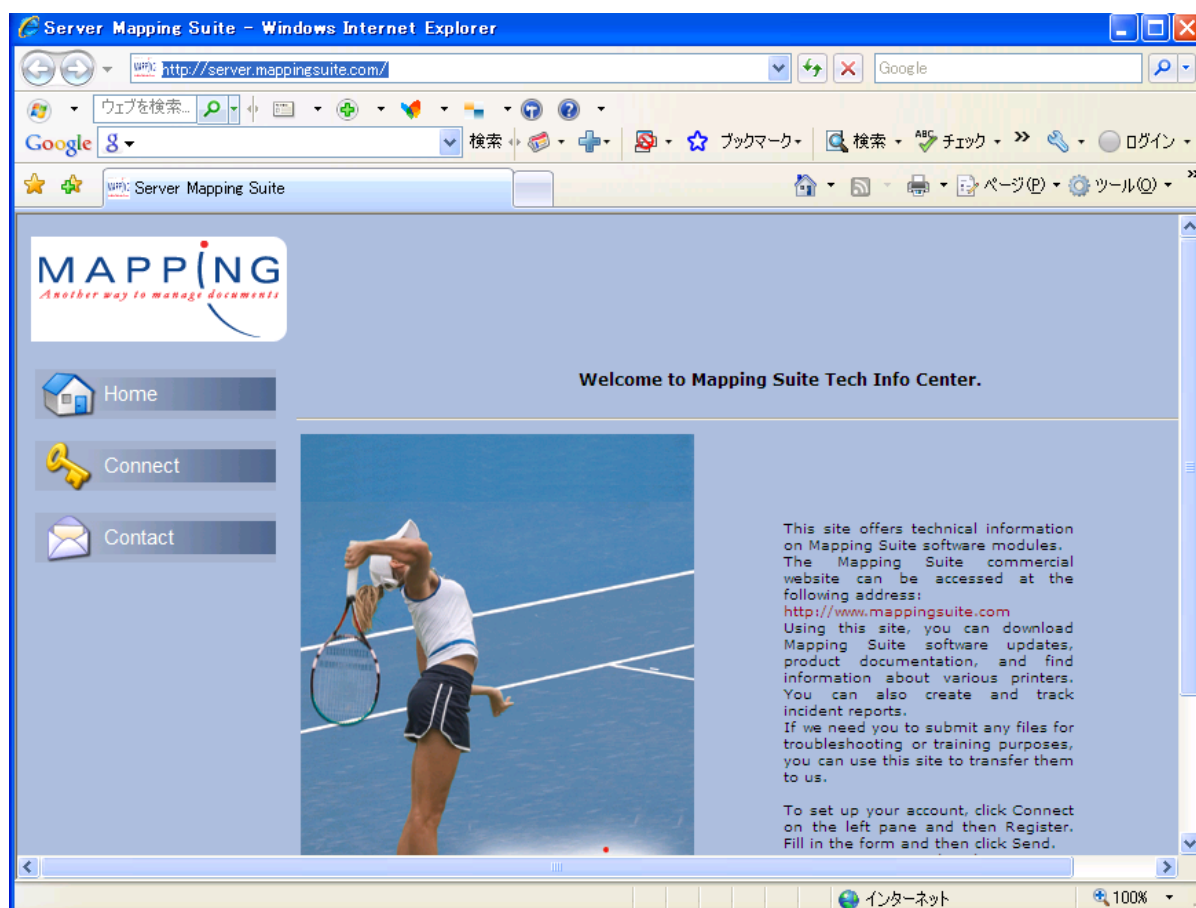


ダウンロード完了後、WindowsPC 上で、このプログラムを実行すると、「MapDraw」のインストールが開始されます。

3. バーコード・フォントのダウンロード方法

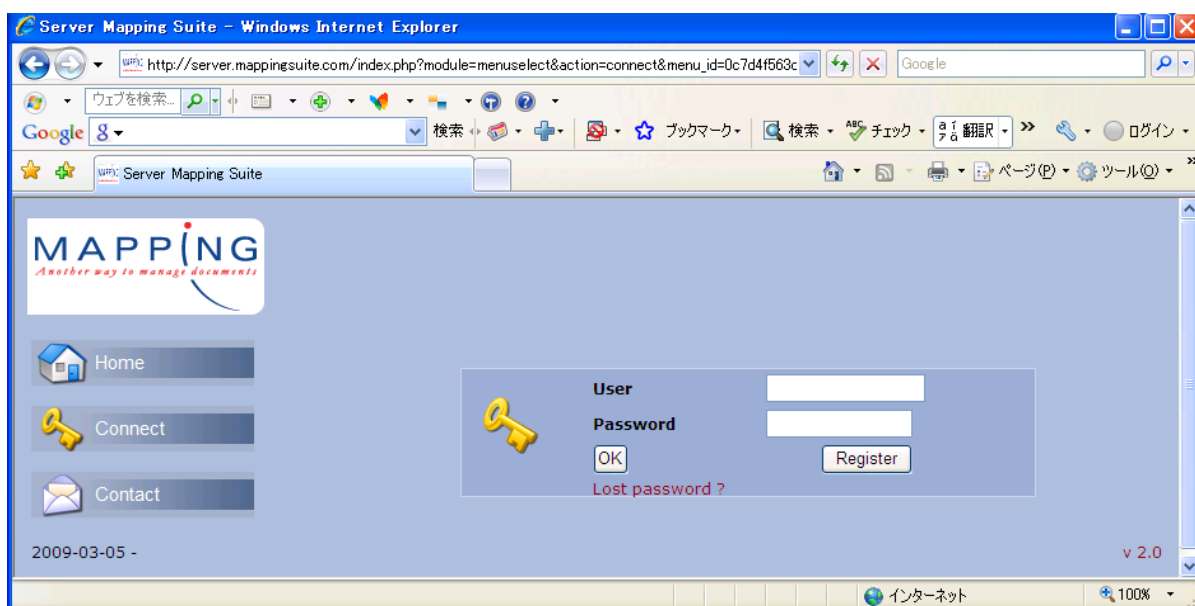
Mapping 社の Web サイトへアクセスします。

URL: <http://server.mappingsuite.com/>

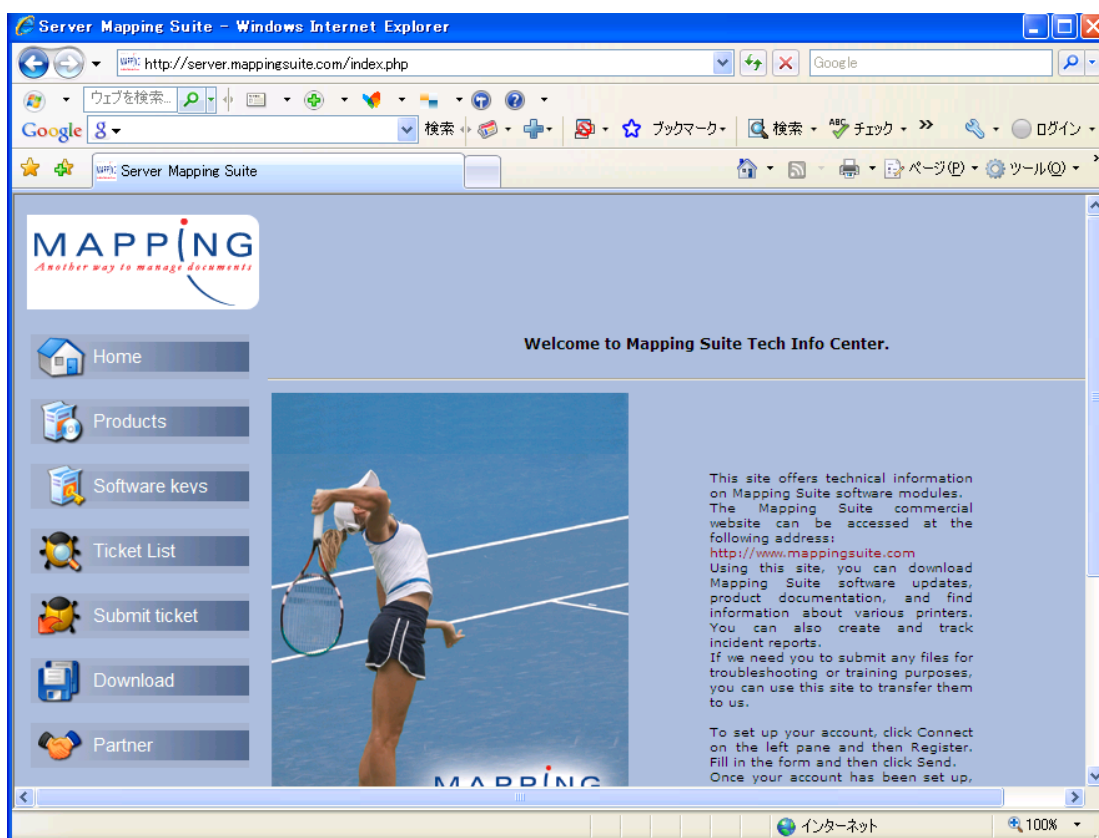


左側の「Connect」をクリックします。

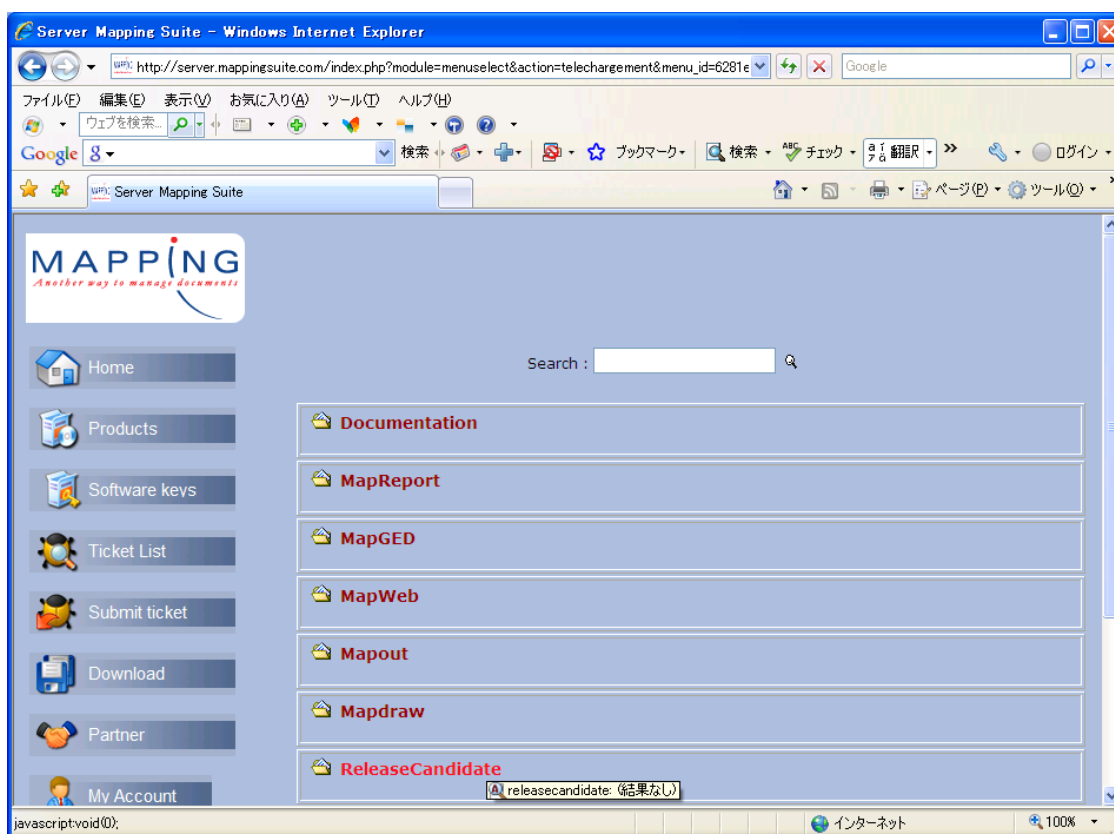
ログイン画面が表示されますので、あらかじめ Mapping 社からメールで通知されたユーザー名とパスワードでログインします。



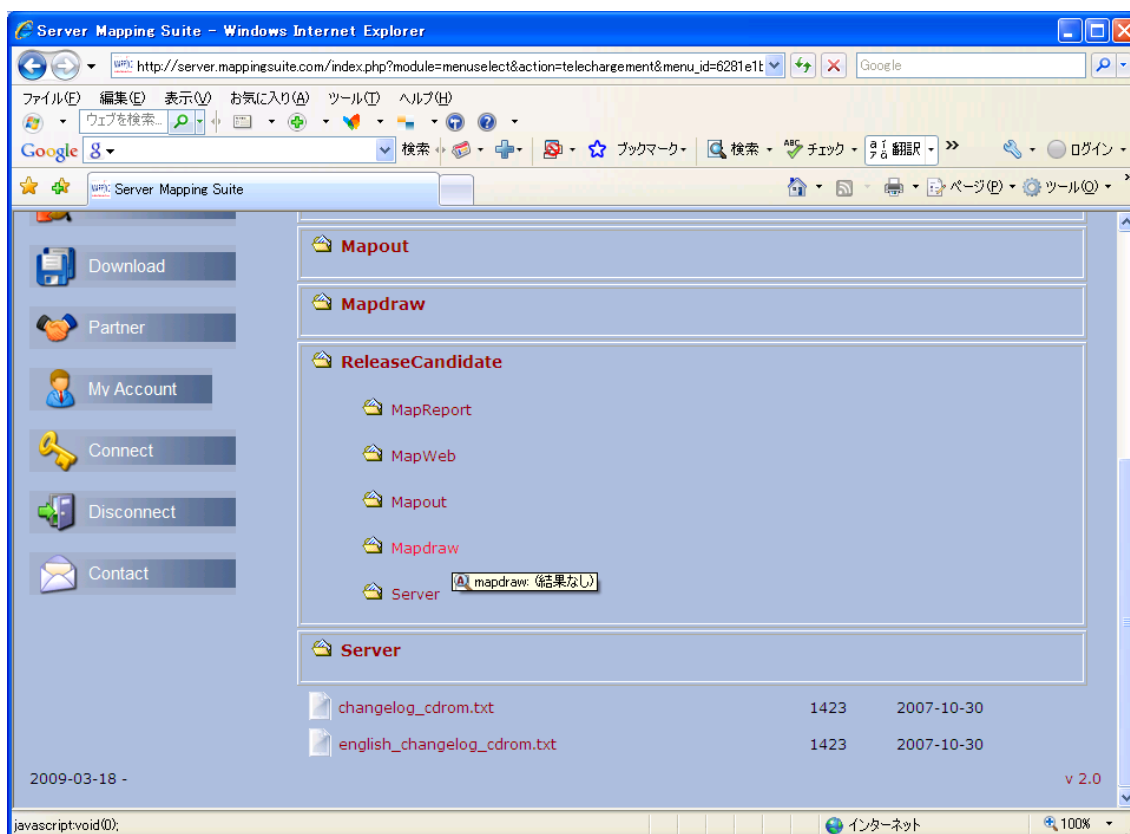
ログイン後の画面です。



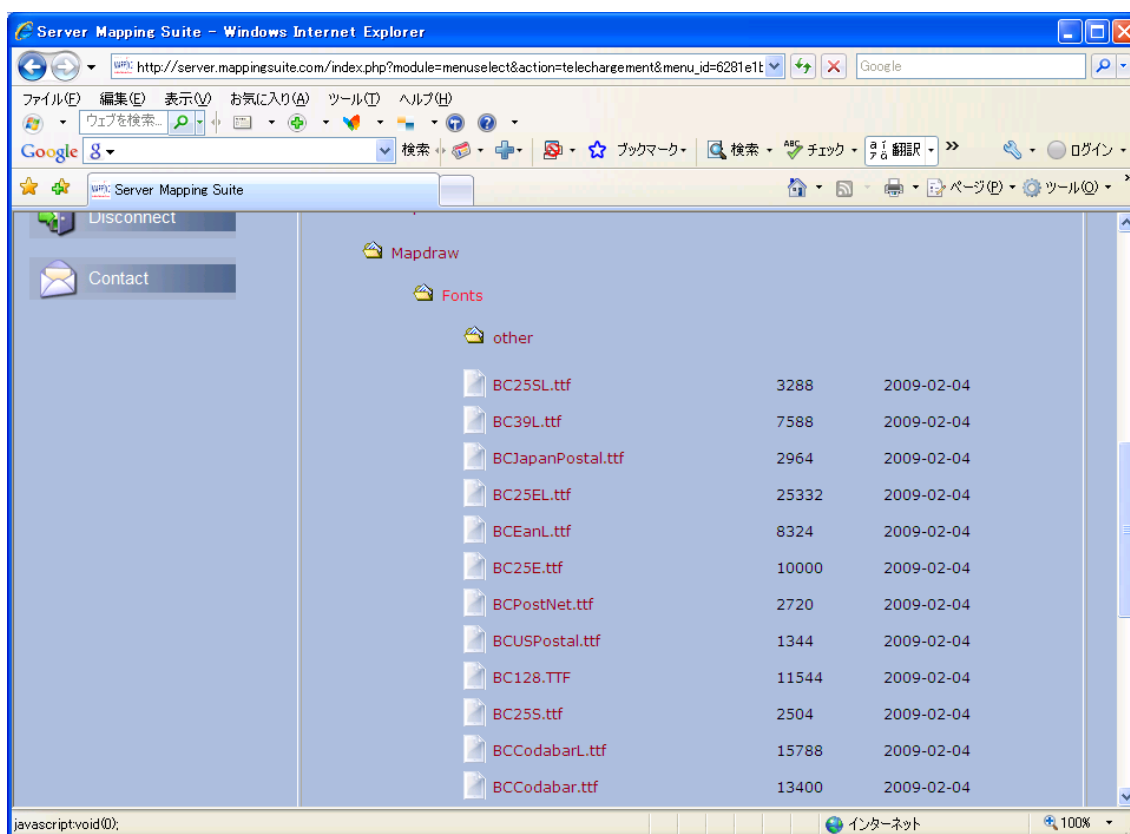
左側の[Download]をクリックします。



[ReleaseCandidate]をクリックします。

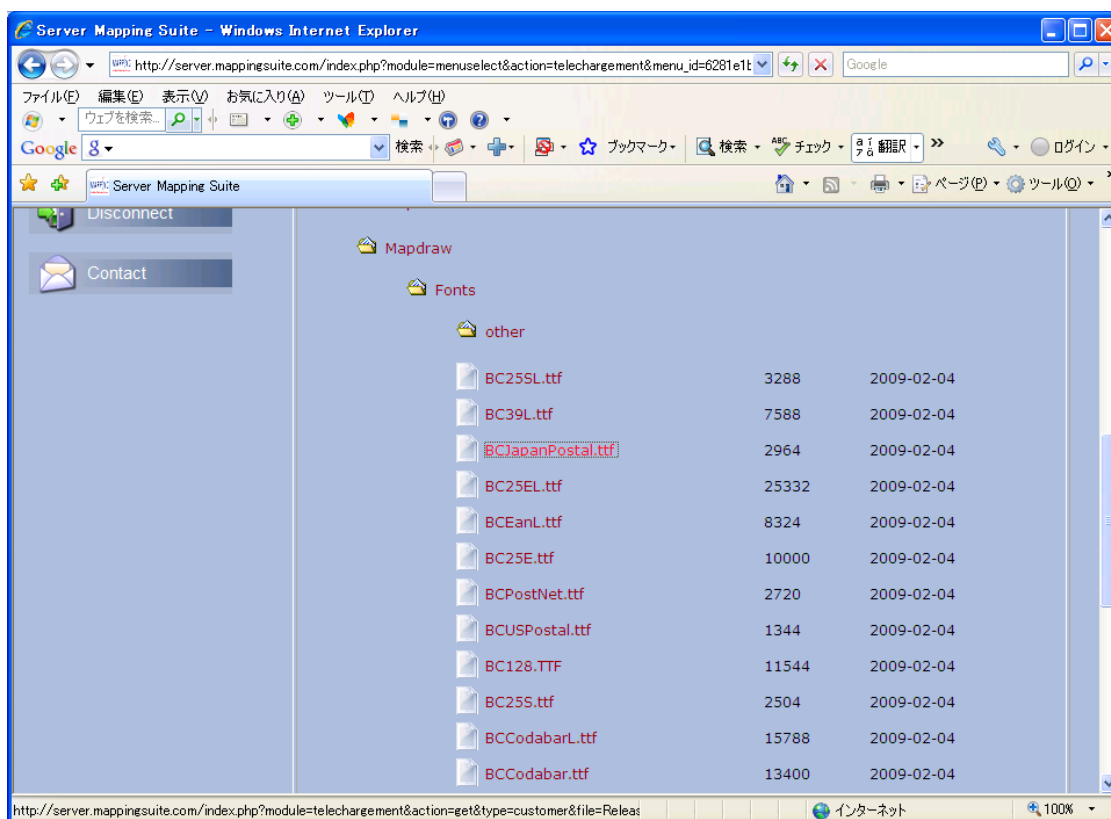


[Mapdraw]をクリックします。



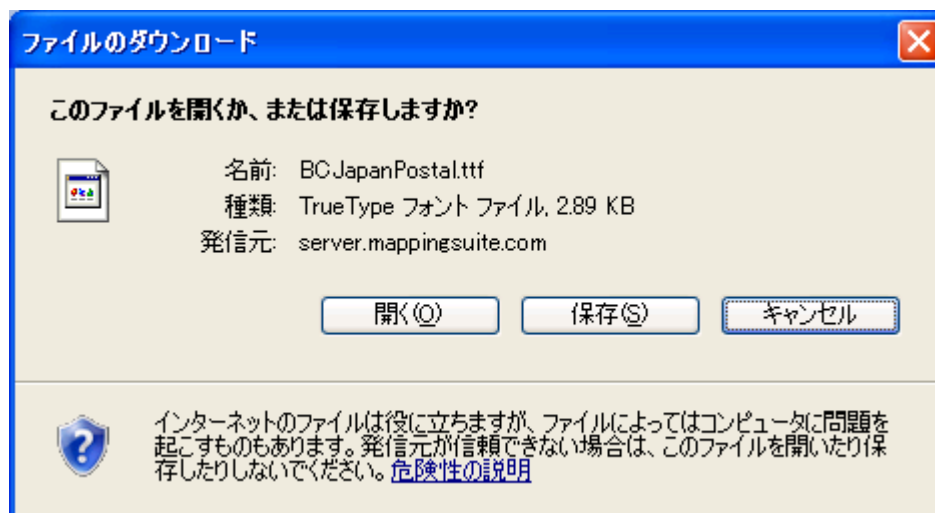
[Fonts]をクリックします。バーコード・フォントの一覧が表示されます。それぞれのフォントをクリックしてダウンロードしてください。

例として「BCJapanPostal.ttf」をダウンロードします。



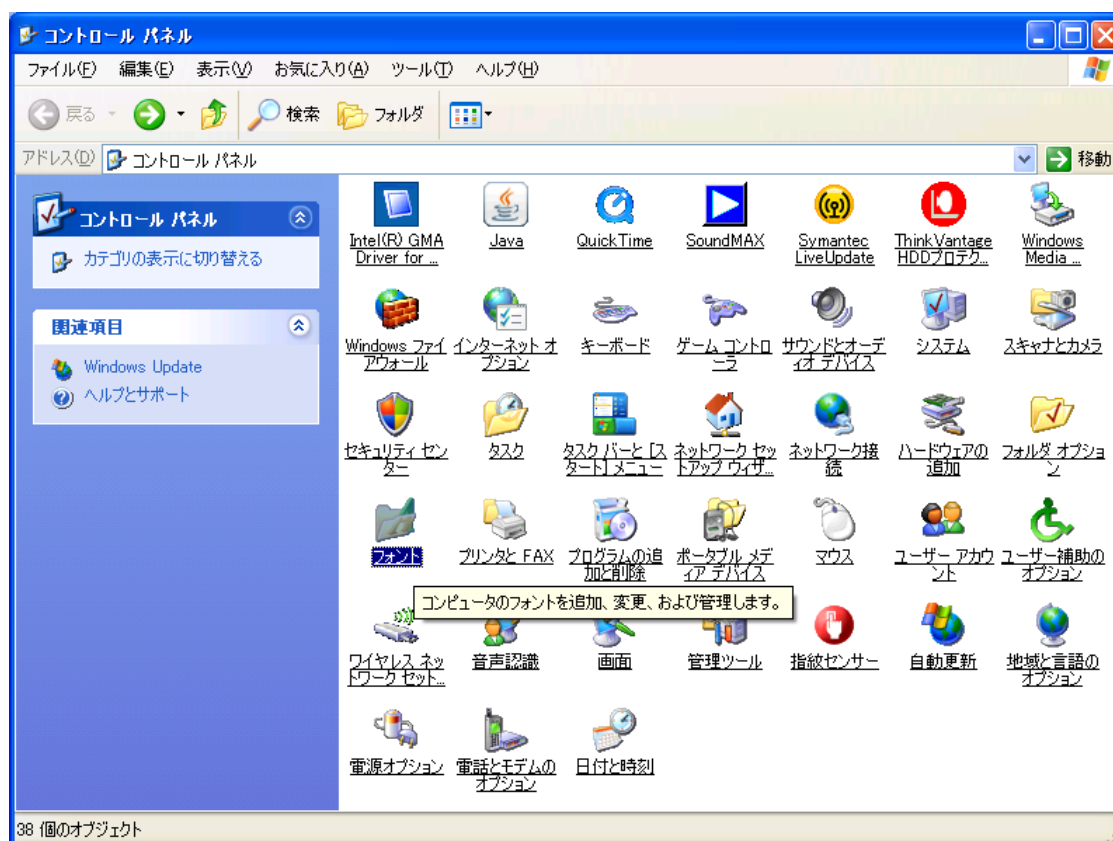
[BCJapanPostal.ttf]をクリックします。

ファイルのダウンロード画面が表示されます。[保存]ボタンを押してダウンロードを開始します。



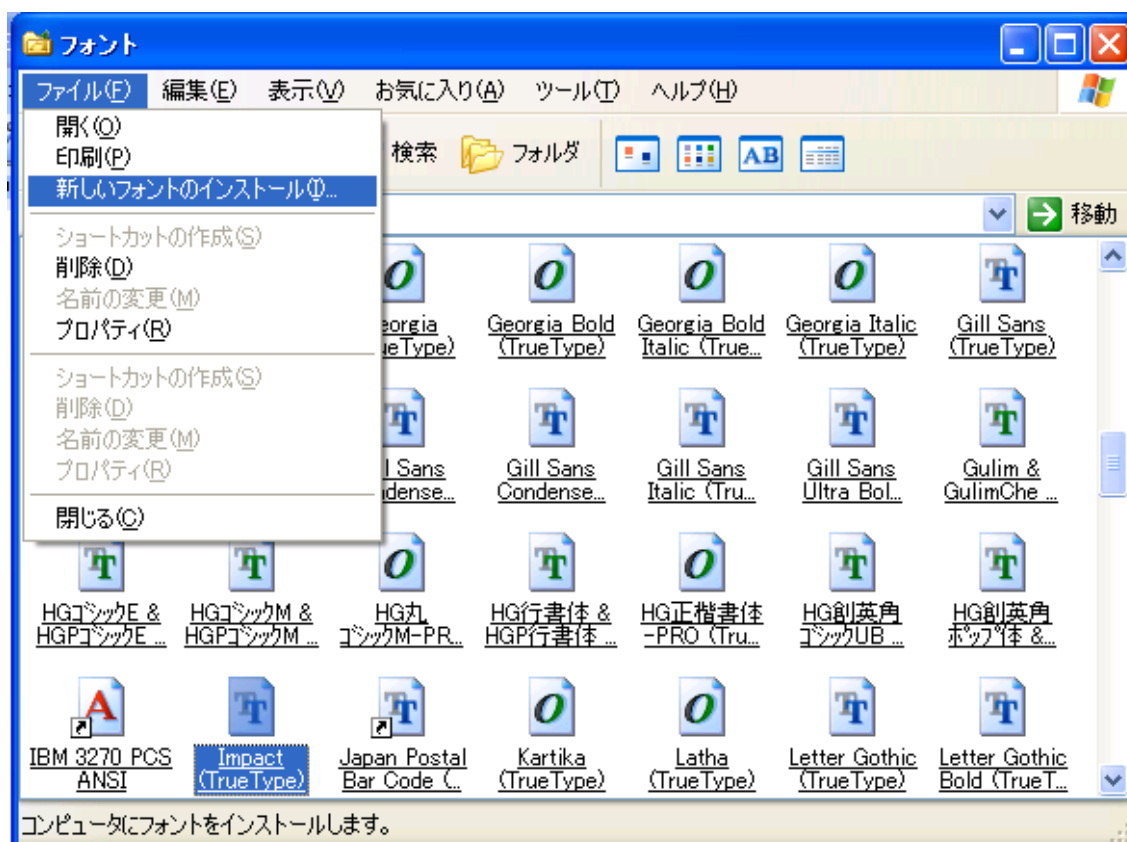
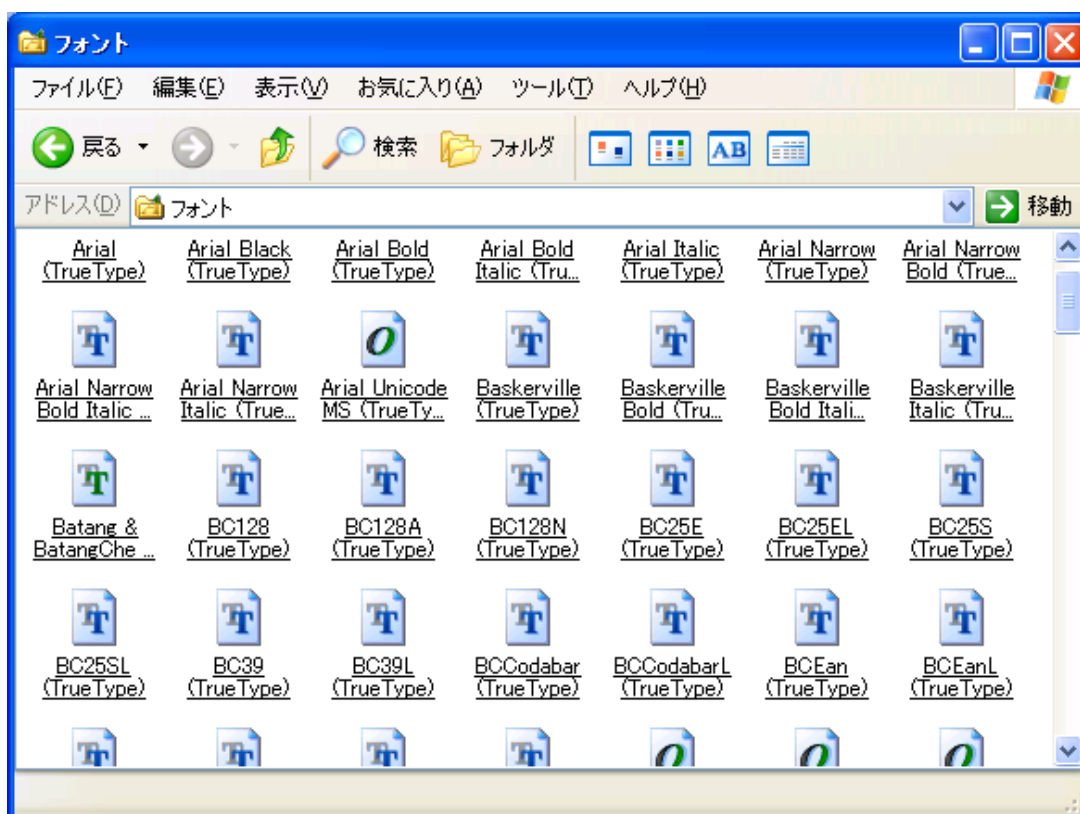
ダウンロード完了後、Windows にフォントをインストールする必要があります。
以下の手順でインストールしてください。

Windows のスタート・メニューから[コントロールパネル]を選択してください。



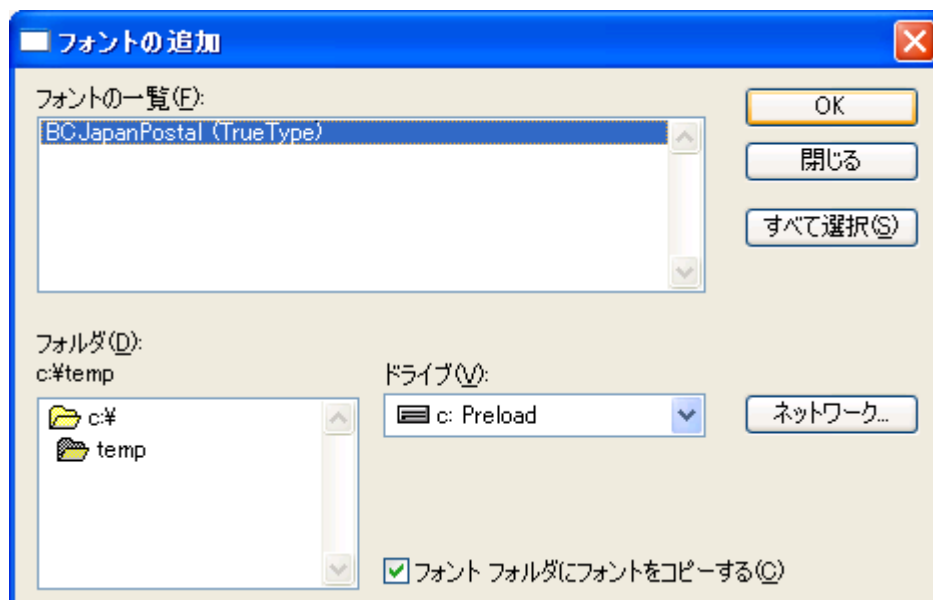
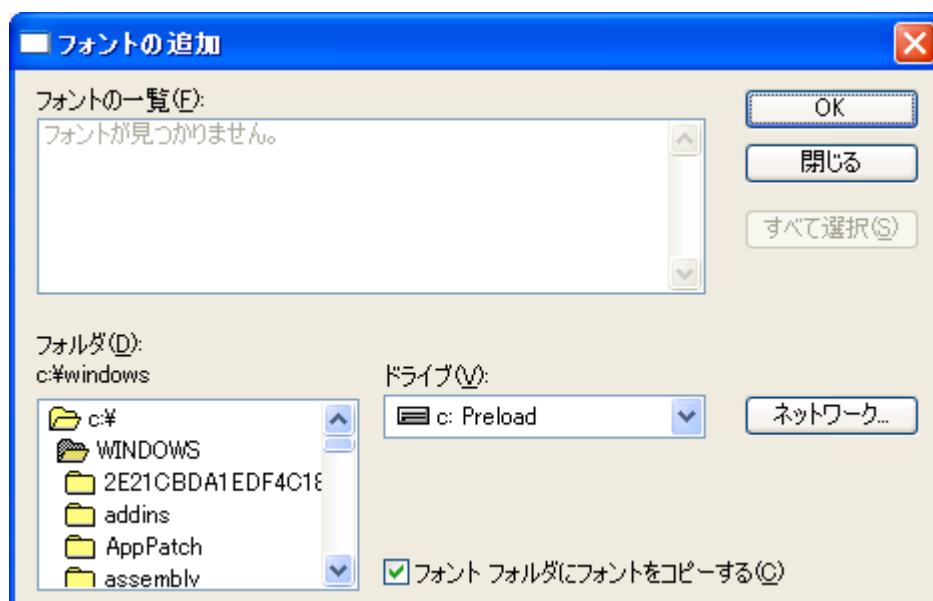
[フォント]をクリックします。

フォントリストが表示されます。



[ファイル]メニューから[新しいフォントのインストール]を選択する。

フォントの追加画面が表示される。



ダウンロードしたフォントが格納されている、「ドライブ」と「フォルダー」を指定します。(ここでは、C ドライブの temp フォルダーを指定しています。)

フォント一覧にダウンロードしたフォントがリストアップされます。

確認後、「OK」ボタンを押します。

これで、フォントがインストールされました。